

二〇二三年(令和五年)三月

東京阿部家資料

文書編(13)

福山市教育委員会

目次

凡例

『奏者番心得九冊物』二卷について

『奏者番心得九冊物』二卷

御三家之部一	1
御三家使者並家臣之部二	23
松平加賀守之部三	42
喜連川之部四	58
松前之部五	66
吉川左京部六	68
山村甚兵衛千村平右衛門之部七	74
米良主膳部八	77

加藤図書助部九	79
長岡帶刀之部十	80
本多内蔵助部十一	83
御門跡方部十二	85
両本願寺部十三	93
増上寺部十四	104
寺社之部十五	113
挿入図	121

凡例

- 一 旧福山藩主阿部家（東京阿部家）より福山市に寄贈いただいた資料『御奏者番心得九冊物』の第二冊目を、「二巻」として翻刻・収録した。（第一冊目は「二巻」として既刊、第三冊目以降も順次刊行予定）
- 一 文書の収録については、原則として原文の形に添うように努めたが、内容に正確を期し、読者の便を図るため、次のように編集した。
 - 1 漢字の字体については、原則として新字体を用いた。別体・旧字・異字等はつとめて通行の表記に統一したが、そのまま用いたものもある。
 - 2 旧仮名遣い、および「方（より）」は、原文のまま記した。
 - 3 平出・欠字は省略した。
 - 4 誤字や当て字は原則原文のまま記し、行間に括弧で適切な文字を記した。
- 一 朱書・朱線については、灰色で表した。
- 6 読者にわかりやすくするため、読点（、）を付けた。
- 一 文中の図は、編集の都合上、巻末にまとめて掲載した。
- 一 本書の解説は、つぎの東京阿部家文書解説グループのメンバーに協力いただいた。

小林浩二 佐藤恭子 藤井和枝
- 一 本書の編集は、福山市経済環境局 文化観光振興部 文化振興課 まなびの館ローズコム 歴史資料室の鐘尾光世・桑田直美・向本啓二があたった。

『御奏者番心得九冊物』二巻について

本書『御奏者番心得』は福山藩主となつた阿部家代々に受け継がれた奏者番としての先例集である。全て揃っているものは「九冊物」と呼ばれ、その全九冊が揃つて福山藩阿部家には『御奏者番心得九冊物』として残されている。『御奏者番心得九冊物』の一冊目は「御奏者番系図一」「申合之部二」「相伴之順留三」が記録されており、昨年度翻刻・刊行した。

本資料は『御奏者番心得九冊物』の二冊目である。幕政上重要な一族家門・家格のある名跡・寺社への対応を先例集として、天和二年（一六八二年）から安永四年（一七七五年）までの事例を数多く収めている。將軍宣下・年頭年始・節句・冠婚葬祭・家督相続・初めての將軍謁見・病気の時などの・御祝・御礼の登城における城内での儀礼の服装・使用の部屋・献上物の種類・置く位置など、当番の奏者番がどう行動すべきか、どう行動したかを先例として記録している（図示もあり）。

次年度以降も引き続き全九巻の「奏者番心得」を翻刻・刊行していく予定である。



御奏者番心得九冊物 二卷

御三家

一 御礼日其外御登城之節同役之内御逢可被成由被仰越候節当番
隙入候得者誰成共罷越懸御目候御書付二而茂御渡被成候得者

年寄共を以可申上段御挨拶申上候

右御書付当番方御用番江御同朋頭を以差出候尤右御答ハ無之
候

但當時肝煎罷越候

一 御老中御部屋二而被懸御目候節者先達而罷越年寄共罷出候段

申上候而桜之間障子之方被披申候

但老衆自分二而御部屋江御越候儀も有之候其節ハ御案内不

申上候事依之其度々御同朋頭江掛合可申事

一 御白書院御縁類二而御老中御逢候節者御部屋江者御目付衆御

案内被申候様申達桜之間中程二罷在御部屋方御出ヲ見候而西

之御縁類迄罷越御三家御出之段御老中江申溜リ江廻リ罷在候

御老中御送り候故此方ハ送り不申候

一 三家方使者御月番御退出前二而も時二寄御差凶次第当番懸御

目候

御三家之部一

御三家使者並家臣之部二

松平加賀守之部三

喜連川之部四

松前之部五

吉川左京部六

山村甚兵衛千村平右衛門之部七

米良主膳部八

加藤図書助部九

長岡帯刀之部十

本多内蔵助部十一

御門跡方部十二

両本願寺部十三

増上寺部十四

寺社之部十五

一 上使被遣候御礼可有御登城節御老中御退出刻二成候ハ、相殘懸御目可申哉伺候

一 此方懸御目候得者御目付衆江申談御白書院江御出被成候様二申達御着座之所江參掛御目候、月番退出二候得者年寄共致退出候故御側之者を以可申上段御挨拶申候、御送り申候節者御先立桜之間麝香之絵之御杉戸之内迄二而大廊下江者出不申候、御書付にても御渡候得者是又御側之者を以可申上段申上候

一 此方掛御目候節御月番御退出前二候得者御月番江申上御退出二候得者奥之坊主を以御側衆江可懸御目段申達中之間二罷在被出次第御三家御挨拶之趣申達候御書付二而も御渡候得者是又差出候

一 御座之間江御通り有之節西湖之間迄被成御通候時者御部屋方者御目付衆御案内申竹之間御廊下中程より少シ上二居り此方御先立いたし御黒書院御下段角ト之柱之御障子明ケ内江御通被成候得者其跡立候而其向御縁通り之脇障子ヲ後ニいたし相濟候迄罷在、御出之時又致御先立御黒書院溜り御杉戸之内敷居際二罷在御挨拶有之候

正徳二年五月廿五日 当番 三浦壱岐守

一 尾張殿舎弟松平求馬御礼之節久世大和守殿江相伺候処松平但馬守通り与被仰聞候四品之格二相濟候

寛保元年九月朔日 当番 松平備中守

一 紀伊殿御次男松平春千代御三男松平孝三郎御礼之儀侍従之格二可相心得旨松平左近將監殿被仰聞候

寛保二戌年十二月十五日 当番 朽木土佐守

一 躑躅之間尾張殿家老竹腰志摩守江先年差上被置候八丁堀御屋敷御願之通返し被下旨被仰渡候事

延享二年三月廿九日 当番 松平豊後守

一 御三家方於竹之間御饗応有之御座敷奉行無之節御老中御使二御出候節只今迄御案内申候儀無之候得共向後者御案内致候様同役何も可申合旨中務殿退出之節被仰聞旨廻状二申来候
一 御饗応二而竹之間江御通り之節者是又御迎桜之間迄罷越竹之間迄致御先立候、御着座候得者雁之間脇張附障子之所二罷在候若年寄衆被出候得者芙蓉之間江引罷在候但當時者細廊下角迄罷出候

延享二丑年二月廿五日

当番
松平豊後守

一 御三家方於竹之間御饗応有之御座席奉行無之節御老中為御使

被出候時分只今迄御案内申候儀無之候得共向後者当番致案内

候様二同役何茂可申合旨中務大輔殿退出之節被仰聞候

宝曆二申年三月廿八日同役中江土佐殿為心得被相渡候書付

一一 昨廿六日当番之節相模守殿被仰聞候者惣而御礼過御三家方

何之御礼事二而御居残被成候砌其段当番方早速申上候様二可

致候、近頃者見合罷在御尋を相待差扣候様子二候間以来ハ御

尋を不相待御居残候段早速可申上候何レも一統二申合置候様

二との儀仰二御座候故奉得其意候段申達候、夫二付此間申談

候通り御三家方御参府之御礼御暇之節不時之御礼衆も有之候

得者当番者山吹之間一同之披露相勤候二付遅キ儀も可有之候

哉其外問二合兼可申節者肝煎之者仕廻次第右之儀心懸候様二

可致候則其段相模守殿江茂咄申置候

右之趣書付懸御目候以来右之通御心得可被成候以上

申三月廿八日 朽木土佐守

延享四年七月廿八日

当番
小出伊勢守

一 水戸殿御舍弟松平主税御礼之節堀田相模守殿江相伺侍従之格

二 披露

寛延元年九月十五日

当番
青山因幡守

一 尾張殿御次男松平勇之助御三男松平幸之允御礼之節堀田相模

守殿江相伺侍従之格二披露

一 明和二西正月廿八日尾張殿并御嫡熊五郎殿御下之御部屋屏風

仕切二而御出候右之所江老衆揃後被出候大目付衆者不被出候

間当番も御跡方不相越候

一 御黒書院二而熊五郎殿御内稽古有之当番芙蓉之間二罷在候

明和二西年二月十九日

当番
土井大炊頭

一 今日尾張熊五郎殿元服二付老衆五半時登城当番五時登城寺社

奉行同断

但非番者不及罷出

一 老衆登城之節当番例之通中之間江罷出老衆揃後御同朋頭を以

今日熊五郎殿元服二付麻上下着用之儀相伺麻上下着替候事

一 右近將監殿躑躅之間二而御三家方方今日之御祝儀被差上使者

献上物も有之当番例之通出席夫方老衆奥江御入候与当番八大

目付衆申合候而平服二着替被申候老衆者退出迄麻上下着用被

致候

一老衆御用番者熨斗目麻上下非番老衆ハ服紗麻上下西丸老衆ハ

熨斗目半麻上下若年寄衆ハ不殘熨斗目半麻上下大目付衆御目

付衆ハ昨日伺之上服紗麻上下被致着用候尤表向者平服

明和二酉九月朔日

当番
加納遠江守

一紀伊中將殿舎弟松平榮三郎御礼之節御奏者番披露初而御目見

申上候旨老中言上上意有之老中御取合申上之退去

一右京大夫殿江相伺候処侍從之格二相心得着座無之旨被仰聞其

通り相濟申候

一御太刀者御敷居之内下方壹疊目之下置之

一先達而御三家方御二男御目見之節内稽古老衆被見候事有之二

付当番遠江殿以常阿弥被伺候処不及其儀旨右京大夫殿被仰聞

候二付例之通於御黒書院稽古有之其節紀伊中將殿ニも御出礼

前溜御障子之方二御附御出候間月次之御礼相濟候与御床之方

御附御出候様肝煎越中守御直二被申上候

一御三家方御舎弟御末子并松平加賀守末子事松平内蔵頭殿松平

主税頭殿前無官之節侍從之格式也

例

正徳二辰年五月廿一日

当番
三浦壹岐守

一尾張殿舎弟松平八三郎松平喜子進御礼之節井上河内守殿江

相伺候從之格二披露有之候

元文四己未年二月十五日

当番
朽木土佐守

一今日松平秀之助新知之御礼申上候付披露之義如何可相心得哉

と玄阿弥を以相伺先格之義御尋候ハ、元文三年ノ五月十五日

松平左京家督之御礼之節中務殿江相伺候從之格二披露相濟候、

享保十七年子ノ六月十八日松平但馬守家督之御礼之節侍從之

格二相濟尤其月御礼二出候故兩度御前江罷出候、今日秀之助

名代故着座之義ハ不申達候中務殿江申上候処御伺被成可被仰

聞旨被仰候由玄阿弥申候追付中務殿方玄阿弥を以秀之助披露

侍從之格二心得候様ニと被仰聞候其段進物番江茂申達候

右之通相濟申候

宝曆十四申年六月三日

当番
土岐美濃守

上使
松平右近將監
松平周防守

水戸宰相殿

右者少将殿江一條殿御息女御縁組被仰出候付被遣之

一右二付水戸少将殿為御礼御登城被成候者居殘可懸御目哉之右

京大夫殿江相伺候処可致其通旨被仰聞候付於御白書院御縁類
懸御目朽木大隅守江申達候

追而

一水戸殿御不快二付御出仕無之二付可懸御目哉之義伺不申候

尤被差上使者候由二御座候

明和二酉年十二月四日

当番
朽木土佐守

一明脱院殿江八代蜜柑被遣候二付為御礼從紀伊殿被指上使者於

躑躅之間伊予守殿御逢候当番例之通致出席尤廻り後別段伊予

守殿被出候事

明和三戌年十月十六日

当番
戸田采女正
水戸少将殿家老
結城美濃守

右御領分打続損毛其上当春御城下火員二付而御願之通金壹万

両御拜借被仰出之候此段可申上旨於芙蓉之間御老中列座右近

将監殿以御書付被仰渡之

追而

一結城美濃守江被仰渡候儀二付為御礼水戸殿御登城無之由承

り候間可掛御目哉之儀伺不申候

明和三戌年十一月廿九日

当番
加納遠江守
上使酒井石見守
尾張中将殿

右疱瘡為御尋被遣之

追而

一尾張中将殿江上使被遣候御礼尾張殿就御風氣御登城無之由

二付居殘之儀相同不申候

一尾張殿中将殿方右為御礼使者被指上候由御座候

明和三戌年二月廿日

助番
土井大炊頭
上使松平周防守
水戸少将殿

公方様
若君様方
同巨勢日向守

紀伊宰相殿

同

同北条安房守
尾張中将殿

同

同
同人
松平讚岐守

同

同筑紫宇兵衛
松平播磨守

同

同安部兵部
松平上総介

同

同北条安房守
松平兵部大輔

同

同筑紫宇兵衛
松平大學頭

同

同同人
松平雅樂頭

同

同安部兵部
松平大炊頭

右水戸殿就逝去被遣之

一右為御礼紀伊殿尾張中將殿御登城候者拙者掛御目其外為御礼
罷出候者謁可申哉与右近殿江以三阿弥相伺候処可致其通旨被
申聞居残尾張中將殿江於御白書院御縁頼掛御目且從若君様茂

御尋之御礼茂被仰上之金田遠江守江申達候

一紀伊殿二者御不快故御登城無之被指上使者候由二御座候

一八打右近殿以三阿弥断二而御座候拙者義尾張中將殿江懸御目

七半時前罷出候其外七時迄不被出候以上

明和四亥二月十五日

助番

土岐美濃守

尾張中納言殿

同 中將殿

右御対顔中將殿被留御袖候付御手自御熨斗匏被遣之

一尾張殿御父子御先立肝煎采女殿被致候溜詰之次御敷居際江被

披候

但例者溜詰着座二候得者御障子之方江披候得共水戸殿御着

座二付右之通被披候事

一水戸殿二者例月次之通御黒書院二而御対顔二付廻状二右之趣

可指出哉と同役衆江及相談候処先格無之二付不及差出旨被申

聞候付差出不申候

明和四亥年正月十一日

一御三家之家老江於芙蓉之間御縁頼奉書計御渡之節出張罷在候

儀猶又土佐殿江加遠江殿聞合候処前方右近將監殿御三家奉書

相渡二八都而出席之旨御覺二有之二付罷出候方可然旨被仰聞

候二付土佐殿二而者被出候旨被申聞候段遠江殿被申聞候

明和四丁亥年五月十五日

当番
土井大炊頭

一尾張殿江御使被仰出候二付尾張中將殿御白書院西御縁頼老衆

御逢御礼被仰上候

明和四亥年閏九月十五日

当番
牧野越中守

一尾張殿尾張中將殿二者就御膝中不被差上使者候

明和四丁亥年十一月廿七日

当番
遠藤備前守

上使土屋丹後守
紀伊宰相殿

右八代蜜柑被遣之

上使神保備前守
水戸中將殿

右御鷹之鶴被遣之

一右為御礼紀伊殿水戸殿御登城候ハ、居残御番之者猶又御居残

周防守殿江可相同之旨右京大夫殿江相同候処可致其通之旨被

仰聞候付丹波殿江申達置候

但今日遠御成二付丹波殿居残為御番被罷出候処御残御老中

周防守殿紀伊殿水戸殿為御礼御登城之節於御白書院西御縁

頼被懸御目候

明和五子年三月三日

当番
大岡兵庫頭

紀伊殿家老
加納大膳

右於芙蓉之間右京大夫殿御書付御渡候当番致出席候

寛保三亥年九月四日

当番
松平紀伊守

明日水戸殿御前髮御執候付御出仕有之候旨中務大輔殿被仰聞

候依之御同人登城之刻限承候処例刻可有御出由被仰聞候

同五日

当番
戸田右近將監

上使松平伊豆守
水戸宰相殿

右者被執御前髮候付被遣之

御刀 備前国真長

水戸宰相殿

代金十枚

右御出仕於御座之間右大將様御対顔御手自被遣之公方様少之

御風氣二付御対顔不被遊候由

追而

一今日衣服之儀先月十一日直松殿御七夜二付紀伊殿御父子御登

城之節当番松紀伊守殿平服二而罷在候今日も其通平服二而可

有罷在哉与中務大輔殿江以順阿弥申達候処致其通候様被仰聞
候付平服二而罷在候

延享五辰年五月十一日

二種一荷

一種一荷

右中将殿前髮被執候付被遣之

御刀 三原
代金拾五枚

右前髮被執候付而於御座候間御対顔御手自被進之候由

尾張中納言殿

右同断付於同所御対顔

追而

一今日衣服之儀前々之通平服二而罷在候

但前日御沙汰無之

宝曆十一巳年三月十五日

二種一荷

一種一荷

右中将殿前髮被執候付被遣之

御座之間
御刀 備前盛光
代金十五枚

右前髮被執候付御対顔御手自被遣候之由 紀伊中納言殿

右就同断御対顔

但前日御沙汰無之

明和四亥年八月十六日

二種一荷

右就被執前髮候被遣之

御座之間

御刀 備前康光
代金十枚

右就同断御対顔御手自被進候由

追而

一今日着服之儀前々之通平服二而罷在候

但前日御沙汰無之

一西丸当番越中殿方今日水戸殿西丸江御登城之節謁之儀佐渡

守殿江伺可有之哉且水戸殿被差上物之儀九打候ハ、謁候而

奥廻り二可致哉之段当番江問合来候土佐殿盛阿弥迄佐渡守

紀伊中将殿

助番

松平紀伊守

上使松平右近將監

尾張中将殿

同 同 人

尾張中納言殿

尾張中将殿

水戸中将殿

当番

朽木土佐守

上使松平周防守

水戸中将殿

当番

黒田大和守

上使井上河内守

紀伊中将殿

同 同 人

紀伊中納言殿

殿見廻り之儀懸合被申候処見廻り無之旨申候依之伺不申盛

酒井雅楽頭
本多伯耆守

尾張中納言殿

阿弥迄水戸殿御登城候ハ、直二懸御目被差上物之儀者九時

右者尾張殿御息女上杉大炊頭江御縁組被仰出候付今朝被遣之

迄見合例之通謁可申旨土佐殿被咄置相濟候

一右二付尾張殿同中将殿為御礼御登城御白書院西之於御縁頼御

明和五子年八月十九日

助番
戸田長門守

老中被懸御目候

二種一荷

上使阿部伊予守
尾張中將殿

上杉大炊頭

一種一荷

同 同 人
尾張中納言殿

右者尾張殿御息女縁組被仰付旨於御白書院御縁頼御老中列座

同断

同 同 人
好君御方

相模守殿被仰渡之

右中将殿前髮就被執候被遣之

寛延二巳年三月六日

当番
井上遠江守

御座之間

上使
松平右近將監

御刀 備後国正興
代金十五枚

尾張中將殿

尾張中納言殿

右前髮被執候付御対顔御手自被進候由尾張中納言殿右同断二

右者尾張殿御息女松平薩摩守江御縁組被仰出候付今朝被遣之

付御対顔

一右二付尾張殿同中将殿為御礼御登城於御白書院西之御縁頼御

追而

老中被懸御目候

一今日着服之儀前々之通平服二而罷在候

松平薩摩守

但御案内当番平服御届無之

名代
松平隠岐守

延享三寅年十二月十九日

当番
永井伊賀守

右者尾張殿御息女縁組被仰付旨於御白書院御縁頼御老中列座

上使

相模守殿被仰渡之

宝曆三酉年七月四日

当番
金森兵部少輔

上使 酒井左衛門尉
松平右近將監

紀伊大納言殿

右者御息女松平加賀守江御縁組被仰出候付今朝被遣之

一右二付紀伊殿紀伊宰相殿為御礼御登城於御白書院西之御縁類

御老中被懸御目候

松平加賀守

右紀伊殿御息女縁組被仰付之旨御白書院御縁類御老中列座相

模守殿被仰渡之

宝曆四戌年三月四日

当番
朽木土佐守

紀伊中納言殿家老
岡野伊賀守

右者紀伊殿御息女松平播磨守江御縁組御願之通被仰出之候此

段可申上旨於芙蓉之間御老中列座右近將監殿被仰渡之

一右為御礼紀伊宰相殿被成御登城被成候ハ、拙者可懸御目哉と

御同人江相伺候処可致其通旨被仰聞候付居殘於御白書院御縁

類懸御目菅沼織部正江申達候

松平播磨守

右者紀伊殿御息女縁組被仰付之旨於御白書院御縁類御老中列
座御同人被仰渡之

追而

一紀伊殿御病氣御出仕無之旨二付可掛御目哉之儀ハ退出之節

伺不申候且御息女御縁組之御礼御同人方被差上使者候由二

御座候

宝曆七丑年三月五日

当番
内藤大和守

尾張中納言殿家老
織田周防

右者尾張殿御息女松平安芸守嫡子差次郎江御縁組御願之通被

仰出之候此段可申上旨於芙蓉之間御老中列座伯耆守殿被仰渡

之

一右為御礼尾張殿尾張宰相殿御登城被成候ハ、拙者可懸御目哉

与御同人江相伺候処可致其通旨被仰聞候付居殘於御白書院御

縁類懸御目水上美濃守江申達候

松平安芸守

名代
松平兵部少輔

右願之通尾張殿御息女嫡子差次郎江縁組被仰付之旨於同席御

老中列座御同人被仰渡之

宝曆八寅年二月三日

当番
本田長門守
上使 松平右近將監
西尾隱岐守

右者御息女松平勝五郎江御縁組被仰付候付今朝被遣之

紀伊中納言殿

一右二付紀伊殿紀伊中將殿為御礼御登城於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

松平勝五郎

名代
松平撰津守

右紀伊殿御息女縁組被仰付之旨於御白書院御縁類御老中列座相模守殿被仰渡之

宝曆九卯年十二月四日

当番
酒井飛驒守
上使 松平右近將監
西尾隱岐守

紀伊中納言殿

右御息女松平仙之助江御縁組被仰出候付今朝被遣之

一右二付紀伊殿紀伊中將殿為御礼御登城於御白書院西之御縁類

御老中被懸御目候

松平仙之助

名代
松平大和守

右紀伊殿御息女縁組被仰付之旨於御白書院御縁類御老中列座

右京大夫殿被仰渡之

宝曆十一巳年十月廿七日

当番
牧野越中守
上使 井上河内守
松平右京大夫

紀伊中納言殿

右御妹讚岐守嫡子松平兵部大輔江御縁組就被仰出候今朝被遣之

一右二付紀伊殿紀伊中將殿為御礼御登城於御白書院西之御縁類御老中被懸御目候

松平讚岐守

右紀伊殿御妹嫡子兵部大輔江縁組被仰付之旨於御白書院御縁類御老中列座但馬守殿被仰渡之

明和元年九月廿三日

当番
仙石越前守
尾張中納言殿家老
竹越山城守

右尾張殿御妹女播磨守嫡子松平雅楽頭江縁組御願之通被仰出

之候此段可申上旨於芙蓉之間御老中列座右京大夫殿被仰渡之

一右為御礼尾張殿被成御登城候ハ、拙者可懸御目哉と御同人江以常阿弥相同候処可致其通旨被仰聞候付居殘於御白書院御縁類懸御目水野豊後守江申達候

松平播磨守

右尾張殿御妹女嫡子雅樂頭江縁組被仰付之旨於同席御老中列座御同人被仰渡之

明和三戌年六月十九日

当番
久世出雲守

上使
松平右京大夫
阿部伊予守

尾張中納言殿

右者御妹女二条右大臣殿江御縁組被仰出候付今朝被遣之

同大久保豊後守

尾張中納言殿

同米津小大夫

水戸少將殿

右今朝巢鷹二候ハ、被遣之

一右為御礼尾張殿水戸殿御登城於御白書院西御縁類御老中被懸

御目候尾張殿二者両様之御礼被仰上之

一尾張殿江以上使御妹女御縁組被仰出候為御礼尾張中将殿二も

御登城於同席御老中被懸御目候

明和六丑年正月十六日

当番
土岐美濃守
尾張中納言殿家老
大道寺玄蕃

右者尾張殿御妹女松平安芸守江御縁組御願之通被仰出之候此段可申上旨於同席御老中列座右近將監殿被仰渡之

一右為御礼尾張殿御登城被成候ハ、拙者可懸御目哉と御同人江相同候処可致其通旨被仰聞候付居殘於御白書院御縁類懸御目巨勢伊豆守江申達候

松平安芸守

右願之通尾張殿御妹女縁組被仰付之旨於同席御老中列座御同人被仰渡之

追而

一尾張中将殿御不快二而御出仕無之付可懸御目哉之儀伺不申候尤被差上使者候由御座候

一右二付西丸当番長門守二も居殘候処此節御修復中二付先達而繪図面を以伺も相濟候儀二者候得共於殿上之間御下段懸御目候儀席違今日初而之儀二付御届申候而可然候ハ、無急度有之

段申達候様長門守方以直書申越候付右之段佐渡守殿江以盛阿
弥御届申達候処御承知之旨同人申聞候二付右之趣直書二申遣
候事

明和五子年十二月廿一日

当番
牧野豊前守

追而

一從尾張中将殿歳暮之御祝儀今日初而被差上之尾張殿御城附相
兼罷出候付披露之儀三阿弥江無急度相咄置御三家方尾張中将
殿方歳暮之御祝儀被差上候旨致披露候佐渡守殿出席之節も同
様二相济申候初而之儀故此段為御心得申進候

明和六丑年四月廿三日

銀三十枚

縮緬十卷

三種二荷

当番

松平能登守

上使阿部伊予守

水戸宰相殿

右御婚姻相济候付今朝被遣之

一右為御礼水戸殿御登城於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

明和三戌年十二月十三日

縮緬十卷

当番

仙石越前守

上使松平周防守

尾張中将殿

二種一荷
三種二荷

同 同人
尾張中納言殿
同 同人
好君御方

右中将殿一昨日酒湯御掛り候付被遣之

追而

一尾張殿江上使被遣候御礼御不快故御登城無之由二付居残之儀
相同不申候

但御三家方二者御不快二而出仕無之儀御城附出居慥二相
知候儀二付右之通居残之儀相同不申候事

元文三年十二月廿一日

当番

高木主水正

上使松平肥前守

尾張中納言殿

同 嶋津山城守

水戸中将殿

同 皆川山城守

紀伊中将殿

右八代蜜柑被遣之

一右為御礼尾張殿水戸殿紀伊中将殿御登城左近將監殿御差凶二
付居残於例席拙者懸御目小笠原石見守江申達之水戸殿去十八
日御鷹之鶴御拜領被成候御礼も被仰上御書付御渡被成候間石

見守江相渡申候

明和二酉年十二月四日

当番
朽木土佐守

上使松平市正
紀伊中将殿
同杉浦出雲守

水戸少将殿

一右八代蜜柑被遣之

一右為御礼紀伊殿水戸少将殿御登城候ハ、拙者可懸御目哉与伊

予守殿江相伺候処可致其通旨申聞候付居残水戸少将殿江於御

白書院御縁類懸御目御側衆江可申達之処御用有之難被出由二

付宝賀源七江申達置候、且外御礼事之御書付壹通被成御渡候

付是又同人江相渡置候

明和六丑年七月廿八日

当番
土井大炊頭

一尾張中将殿御礼過御居残先頃以上使御鷹之雲雀被遣候節就御

不快今日御礼被仰上之於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

同日

西丸当番
土屋能登守

尾張中将殿

右此間從御本丸以上使御鷹之雲雀被遣候為御礼御出仕於大広

間西御縁類兩人懸御目書付認佐渡守殿江以盛阿弥差出候

宝曆四戌年九月九日

当番
青山因幡守

一尾張宰相殿御礼過御居残先頃以上使御鷹中御尋之御礼被仰上

之於御白書院西御縁類隱岐守殿被懸御目候

明和六丑年九月十五日

当番
遠藤備前守

一水戸殿御礼過御居残先頃以上使御鷹中御尋之御礼被仰上之於

御白書院西御縁類御老中被懸御目候

明和四亥閏九月十六日

当番
牧野越中守

上使高井土佐守
尾張中将殿

右松平安芸守妻死去二付為御尋被遣之

明和四亥年十二月九日

当番
松平丹波守

尾張中納言殿家老
竹越山城守

右尾張殿御願之通御居屋敷地狭二而御中屋敷御同居難被成二

付為添地御屋敷西之方二而二万四千七百四十三坪被遣之御堀

端御屋敷之内四千二百九坪并四谷大久保御屋敷可被差上旨被

仰出候此段可申上旨於芙蓉之間御老中列座周防守以御書付申

渡之

明和四亥年十二月二日

当番
朽木土佐守

尾張中納言殿家老
竹腰山城守

右御領分打続御損毛二付御願之通金三万兩御拝借被仰出候此

段可申上旨於芙蓉之間御老中列座周防守殿以御書付被仰渡之

明和五子年三月二日

助番
大岡兵庫頭
水戸中将殿

右御礼前御内意之儀有之於御部屋御老中列座右京大夫殿被仰

渡之

但日光御社參之儀御内意之由

明和五子年三月廿七日

当番
牧野越中守
上使 松平右近将監
松平周防守

尾張中納言殿

同 阿部伊予守
紀伊中納言殿

同 同
水戸中将殿

右今朝被遣之

尾張中納言殿

同 中将殿

右万寿姬君様中将殿江御縁組之儀被仰出候為御礼御出仕於御

座之間御対顔御手自熨斗匏被遣之候由

紀伊中納言殿

水戸中将殿

就右御出仕於御座之間御対顔

一尾張殿尾張中将殿御居殘於御白書院西御縁頼御老中被懸御目

候其後於御部屋被懸御目候

明和五子年四月廿三日

当番
松平伊賀守

一今日

万寿姬君様江尾張中将殿方以竹腰山城守御結納御祝儀被差上
之大広間二飾之右近将監出座目錄請取之

御黒書院

御太刀一腰

尾張中将殿

縹紗廿卷

白銀三十枚

御太刀一腰

尾張中納言殿

縹紗廿卷

白銀二十枚

右御札相濟一同被出座中將殿江御盃被進御刀 正宗 代金二百枚 御脇差

備前景光 代金七十五枚 被進之夫方尾張殿江御盃被進御脇差 貞宗 代金七十枚 被進

之

水戸中將殿

右御結納相濟候為御祝儀御登城御対顔

一尾張殿尾張中將殿御札過於御白書院西御縁類御老中被懸御目

候

一水戸殿江御札過於御部屋御老中被懸御目候其後於西湖之間御

吸物御酒御祝有之於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

追而

一尾張殿御父子進物御家督御札之節之通大炊頭致肝煎候

一右御父子御道具被拜領西湖之間二而御差替其節老人罷出居御

世話可仕旨一昨日右近將監土佐守江申聞候間其通相濟申候尤

土佐守罷出候

延享三寅年二月廿五日

当番 増山禪正少弼

上使内藤出雲守 紀伊宰相殿

同松平日向守 尾張中將殿

右御拳之雉子二ツ、被遣之

一右為御札宰相殿中將殿御登城候ハ、居殘拙者可懸御目哉と相

模守殿江相伺候処其通可致旨被仰聞候付於御白書院御縁類懸

御目阿部志摩守江申達候

紀伊大納言殿

右者宰相殿江御拳之雉子被遣候為御札御出仕右於同席懸御目

是又同人江申達候

寛延三年三月十三日

御拳之雉子二

右被遣之

一右為御札紀伊殿御登城被成候ハ、拙者可懸御目哉と伯耆守江

相伺候処其通可致旨申聞候付居殘於御白書院御縁類懸御目水

野河内守江申達候

宝曆三酉年四月廿六日

当番 青山因幡守

上使佐野右兵衛尉 紀伊大納言殿

右御拳之鷄三ツ、被遣之

同齋藤撰津守 水戸宰相殿

一右為御礼紀伊殿御登城被成候ハ、可懸御目哉と隱岐守殿江相
伺候処其通可致旨被仰聞候付居殘於御白書院御縁類拙者懸御
目小堀土佐守江申達候

追而

一水戸殿御病氣御出仕無之付可懸御目哉之儀退出之節伺不申
候

一御同人被差上使者候由候得共居殘之内使者不罷出候先格使
者江八居殘不申候付出候ハ、被謁候様御目付衆江申達候

明和四亥年十一月三日

御拳之雁一

同断

同断

右被遣之

一右為御礼紀伊殿水戸殿尾張中将殿御登城候ハ、拙者可懸御目
哉と右京大夫殿江以三阿弥相伺候処其通可致旨被仰聞候付居
殘於御白書院御縁類懸御目松平肥前守江申達候

明和六丑年三月十九日

当番
太田備後守

御拳之雉子二

上使神保備前守
尾張中納言殿

右被遣之

一右為御礼尾張殿御登城候ハ、拙者可懸御目哉与伊予守殿江相
伺候処其通可致旨被仰聞候付居殘於御白書院御縁類懸御目水
野山城守江申達候

明和五子年五月朔日

当番
牧野越中守

尾張中納言殿

水戸中将殿

尾張中将殿

右於御座之間大納言様御対顔其已前於御部屋御対顔可被遊旨
御老中列座佐渡守殿被仰述之

但入御相济御錠之口メリ御座敷拵も相济御目付衆御案内被
申当番竹之御廊下方例之とく西湖之間迄御案内、御三家

中将殿御通二付御対顔相济候迄非番同役茂兩人罷越当番頭
二罷在非番之同役ハ相济迄芙蓉之間二罷在候、御送りも当

番如例

明和五子年八月十日

当番
太田備後守

公方様
大納言様江
上使土屋丹後守
水戸中将殿

右鎌倉英勝寺死去二付御朦中為御尋被遣之

明和五子年十二月五日
御座之間
御太刀一腰
縮緬十卷
銀三十枚
御馬一疋栗毛

当番
太田備後守

任官之御礼
水戸宰相殿

一水戸殿御礼過御居殘於御白書院西御縁頼御老中被懸御目候
一水戸殿使者江於躑躅之間周防守殿口宣之奉書御渡候

明和六丑年三月七日
当番
本田豊後守

一尾張中将殿江今日歳暮之御内書初而御渡尾張殿御城附兼罷出
候佐渡守殿奉書御渡候節茂同様相濟申候初而之儀故此段為御
心得申進候

明和六丑年四月十七日

当番
太田備後守
上使阿部伊予守
尾張中納言殿

同 同人
紀伊中納言殿
同松平右京大夫
水戸宰相殿
同阿部伊予守
尾張中将殿

右者去年御内意被仰出候日光御社参之儀来ル辰年四月可被遊
御社参旨被仰出候付被遣之

明和六丑年四月十八日

当番
牧野豊後守

紀伊中納言殿
水戸宰相殿
尾張中将殿

右来ル辰年四月日光山御社参被仰出候為御祝儀御出仕於御座
之間御対顔右同断之節予参被仰付其已後為御礼於御黒書院溜
御老中被懸御目候

但御座之間江御通り之節当番御案内如例、御三方二付同役
二人罷越当番之次二罷在候外同役ハ芙蓉之間二罷在御黒書
院溜リ江御案内左之通

「 函 ① 」

明和六丑年四月廿三日

当番
松平能登守

銀三十枚

上使阿部伊予守
水戸宰相殿

縮緬十卷

三種二荷

右御婚禮相濟候付今朝被遣之

一右為御礼水戸殿御登城於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

明和六丑年四月廿八日

御座之間

助番
内藤大和守

縮緬十卷

婚姻之御礼
水戸宰相殿

御太刀馬代金二枚

一水戸殿御礼過御居殘於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

但当番如例西湖之間江致御案内候

一御三家御舍弟御二男無官之間者五節句月次溜詰之次江罷出御

礼官位被仰付候以後大広間席

但尾張殿御舍弟松平求馬者帝鑑之間席江罷出

明和八卯年六月六日

当番
松平能登守

水戸宰相殿

尾張中將殿

右田安中納言殿就御逝去為伺御機嫌御登城於御白書院御縁類御老中被懸御目候

同年八月廿日

当番
土屋能登守

水戸宰相殿

尾張中將殿

右御台樣就御不例為伺御機嫌御登城於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

追而

一御台樣御不例為伺御機嫌紀伊殿就御不快被差上使者尾張殿

使者茂罷出御留守居衆謁被申候

明和八卯年八月廿四日

助番
小出伊勢守

水戸宰相殿

尾張中將殿

右御居殘来辰年四月日光可被遊御社参旨被仰出候処大納言樣

御服中二付御延引近年之内可被遊御社参旨被仰出之段於御部

屋御老中列座佐渡守殿被仰述之

明和八卯年五月十一日

当番
牧野遠江守

紀伊中納言殿

金馬代

尾張中納言殿次男

松平慶之助 △

右御所勞御快御登城御病中從公方様大納言様以上使御尋之御

主殿頭殿江以順阿弥相伺候処

礼被仰上之於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

下ヶ札△

侍從之格二相心得着座無之旨

同廿一日

当番
戸田因幡守

被仰聞其通相濟申候

尾張中将殿

明和九辰年七月六日

当番
松平能登守

右就御忌明御朦中以上使御尋之為御礼御登城於御白書院西御

追而

縁類御老中被懸御目候

一正木志州為心得被拜見候書付之写一通進之候

同廿三日

当番
本多伊勢守

別紙卷上

尾張中将殿

大目付江

松平慶之助

右御即位相濟候為御祝儀御登城於御白書院西御縁類御老中被

懸御目候

右五節句八朔并月次御礼登城之事

追而

但五節句八朔御礼者御白書院月次御礼二者御黒書院溜詰之

一尾張中将殿去ル七日惣出仕之節御差合中二付今日御登城二而

次江罷出候事

御座候

同七日

当番
本多伊勢守

明和九辰年五月朔日

当番
太田備後守

追而

御黒書院

一松平慶之助節句初而今日出仕溜詰之次江被出候

纒紗五卷

初而
御目見

安永四未年二月三日

当番
内藤大和守

上使 松平右京大夫
板倉佐渡守

紀伊中納言殿

右御病氣二付御願之通御隱居被仰出御相統松平左京大夫江今日被仰出旨今朝被仰遣之

同 松平周防守

尾張中納言殿

同 同人

水戸宰相殿

右今朝被遣之

松平左京大夫

右於御座之間紀州御家御相統御称号被進候旨被仰出之

一左京大夫殿御居殘於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

松平玄蕃頭

右紀伊殿御願之通左京大夫家相統被仰付之領知無相違被下置之旨於波之間御老中列座佐渡守申渡之

紀伊殿家老

水野土佐守

伊達源左衛門

朝比奈惣左衛門

右左京大夫殿紀州御家御相統被仰出候付上意之趣於芙蓉之間

列座同前同人申渡之

一紀伊殿御願之通御隱居左京大夫殿江御相統被仰出且今朝上使被遣候為御礼從尾張殿水戸殿被差上使者於躑躅之間同人逢申候

一右同断被仰出候為御礼從尾張中將殿被差上使者於同席同人逢申候

一松平玄蕃頭左京大夫家相統被仰出候為御礼從尾張殿水戸殿尾張中將殿被差上使者於同席同人逢申候

追而

一左京大夫殿御錠口方御退散之節者御三家之通相心得候之樣昨日添番備後守江同人方内意有之候付其通相濟申候此段為御心得申進候

同四日

当番

内藤大和守

徳川左京大夫殿

右昨日松平玄蕃頭江相統被仰付候為御礼御出仕於御白書院西御縁類御老中被懸御目候

松平玄蕃頭

右昨日徳川左京大夫殿紀州御家御相統被仰出候為御礼罷出於
御白書院御縁頼御老中御逢候

二月十一日

御黒書院

御太刀一腰

銀百枚

縮緬二十卷

錦五十抱

御馬二疋 栗毛
青毛

御刀 千代鶴
代金廿枚

御太刀一腰

黄金十兩

縮緬十卷

当番
秋元撰津守

相統之御礼

徳川左京大夫殿 引太刀
撰津

御刀
因幡

隠居之御礼

引太刀
采女

紀伊中納言殿 △

名代
松平左近将監

紀伊中納言殿御名代左近将監

御礼之節進物引再御前江罷出

着座有之旨佐渡守殿昨日当番

美濃守江被仰聞其通相濟申候

下ヶ札 △

同廿二日

御座之間

当番
戸田因幡守

徳川左京大夫殿

右御一字被進之被任叙従三位宰相治貞与被改之候由

御太刀一腰

白銀五十枚

縮緬二十卷

御馬二疋 栗毛
鹿毛

御刀 広貞
代金二十枚

右御礼相統被出座

御盃被遣之御刀 青江次直
代金三十枚

被進之候由

御一字御官位之御礼

紀伊宰相殿

御三家使者並御家臣之部

一年始三ヶ日御規式相濟候二付為御祝儀正月四日被差上

一惣而表出御有之候節

一紅葉山上野増上寺御成還御伺御機嫌

一土用入寒入窺御機嫌

一土用明寒明窺御機嫌

是者御城附罷出於廊下御老中御逢被成候

一雪伺御機嫌初雪方三度迄ハ献上物有之三度過候得ハ使者計

但正月七日前二初雪候得者献上物無之

一御曲輪内火事地震窺御機嫌

但シ是ハ時二より不罷出候事茂有之

一御鷹場江上使被遣候御礼

一口切御茶御菓子御樽肴献上之

一尾張殿方巢鷹献上

一江戸御発足之日

右何茂御月番於躑躅之間御逢、当番横二二疊目下方三疊目之

下二罷在候、進上物有之節目録者老中直二御請取候

一御老中御隙入二而当番逢候様二御差図之時者御襖二付御老中

御逢候席方四五尺茂下候而逢申候

一月次御礼日大廊下二而使御逢候時者御三家御部屋之前上方

二本目之柱之中程二罷在候

一御参府御礼御病氣等二而使御を以御太刀被差上候節御用番於

躑躅之間御逢、当番例席江罷出御太刀当番之前江持行受取之

御用番之前江持行御渡申少シ扣誰殿と披露申候、古格芙蓉之

間二置太刀二いたし御老中列座江使者出御口上申候由近例此

儀無之

一御帰国二付被差出使者者御白書院二而御目見献上之御樽肴ハ

御前江不出候事

貞享三年五月十六日当番松平対馬守向後樽肴ハ御三家献上

たりとも御前江出間敷旨大久保加賀守殿被仰聞候

一御国許江上使被遣候御礼使者茂御白書院二而御目見仕候

一御三家方御祝儀事又御礼事二而御同所方使者兩人被差出御目

見申上候節、間二外之者不罷出兩度続候而御同所之使者出候

得者初之者尾張中納言殿使者誰と披露後者中納言殿使者誰と

披露申候

貞享四卯年七月晦日老中列座青山播磨守江被申渡之

一 御三家之家老御附被遊候筋之家々ハ勿論右之無筋者ニ而茂家老職仕候者向後小サ刀差候而御前江罷出御礼申上候筈ニ候事

覺

御三家名代之使者家老ハ御前江小サ刀差候而罷出、家老之外ハ小サ刀置向後御前江罷出筈ニ候事

七月晦日

右之趣以書付戸田山城守青山播磨守江被申渡之

貞享五辰年四月九日大久保加賀守牧野因幡守江被申渡之

一 御三家方甲府殿家老城代守迄拝領物広蓋ニ而頂戴、此外者不殘取相渡シ可申候

元禄二丑年四月廿一日老中永井伊賀守当番之節被仰聞

一 尾張殿家来竹腰然助初而御目見其上御附人ニ而御座候間重而自分御礼之節ハ主人之名可申候、ケ様之類相伺候様ニとの事

元禄十六未年四月四日

当番 田村右京大夫

一 紀伊中納言殿就御暇從御台様以御使時服御樽着被遣之為御礼

水野土佐守被差上之、豊後守殿御差図ニ而於躑躅之間右京大夫謁被申候由之事

元禄十二卯二月四日

当番 松平弾正忠

一 尾張中納言殿御忌明ニ付歳暮之御祝儀御小袖六以使者被差上之、御目付水野権十郎申聞候者尾張殿使者江弾正忠逢可申哉と御老中御逢可被成事ニ候哉と被申候故弾正忠申候者、惣而如此之様成おくられ候而上り候使者江年寄衆御逢候事茂又私共逢候例茂覺不申候、豊後守殿御出かけに使者出罷在候旨被仰達可然候、就夫御差図可有御座旨申候ニ付豊後守殿江権十郎相伺候処、此事者相模守殿御掛り候之間相模守殿江申候得与豊後守殿被仰聞候ニ付相模守殿江権十郎被申上候得者、於躑躅之間使者相模守殿御逢目錄直ニ御請取使者江口上被仰合候、使者ハ御城附之者鈴木新兵衛罷出候

右之時服水野権十郎囲炉裏之間囲炉裏蓋之上江長し尔台ならべ置候、伊賀守出候而居被申候付相談申候処伊賀守被申候者每茂ケ様成時服ハ出不申候与覺申候間不入物と被申候ニ付権十郎江申達候得者、いつもケ様成献上物ハいつも此所ニ出シ

候由被申候付左様二候ハ其通被致候得与申候、相模守殿御通
かけ二右之時服御覽被成候

元禄十丑年十一月廿二日

当番
松平美作守

一 甲府殿從御三家初雪之窺御機嫌使者出申候、御老中御登城か
け二廊下御納戸前に而御逢候、終ニケ様之儀無御座候、大方躑
躑之間ニ而御逢候故美作守居可申所無之御納戸之方者めニ付
出合居申候由物語ニて御座候

宝永三戌年十月廿八日

当番
鳥居播磨守

一 水戸中納言殿御在所江御到着之為御礼鈴木石見守を以二荷三
種被差上之、躑躑之間衝立之内ニおいて当番播磨守謁目録受
取御月番江差出候事

但使者ハ御前江出之進物ハ出之不申候事

宝永七寅年八月廿八日

当番
青山播磨守

一 紀伊中納言殿初而御暇御帰国ニ付加納平次右衛門を以綿三百
把三種二荷被差上之、右之目録如何可仕哉与但馬守殿江相尋
候処待七置候様ニ被仰聞其以後右之目録請取候而可差出旨被
仰聞候付、於躑躑之間播磨守目録被請取但馬守殿江順阿弥を

以被差出候由廻状申来候事、右之使者御前江出候付目録如此
受取候由承候事

宝永元申十二月廿一日

当番
三宅備前守

一 御養君様被仰出候為御祝儀而上様江尾張中納言殿御簾中方干
鯛一箱以使者被差上之、丹後守殿御差図ニ付於躑躑之間備前
守使者謁申候由

宝永五子年正月廿八日

中山備前守弟
中山主殿

一 初而御目見
水戸中納言殿家来中山主殿与披露、右青山播磨守当番本多弾
正御月番相模守殿江相伺右之通披露也

宝永六己丑年十一月廿三日

当番
池田丹波守

一 禁裏御移徙ニ付水戸中納言殿方山野辺主水正紀伊中納言殿よ
り久野左衛門被差上之於躑躑之間但馬守殿御逢候

宝永六己丑年十二月廿七日

当番
鳥居伊賀守

一 紀伊中納言殿御簾中江従公方様御台様歳暮之御祝儀被遣候二
付為御礼紀伊殿方三浦遠江守被差上之於躑躑之間相模守殿御
逢候

宝永六丑五月十八日

当番
松平兵庫頭

一水戸中将殿御病氣付將軍宣下御祝儀以上使時服御樽肴被遣候
為御礼使者被差上於躑躅之間謁申候

右之趣御側衆江申達但馬殿還御以後登城之時分半切相認差出

申候

宝永六丑年七月十一日

当番
本多弾正少弼

一尾張中納言殿御台様將軍宣下御祝儀被遣候為御礼使者被差上
之於躑躅之間謁申候

一院御所御移徙付水戸殿紀伊国殿水戸中将殿方使者差上之於躑
躅之間加賀守殿御逢候

宝永六己丑年七月十三日

当番
鳥居播磨守

一尾張中納言殿方仙洞御所御移徙相濟候二付被差上使者於躑躅
之間加賀守殿御逢候

宝永六己丑年七月十五日

当番
安藤長門守

一院御所御移徙相濟候二付尾張中納言殿方被差上使者於躑躅之
間加賀守殿御逢候

宝永七寅十一月七日

当番
本多弾正少弼

一水戸中納言殿御簾中方水戸殿御息女松平播磨守江婚姻相濟候
御祝儀以使者献上之并播磨守内室方右御祝儀以使者献上之、

宝永六丑年九月廿七日

当番
池田丹波守

一御本丸御普請出来昨日御安鎮相濟従水戸中納言殿紀伊中納言
殿水戸中将殿被差上使者於躑躅之間伯耆守殿御逢候

河内守殿御差図付当番謁使者目錄之俣順阿弥を以差出被申候

宝永六己丑年十一月四日

当番
安藤長門守

宝永六丑五月十八日

当番
松平兵庫頭

一紀伊中納言殿御簾中江以女中使將軍宣下之御祝儀被遣候、且
又從御台様も紀伊国殿并御簾中江右之御祝儀被遣候為御礼使

一御移徙為御祝儀尾張殿紀伊殿方御台子十飾三種三荷ツ、以使
者被差上之於躑躅之間但馬守殿御逢候

宝永六丑年五月三日

当番
土井山城守

者被差上右於躑躅之間謁申候

一成瀬隼人正安藤帶刀方御代替之為御祝儀以使者箱肴一種ツ、
差上之当番家来目錄請取使者返申候由之事

宝永六丑年五月廿七日

当番 池田丹波守

一成瀬隼人正方將軍宣下為御祝儀箱肴差上之於廊下当番謁申候由之事

宝永六丑年六月廿二日

当番 松平備前守

一安藤帶刀方將軍宣下為御祝儀以使者箱肴差上之候、先日成瀬隼人正吉川勝之助本多孫太郎使者江も逢候例候付廊下二而当番謁申候由之事

正徳二辰年二月十九日

当番 松平宮内少輔

一安藤帶刀竹腰山城守渡辺飛驒守御代替之為御祝儀御肴一箱ツ、差上之家來為請取半切認差出候旨廻状追而二申來候事

正徳三巳正月廿九日

当番 高木主水正

一御袴着為御祝儀安藤帶刀塩鯛一箱本多孫三郎干鯛一箱御樽代五百疋以使者差上之如例家來為請取半切認河内殿江差出候旨廻状申來候事

正徳三巳年正月廿七日

当番 三浦壹岐守

一御官位御名之字為御祝儀安藤帶刀方塩鯛一箱以使者差上之家來為受取半切認河内守殿江差出候旨廻状申來候事

正徳三巳年四月十九日

当番 松平兵庫頭

一成瀬隼人正將軍宣下之御祝儀干鯛一箱以使者差上之家來為請取半切覺書調河内守殿江差出候事

正徳三巳年四月廿三日

当番 石川近江守

一御元服為御祝儀安藤帶刀以使者干鯛一箱差上之家來為請取半切認河内守殿江差出候旨廻状追而申來候事

正徳三巳年四月廿八日

当番 土井山城守

一將軍宣下御任槐之為御祝儀安藤帶刀方以使者一種差上之家來為請取半切相認差出候旨廻状追而二申來候事

享保四亥年五月二日

当番 松平能登守
時服二 西尾分藏

右者尾張中納言殿巢鷹被獻候二付致持參候鷹役之者御服拝領物被仰付之旨申渡候様二和泉守殿御書付を以被仰聞候二付於御納戸前拙者申渡為致頂戴之候、右之書付写進候、奉書者今朝

尾張殿御城附江和泉守殿御逢候由及承候

別紙半切

尾張中納言殿巢鷹被獻候二付持參之鷹役之者

時服二

西尾分藏

右今日罷出候間御服拜領物被仰付候旨於御納戸前御奏者番衆
可被申渡候

五月廿二日

一享保二十卯正月廿五日

当番
板倉伊予守

公方様江

御太刀 金馬代

徳川鶴千代殿

大納言様江

御太刀 金馬代

右者今日平川口御門方御登城於大奥被遊御対顔候二付以使者
被差上之於躑躅之間中務大輔殿御逢候、大納言様江之御太刀
馬代右同人持參於同席豊前守殿御逢候、鶴千代殿去年初而御
登城之節御太刀馬代其外焼火間二差置於躑躅之間讚岐守殿使
者江御逢候旨二付中務大輔殿江右之通相伺候処先格之通二致
候様二と被仰聞今日茂右之趣二相濟申候、中務大輔殿豊前守
殿列座二而右使者江御逢候

元文四三月十五日

当番
牧野越中守

一今日紀伊殿御参府之御礼有之右家来茂御礼申上候付御白書院

二而為致稽古候、尤御黒書院江罷出候得共陪臣者いつ候ても
御白書院江罷越候而稽古いたし候事

寛保三亥年九月廿二日

当番
戸田右近将監

一中山大膳繼目之御礼幼少二付以使者御太刀馬代黄金十兩紗綾
五卷差上之、前々茂ケ様之例当番謁本紀伊守も罷出候間申談
不及伺於檢之間拙者謁一紙目錄認中務大輔殿江以順阿弥差出
候

一右一紙目錄差出候節前々もケ様之例当番逢候二付謁申候段順

阿弥江申達候

宝曆三酉年十月廿五日

当番
松平周防守

一尾張殿從御国許拜領之鷹二而被提飼候鶴一御城附を以被差上
之於廊下左衛門尉殿御逢候

宝曆四戌年十二月十八日

当番
黒田大和守

尾張殿家老
山城守養子
竹腰耆岐

右者尾張殿依御願諸大夫被仰付之旨於芙蓉之間御老中列座右

近將監殿被仰渡之

宝曆五亥年十二月十六日

当番 松平周防守

一從尾張殿以御城附御国許之産砂糖一箱初而被差上之於廊下隱

岐守殿御逢候

宝曆七丑年正月十日

当番 阿部伊予守

追而

一就雪從御三家方被差上使者候由二候得共退出之節まで不罷出候

宝曆七丑年五月十五日黒田大和殿被相達候書付左之通

一去十日拙者儀御本丸助御番之節右近將監殿以春阿弥被仰聞候

ハ、御三家之家老於芙蓉之間御縁類拜領物有之節三度出候心

得二可罷在候、若兩度罷出候段承之候ハ、其節御用番江可申

上旨一同申合候様被仰聞候、左様御心得可被成候

宝曆八寅年七月廿八日

当番 水野耆岐守

一從紀伊殿初而御帰国之為御札御使者綿五十把三種二荷被差上

之於躑躅之間相模守殿逢被申候

宝曆九卯年正月朔日

当番 戸田采女正

一就雪從紀伊殿水戸殿尾張宰相殿紀伊中將殿伺御機嫌被差上使

者候由二候得共退出之節迄不罷出候

一尾張殿二者今日御登城故右二付不被差上使者候

宝曆十辰年七月十六日

当番 土屋能登守

一御代替以後昨日初而隅田川辺江就被為成候從御三家鯛一折

ツ、以使者被差上之於躑躅之間相模殿逢被申候

明和二酉年正月廿五日

当番 大岡兵庫頭

一水戸殿家老今日兩人於芙蓉之間御縁類奉書渡有之候、尤兩人

共家老衆如例兩度出候旨御同朋頭を以申上之相濟

一奉書渡御暇拜領物被仰渡退キ候与当番罷出広蓋持出当番前二

差置白井伊豆罷出頂戴御礼、直二取合いたし広蓋引候と当番

元之席江退キ又候太田対馬罷出奉書渡拜領物被仰渡又当番進

ミ如初広蓋持出候

明和二酉年八月廿七日

当番 牧野越中守

一御三家御附家老者芙蓉之間奉書渡之節奉書渡り引候而当番も

罷出進物番拜領物持出頂戴之直二御札致御取合候

一一通り之御三家家老ハ奉書渡り直二拜領物引候而御礼、別段

二罷出候先格二付今日当番牧越中殿御目付衆江掛合高木八郎
左衛門名代渡辺源吉右之通相濟

一今日尾張殿使者高木八郎左衛門名代渡辺源吉罷出候例無之二
付越中殿以常阿弥伊予守殿拝領物取渡シ二可致成之段被相同
候処、名代之事二候得者当人二付候事故芙蓉之間二而広蓋引

二可致之旨伊予守殿被仰聞候二付其通二相濟候

一高木八郎左衛門拝領物之節二度罷出候段御目付長崎半左衛門
被申聞候二付右之趣伊予守殿江以常阿弥申達候

明和二酉年九月朔日

当番
加納遠江守

一紀伊中将殿家老安藤吉之助家督之御礼右披露御奏者番御取合
有之候而退去、如先格御主人御名不申其身帶劍二而罷出

一御太刀二疊目下五寸程間を置差置相濟御同朋江太刀相渡候

一御三家方家老城代江芙蓉之間御縁類二而奉書相渡御暇拝領物
有之節以前者三度出二而相濟候処近年者二度出二相成申候、

其度之御目付衆江申談老衆江御届申達候事

但

右二度出之儀御目付衆之方二而八両様有之由此方二而も

前々方承及候、已後之ため記置、御附家老芙蓉之間御縁類

二而御暇拝領物之節者二度出ハ最初罷出奉書老衆被相渡
直二其節御暇拝領物被仰渡退去、当番例席江罷出進物番

広蓋持出当番之前二差置右家老罷出頂戴直二其俣二而御
礼当番取合致候、是者万石以上などの通り二而御附家老

之例也、又最初使者家老之前へ罷出候与当番例席江罷出
老衆奉書御渡御暇拝領物被仰渡其間二進物番進物持出当

番之前二差置右使者奉書懐中いたし其俣拝領物頂戴之退
去、進物番進物徹キ再罷出御礼此節当番取合致候、是ハ御

附二而無之家老城代格之二度出也、畢竟御内書之通

明和二酉年十二月十八日

当番
大岡兵庫頭
紀伊殿家老
安藤吉之助

右紀伊殿依御願諸大夫被仰付之旨於芙蓉之間御老中列座伊予
守殿被仰渡之

御同人家老
水野土佐守

右者依御願吉之助諸大夫被仰付候、此段可申上段於同席列座

同前御同人被仰渡之

水戸殿家老

寛助大夫

右水戸殿依御願御家来之内壺人諸大夫被仰付之旨於同席列座

同前御同人被仰渡之

宝曆十庚辰年九月十五日

当番
松平和泉守

一將軍宣下之御祝儀成瀬隼人正石河伊賀守成瀬民部少輔安藤帶

刀御太刀馬代銀子壹枚ツ、以使者差上之右何も大広間へ罷出

候、追而帳面差出候之節半切添差出可申候

元禄十一寅年二月十四日

当番
松平彈正少弼

時服十

尾張大納言殿

金馬代

右者就御参府以使者被差上之御老中列座於芙蓉之間御逢候

追而尾張大納言殿方為使者玉置市正罷出候席之儀豊後守殿

江相伺候処例御覺無之候、芙蓉之間二而御逢可被成候進物

之儀者御相談被成御差図可被成由二而其以後被仰聞候者弥

芙蓉之間二而御逢可被成候進物も芙蓉之間之内竹之方御襖

江附置御太刀馬代も台之前二差置尾張大納言殿御参府二付

被差上候与御逢之節可申旨玆阿弥を以被仰聞候、則其通二

相勤申候、委細之儀ハ明日可得御意候

寛保元辛酉年九月廿三日

当番
本多紀伊守

一御転任并御兼任御元服之為御祝儀佐竹右京大夫国許方以使者

御太刀馬代黄金壹枚ツ、右同断奥平大膳大夫在所方以使者

御太刀馬代黄金一枚ツ、右同断森対馬守在所方以使者御太

刀馬代銀子一枚ツ、右同断竹腰志摩守濃州今尾方以使者御

太刀馬代銀子一枚ツ、右同断成瀬隼人正以使者銀子壹枚

ツ、右同断渡辺半藏從三州寺部以使者御太刀馬代銀子一枚、

右同断石河伊賀守從野州一野瀬以使者御太刀馬代銀子一枚

ツ、右同断成瀬少進從尾州犬山以使者御太刀馬代銀子壹枚

ツ、右同断石河愚翁從野州一野瀬以使者御太刀馬代銀子壹

枚ツ、差上之、右何茂於松之間拙者謁一紙目錄認伊豆守江順

阿弥ヲ以差出候、尤竹腰志摩守方石河愚翁迄ハ一紙目錄之末

名少間明候而相認差出候

明和二酉十二月廿七日

当番
久世出雲守

一昨廿六日尾張殿御城附越中殿江申聞候者年頭之御礼名代之使

者ハ家老之内二而も家柄を撰被差出事二付、名代出礼之席古

来者御縁頼下方二畳目中央江名代罷出候申伝候得共右書物等

ハ無之申伝而已之由、当時鯉之御杉戸方三畳目之下方壹畳目

江罷出候、右書留等茂有之候処四畳目之上陪臣之席江茂罷出

当時兩端罷成候付何卒三畳目之下之方江罷出度旨申聞候付、

同役相談二而御三家名代使者稽古之儀ハ頼二付奏者番二而為

致稽古候事、奏者番江頼二而稽古之事二候得者鯉之御杉戸方

四畳目之上定席二候間右之通二可差出此方方三畳目之下二差

出候義者難致候、其方方伺之義ハ勝手次第之旨可及返答越中

殿被申候付其通同役衆申談候事

「 函 ② 」

明和三戌年五月七日

当番
久世出雲守

一大納言様御元服御祝儀柳原式部大輔從在所御太刀馬代黄金十

両、同断御祝儀丹波豁如孫女疱瘡二付延引御太刀黄金十両、同

断御祝儀松平勘九郎遠山和泉守從在所御太刀馬代銀子一枚

ツ、同断御祝儀成瀬隼人正從尾州犬山御太刀馬代銀子一枚、

同断御祝儀石河伊賀守從濃州一野瀬御太刀馬代銀子壹枚、同

断御祝儀渡辺半藏從三州寺部御太刀馬代銀子一枚、同断御祝

儀成瀬主殿頭從尾州犬山御太刀馬代銀子一枚、右何茂今日以

使者指上之於檢之間拙者謁一紙目錄四通認之

一御台様江同断御祝儀柳原式部大輔白銀五枚干鯛一箱、丹波豁

如白銀二枚干鯛一箱、成瀬隼人正石河伊賀守渡辺半藏干鯛一

箱ツ、右何茂今日以使者差上之於中之口家来為受取半切三

通認之、尤献上物者伊丹兵庫江申達御広敷添番江相渡候、右一

紙目錄半切右近將監殿江以良阿弥差出候

但石河伊賀守此節濃州駒塚二罷在、一野瀬二ハ已前罷在候

段於西丸使者申聞候様、御本丸方ハ一野瀬与一紙目錄認被

差出候故同様二西丸二而も一野瀬与相認被差出候、委敷一

紙目錄之部へ記之

同月十九日

当番
久世出雲守

一大納言様御元服御祝儀安藤帶刀從紀州田辺御太刀馬代銀子壹

枚以使者差上之於檢之間拙者謁一紙目錄認之

一御台様江同断御祝儀右同人干鯛一箱以使者差上之於中之口家

来為受取半切認之、尤献上物ハ駒木根大内記江申達御広敷添

番江相渡候、右一紙目錄并半切右近將監殿江以順阿弥差出候

明和三戌年十一月廿五日

当番 松平能登守

一 徳川民部卿殿江寿賀宮御縁組被仰出候為御祝儀尾張殿水戸殿
尾張中將殿方被差上使者於躑躅之間周防守殿御逢候

追而

一 紀伊殿二八就御帰国不被差上使者候由

明和四丁亥年六月十五日

当番 大岡兵庫頭

一 尾張中納言殿家老志水甲斐尾州江罷越候付拝領物於躑躅之間
右近將監殿出座頂戴之

例

宝曆四壬申十一月十五日

当番 井上遠江守

一 尾張中納言殿家老石河伊賀守尾州江罷越候二付拝領物
於躑躅之間左衛門尉殿出座頂戴之

明和四亥年六月廿八日

当番 牧野越中守

一 尾張殿使者成瀬豊前右近將監殿奉書御渡拝領物被仰渡豊前引
候与当番例席江出席いたし候事

但当番雁之間御柱二本目御柱中程江出席豊前罷出拝領物

頂戴直二御礼之御取合当番致し豊前引当番元席江引く、

御目付衆二度出申候段被申聞候付当番御同朋頭を以御届

申上候

享保十七子年八月廿八日

当番 高木主水正

一 成瀬隼人正隠居之御礼尾州方以使者御太刀馬代黄金壹枚指上
之、元禄年中水野淡路守隠居之御礼以使者差上之其外御奏者

番謁候由隼人正使者申聞候、近例無之二付同役江申談伊豆守

殿江右之段申達候処拙者逢候様二と被仰聞候二付於松之間謁

一 紙目録認之伊豆守殿江以順阿弥差出候

明和五戊子年三月十五日

当番 西尾主水正

一 成瀬内藏頭隠居之御礼從尾州犬山以使者御太刀馬代黄金十兩
差上之、先格茂有之候二付於松之間拙者謁一紙目録認之右京

大夫江以順阿弥差出候

一 御三家方御帰国為御礼使者被差上候節万石以上之者罷出候節

者自分御礼申上之、万石已下之使者罷出候節自分御礼無之

明和七寅年正月朔日

当番 土屋能登守

一 中山備前守病氣二付名代之使者罷出於大広間太刀受取相濟申
候、尤上帳二八書載不申廻状二茂出不申候事

例

宝曆八寅年正月二日廻状追而之朱書書左之通

一水野筑後守病氣二付名代之使者大広間江罷出候、依之進

上之帳末江名前相認可差出候哉如何可致哉と伯耆守殿江

以春阿弥相伺候処先格可有之候間致吟味候様二仰聞候付、

寛保四子年正月朔日中山土佐格有之其節も相談有之候、

上進上之帳二名前無之二付其段御同人江以同人申達候所、

此度茂右名前相除候而上帳差出可申旨被仰聞二付筑後守

名前不相認差出候、尤書付等茂出し不申候、以後為御見合

申進候、右使者元日二罷出候由二候得共先格不相知候故

被差戻去ル二日罷出候由二御座候

明和五子年正月廿九日

当番

西尾主水正

尾張中納言殿使者

滝川長門

名代

長野数馬

右於躑躅之間右近殿被申渡奉書被相渡拝領物頂戴之

追而

一尾張殿使者滝川長門就病氣名代罷出候

明和五子年四月廿三日

当番

松平伊賀守

一今日万寿姫君様江從尾張中將殿以竹腰山城守御結納御祝儀被

差上大広間二飾之三之間江右近將監出座目錄受取之

竹腰山城守

右於御黒書院溜御腰物則光代金十五枚被下之旨御老中列座周防守申

渡之其以後於御黒書院御目見

竹腰山城守

右於柳之間御祝儀御吸物御酒頂戴之

追而

一竹腰山城守頂戴之御腰物從松平撰津守殿受取拙者山城守江相

渡候

一右同人御目見之節能登守致披露候

当番

松平丹波守

一昨日大納言様江御対顔之為御礼從水戸殿被差上使者於躑躅之

間右近將監逢申候

明和五子年八月十九日

助番

戸田長門守

一尾張中將殿前髪被執候付二種一荷尾張殿好君御方右同断一

種一荷ツ、右何茂以使者差上之於躑躅之間周防守殿御逢候

一同断二付公方様大納言様方以上使好君御方江被遣物之御礼、

御台様万寿姫君様方以御使御祝物被進好君御方江も御同様被

進從御台様以御使中將殿江御祝物被遣候、御礼尾張殿御父子

方被差上使者於同席御同人御逢候

明和六丑年正月廿一日

当番

牧野豊前守

一尾張殿方今度御妹女御縁組被仰出候為御礼二種一荷以使者差

上之於躑躅之間右近將監殿御逢候

明和六丑年三月廿七日

当番

土屋能登守

一万寿姫君様御紐解為御祝儀從御三家一種一荷ツ、從尾張中

將殿干鯛一箱、好君御方明脱院殿俊祥院殿干鯛一箱ツ、以使

者被差上之於躑躅之間伊予守殿御逢候

明和六丑年四月朔日

当番

大岡兵庫頭

一尾張殿御妹女婚姻相济候付從尾張中將殿二種一荷、好君御方

より紅白縮緬五十卷三種二荷以使者被差上之於躑躅之間周防

守逢申候

宝曆三酉年十一月十五日

当番

朽木土佐守

一右近將監殿以春阿弥被仰聞候与尾張殿使者共披露有之御取合

相济候由罷立候様可致候、御取合不相济内二罷立候茂有之候

間向後共二左之通得与御取合相济候上罷立候様可致旨被仰聞

候、為御心得申進候

明和七寅年閏六月

唯今迄於芙蓉之間御縁頼御三家方使者奉書渡御暇拝領物之節

当番出席拝領物御礼取合之儀当人御礼不申上候、以前取合申

候処去ル七日拙者儀御本丸当番紀伊中納言殿使者朝比奈惣左

衛門御暇拝領物之節御礼取合之儀二付御老中方御尋有之候

間、右唯今迄御礼取合之趣申達候処何レ二茂当人拝領物御礼

申上候、以後取合之様可致旨右近殿被申聞候段順阿弥申聞候

付此段得御意候

閏六月

当番

土屋能登守

享保六丑年正月十五日

当番

内藤丹波守

一水野大炊頭年頭之御祝儀差合二付延引今日以使者御太刀銀馬

代差上之候、此例不相知候付同役中申談家來為受取半切認河

内守殿江差出候、并同人方歳暮之御祝儀右同断二付以使者干

鯛一箱差上之是又家來為受取右半切一紙認御同人江差出候

明和四亥年十二月廿三日

当番 牧野越中守

一水野土佐守歳暮之御祝儀就差合延引今日以使者塩鯛一箱差上之於中之口家來為受取、享保六丑年正月十五日例茂有之候付半切認右京大夫殿江以休阿弥差出候

明和七寅年正月七日

当番 土岐美濃守

一就雪從尾張殿為伺御機嫌被差上使者於躑躅之間右近大夫殿御

逢候

追而

一就雪從紀伊殿水戸殿被献物者有之候得共御登城被成候付前々之通使者不罷出被差上物ハ朝献上之通相濟候由御座候

例

明和四亥年十二月朔日

当番 牧野越中守

一初雪二付從紀伊殿水戸殿被献物ハ有之候得共御登城被成候付前々之通使者不罷出被差上物者朝献上之通相濟

候由御座候

明和八卯年正月廿七日

当番 牧野遠江守

一成瀬隼人正年頭之御祝儀就差合延引從在所以飛札今日干鯛一

箱差上之於中之口家來為請取、明和四亥年十二月廿三日水野

土佐守例茂有之候付半切認之右近將監殿江以三阿弥差出候

明和八卯年二月四日

当番 大岡兵庫頭

一成瀬内蔵頭年頭之御祝儀同氏隼人正差合付延引從犬山以飛札

今日干鯛一箱差上之於中之口家來為受取半切認之佐渡守殿江

以三阿弥差出候

明和九辰年正月朔日

当番 土岐美濃守

一山野辺兵庫頭病氣二付名代之使者大広間江罷出候、然処同四

日先例石河伊賀守使者大広間江罷出其節ハ半切認差出候、去

年始中山備前守名代之使者上帳二不書載半切等も不差出候得

共石河之例御尋二付其節ハ半切等も出候事、右例茂有之候付

此度者如何可仕哉と右近將監殿江無急度右例書相添以順阿弥

相同候処、去年中山備前守例之通上帳江不書載書付等茂差出

候二不及候段以同人被仰聞其通相濟申候

宝曆八寅年正月二日

当番 朽木土佐守

廻状追而

一 水野筑後守年頭之御祝儀病氣二付名代之使者喜連川左兵衛督、
名代之使者何茂今日大広間名代之使者之末江罷出候、左兵衛
督隱居後初而之儀故為御心得申進候

朱書

一 水野筑後守病氣二付名代之使者大広間江罷出候、依之進上之
帳末江名前相認可差出哉如何可致哉と伯耆守殿江以春阿弥相

伺候処先格可有之候間致吟味候様被仰聞候付、寛保四子年正

月朔日中山土佐格有之其節茂相談有之候上進上之帳二名前無

之候二付其段御同人江以同人申達候処、此度茂右名前相除候

而上帳差出可申旨被仰聞候付筑後守名前不相認差出候、尤書

付等茂出し不申候、以後為御見合申進候、右使者元日二罷出候

由候へ共先格不相知候故被差戻去ル二日罷出候由

宝曆六年正月朔日

当番
朽木土佐守

一 太田下野守年頭之御祝儀就病氣名代之使者大広間江罷出候、

其節進上之帳并半切等差出候哉寢与不相知候

宝曆十辰年五月廿一日
当番
牧野越中守

一 御代替之御祝儀成瀬隼人正石河伊賀守成瀬民部少輔安藤帶刀

御太刀馬代銀子壹枚ツ、以使者差上之右何茂大広間江罷出候、
追而帳面差出候節半切認差出可申候

明和八卯年十二月十八日

当番
井伊兵部少輔

一大藏卿殿御妹女松平壹岐守江今日婚姻被相整候為御祝儀從紀

伊殿水戸殿尾張中將殿被差上使者於躑躅之間右京大夫殿御逢

候

明和八卯年十二月廿二日

当番
太田備後守

一大藏卿殿御妹女越前守嫡子松平於義丸江縁組被仰出候為御祝

儀從紀伊殿水戸殿尾張中將殿被差上使者於躑躅之間右京大夫

逢申候

明和九辰年正月六日

当番
増山對馬守

一 右近將監殿以順阿弥御渡候御書付之写壹通進之候

卷上

御奏者番江御三家方家老御附二而無之候とも万石已上之

分病氣二而年始御太刀馬代献上之使者向後大広間江差出

候事

明和八卯年四月廿八日

当番
戸田因幡守

御白書院

三種二荷

婦国之御礼

尾張中納言殿使者
渡辺半藏 越中

右尾張中納言殿使者渡辺半藏之披露御取合有之而退去、但進物御前江不出

△

半藏長袴着用披露先格之通半袴致着用候、且自分之御礼先格之通長袴着用致候旨右京大夫殿江以順阿弥申達其通相濟申候

紗綾三卷

自分之御礼 双方長袴
兵庫

銀馬代

同人

右渡辺半藏之披露

但御太刀諸大夫之畳目方少下ヶ置之御主人之御名不申候

太刀御同朋頭江相渡

同年五月十五日

当番
牧野豊前守

一御召位相濟候為御祝儀從紀伊殿水戸殿二種一荷宛御使者被差上之於躑躅之間右近將監殿御逢候

追而

一尾張殿就御膝中不被差上使者尾張中將殿二茂就御同様御出仕

無之候右同断二付今日不被差上候

一尾張殿月次使者ヲ茂右二付不被差上尾張中將殿二茂御同様二付御出仕無之候

同年同月廿一日

当番
戸田因幡守

一尾張殿端午之御祝儀就御差合延引今日以使者御帷子単物二被差上之於躑躅之間佐渡守逢申候、大納言様江之御祝儀も右同断二付御本丸江上り右於同席豊後守逢申候

追而

一尾張殿目錄者如先例拙者請取佐渡守江差出時服ハ出不申候、

此段為御心得申進候

一御同人方大納言様江端午之御祝儀御本丸江上り候付先例も有之候間拙者致出席目錄請取可差出哉と豊後守殿江以順阿弥相伺候処可致其通旨申聞相濟申候、是又時服者出不申候、尤右之趣西丸当番備後殿江も申遣候

同年同月廿二日

当番
土岐美濃守

一此度立后相濟候為御祝儀從尾張中將殿被差上使者於躑躅之間

右近將監殿御逢候

追而

一尾張中將殿立后相濟候御祝儀去る十八日御差合中二付今日被

差上使者候

同年同月廿五日

当番
大岡兵庫頭

一御即位相濟候御祝儀尾張殿就御差合延引今日以使者二種一荷

被差上之、尾張中將殿方も右御祝儀就御同様延引今日以使者

一種一荷被差上之於躑躅之間右近將監殿御逢候

紗綾三卷

尾張中納言殿使者
渡辺半藏

右於芙蓉之間御縁類御老中列座御同人奉書御渡拝領物頂戴之

明和八卯年六月十五日

当番
松平能登守

一松平源次郎亡父中務大輔願置之通遺領無相違被下候付為御礼

從尾張中將殿被差上使者於躑躅之間周防守逢申候

同年八月十一日

当番
小出伊勢守

一中山大膳繼目之御礼就幼少以使者御太刀馬代黄金十兩紗綾五

卷差上之、先例茂有之候付於桧之間拙者謁一紙目錄認之右京

大夫殿江以順阿弥差出候

同廿八日

当番
増山封馬守

一松平兵部大輔亡父讚岐守願置候通遺領被下候付為御礼從水戸

殿被差上使者於躑躅之間右京大夫殿御逢候

同年九月十三日

当番
井伊兵部少輔

御暇

尾張中納言殿使者
志水甲斐

右於芙蓉之間御縁類御老中列座右近將監申渡拝領物頂戴之

同年十二月十八日

当番
井伊兵部少輔

一大藏卿殿御妹女松平壺岐守江今日御婚姻被相整候為御祝儀從

紀伊殿水戸殿尾張中將殿被差上使者於躑躅之間右京大夫殿御

逢候

追而

一大藏卿殿御妹女今日御婚姻被相整候御祝儀尾張殿就御在國中

不被差上使者候

同年同月廿一日

当番
太田備後守

一大藏卿殿御妹女越前守嫡子松平於義丸江縁組被仰出候為御祝

儀從紀伊殿水戸殿尾張中將殿被差上使者於躑躅之間右京大夫

逢申候

追而

一從尾張中将殿歳暮之御祝儀被差上之先格之通相濟申候、此段
為御心得申進候

一大歳卿殿御妹女御縁組被仰出候御祝儀尾張殿就御在國中不被

差上使者候

同年同月廿二日

当番
土岐美濃守

一明脱院殿江歳暮之御祝儀被遣候為御礼從紀伊殿被差上使者於

躑躅之間右京大夫殿御逢候

同年同月廿三日

当番
牧野豊前守

一從公方様大納言様八代君御方俊祥院殿江歳暮之御祝儀被遣候

為御礼從水戸殿被差上使者於躑躅之間右京大夫殿御逢候

明和九辰年二月十五日

西丸当番
太田備後守

一水戸殿家老山野辺主税参府之御礼於御本丸申上候付御太刀馬

代銀子壹枚以使者差上之於中之口家來為受取半切認之

明和九辰年四月十九日

当番
増山对馬守

日光御祭礼相濟候付從御三家被指上使者於躑躅之間佐渡守殿

御逢候

追而

一右京大夫殿服中二付御三家方使者江佐渡守殿被逢候、拙者義
も服中二付申談越中守致出席候

明和九辰年四月廿四日

当番
井伊兵部少輔

一松平讃岐守当冬女御入内二付京都江御使被仰出候為御礼從水

戸殿被差上使者於躑躅之間右京大夫殿御逢候

安永二巳年二月十九日

当番
井伊兵部少輔

一万寿姫君様不被遊御勝候二付為伺御機嫌御三家方被差上使

者御留守居衆江謁候、去々卯年御台様御不例之節伺御機嫌御

三家方被差上使者御留守居衆被謁候其節廻状二出候得共、

宝曆五亥年申合之趣も有之候二付今日八廻状出不申候

安永四未年二月廿三日

当番
松平采女正

一從紀伊宰相殿昨日於西丸御相統後初而大納言様江御对顔之為

御礼被差上使者於躑躅之間佐渡守逢申候

同廿七日

当番
安藤对馬守

水野土佐守

右紀伊宰相殿口宣之下奉書於躑躅之間佐渡守殿御渡候

同年三月朔日

当番
戸田因幡守

隱居并相統被
仰出候段承知二付

紀伊中納言殿使者

加納大隅守

一從御部屋樣紀伊殿紀伊中納言殿御隱居御相統二付御同所方并
明脱院殿江御祝義被遣候為御礼從紀伊殿被差上使者於躑躅之
間周防守逢申候

一松平左京大夫今日相統之御礼就申上候為御礼從御同人被差上
使者於同席同人逢申候

同十三日

当番
安藤対馬守

御暇

紀伊中納言殿使者

加納大隅守

紗綾三卷

右於芙蓉之間御縁頬御老中列座周防守殿被仰渡奉書御渡拝領
物頂戴之

追而

一加納大隅守拝領物之節二度差出候段御目付松浦与次被申聞候
付右之趣周防守殿江以順阿弥申達候

同年二月

別紙式通

中納言殿留主方此已後例月出仕無之節并出仕相止候節者公
方樣御機嫌御城二被附置候者を以奉伺二而可有御座候得者、
清溪院殿隱居已後在国二而例月出仕無之節出仕相止候節者留
主方方公方樣御機嫌御城二被附置候者を以相伺、出仕有之節
者分而右伺者無御座候、尤大納言樣御機嫌伺之儀跡方例等無
御座候得共御本丸同様御機嫌奉伺二而可有御座候、此段各迄
及御物語置申候

同三月

一五節句八朔

一嘉定玄猪相濟候節之

一紅葉山東叡山増上寺 御参詣被遊候節還御之御機嫌伺

一四月日光 御祭礼相濟

一勅使御対顔并御能且又御返答被仰出候節

一土用入半明

一寒入寒明

但半者飛札

右之節之御城ニ被附置候者申上候

松平加賀守

(ママ)
宝永五辰年十一月晦日

当番
本多弾正少弼

一松平加賀守次男造酒丞松姫君様御入輿相濟候而加賀守父子御
札之節造酒丞無官ニ候得共四品之通可致披露旨秋元但馬守殿
御差凶也、造酒丞病氣ニ而不罷出

宝永六丑年正月十八日

当番
石川近江守

一御中陰為伺御機嫌松平加賀守方以使者檢御重差上之但馬守殿
御差凶ニ付於檢之間ニおゐて拙者謁申候

宝永六丑年正月十九日

当番
池田丹波守

一御中陰為伺御機嫌松平若狹守方以使者御干菓子一箱差上之但
馬守殿御差凶ニ付於檢之間拙者謁申候、右若狹守使者相殘罷
在候ニ付私共逢候而返可申哉与珎阿弥を以但馬守殿江相伺候
処々様成使者如何仕候哉与御尋ニ付大形朝献上ニ而相濟自然
使者殘居候得者私共逢申候由申上候処、若狹守儀加賀守与者
違候間私共逢候様ニ被仰越候ニ付於檢之間拙者謁目録但馬守
殿江進之候旨申来之候

宝永六丑年十一月十四日

当番
安藤長門守

一御移徙御祝儀松平加賀守方御屏風五双三種三荷同若狹守方御

台子三飾三種二荷以使者被差上之但馬守殿御指図二付於松之

間拙者謁申候

正徳二辰八月十五日

当番
松平備前守

一松平加賀守殿御息女婚姻之御礼之儀大久保加賀守殿江被伺候

処披露加賀守殿御勤候、御三家月次之御礼溜詰衆御礼相濟松

加賀守殿御礼被申上筈二候、台を引其已後加賀守殿御鋪居之

内着座之筈二候、且又時服三十之台三ツ少將侍從ハ壹ツ内式

ツ外二置候得共加賀守殿事候間式ツ内江入可申哉与相伺候得

者夫二者及不申候間壹ツ内江入候様ニ与被仰右之通相濟申候

正徳三巳年三月廿七日

当番
朽木民部少輔

一御元服之為御祝儀松平加賀守同若狹守方御樽肴差上候、於松

之間当番謁目錄之俣差出候旨廻状申来候事

正徳三巳年四月十六日

当番
朽木民部少輔

一一位様御位階為御祝儀松平加賀守同若狹守方以使者御樽肴差

上之於松之間当番謁目錄之俣河内守殿江差出候旨廻状申来候

事

正徳五末年九月十六日

当番
土井伊予守

一御不予御快然之為御祝儀松平加賀守従道中以使者二種一荷差

上之大和守殿江伺之上於松之間伊予守被謁直二其目錄之俣大

和守殿江差出候旨廻状追而二申来候事

享保三戌年二月廿八日

当番
安藤右京亮

一松平加賀守拝領之御鷹二而捉候由今朝雁鴨差上之候、右之使

者御坊主組頭迄御奏者番御逢可被成哉之由申候二付宇田川玄

休右使者留置其段申聞候間和泉守殿江伺候処、曾而左様之筋

者無之飛札二而朝献上候間左様心得候様ニ与被仰聞候、為御

心得申進候廻状追而二申来

享保四亥年十二月九日

当番
松平兵庫頭

松平加賀守

松平若狹守

右為寒氣御尋御檢重一組ツ、被遣之右為御礼松平若狹守登城

於御座之間御目見御懇之上意有之、加賀守若狹守安否御尋其

上加賀守御鷹拝領屋輔内ニ而鷹つかい候様ニ与上意之由二御

座候間、依之立帰御礼申上候間拙者謁候様ニ与河内守殿方良

阿弥を以被仰聞候二付被於檢之間拙者謁申候、其内河内守殿御退出二付加納遠江守へ御礼之趣申達候

追而

若狭守例者帝鑑之間二而謁候得共今日者加賀守名代相急候而罷出候二付於桜之間謁申候

附札

一若狭守事加賀守并自分御礼相急候而罷出候者御目見已後退去又立婦之御礼申上此節者備前守可謁旨河内守殿方以良阿弥被仰聞候、加賀守自分二罷出候得者御白書院例之處二逢申候、若狭守ハ帝鑑之間二而謁候例二候へ共加賀守名代相急被出候二付帝鑑之間二而難謁又者加賀守自分二被出候席二而も逢被申間敷義二付、同役衆へハ居合不申忝人二而者難極二付大目付衆へ備前守了簡申上御尤之由被申候二付桜之間二而謁申候

享保七寅年五月廿八日

縹紗二十卷

銀 五十枚

当番 松平伊豆守

松平加賀守

右者参府之御礼病氣二付以使者差上之和泉守殿御逢被成間敷候、進物御納戸江納候様二与御差図二付致其通候、家来茂兩人出候得共勿論此進物茂御納戸江相納候、和泉守殿御逢不被成候二付同役二而茂可謁哉と伺候茂及間敷与何茂申談相伺不申候

元文元辰年八月十五日

当番 丹波式部少輔

一松平加賀守今日参勤之御礼申上候二付御太刀持参溜江扣罷在銀台卷物台出進物番出候頃罷出御太刀御敷居より上江三疊目之上二差置候事、尤御黒書院二而御礼申上候

元文二巳年四月廿八日

当番 秋元但馬守

一松平加賀守嫡子又左衛門初而御目見二付先格之書付主水殿持參被申候、左近殿登城御礼書御渡候間但馬守殿之伺候由、前格之通又左衛門御目見相濟進物引之加賀守罷出御礼是又進物引父子一同罷出着座有之候由、書付御渡格之義被伺候処少將之格二心得候様二と被仰聞候其通相濟候事

寛保三年二月十五日

当番 松平備中守

一松平加賀守次男亀次郎初而御目見本多中務大輔殿江相伺諸大

夫之格二披露

寛延四年十二月廿八日

当番 井上遠江守

一松平加賀守弟嘉三郎初而御目見之節伺之上緒大夫之格二相濟

宝曆七年六月十八日

当番 永井伊賀守

一御中陰為伺御機嫌松平加賀守方御檢重一組御使者差上之以春

阿弥左衛門尉殿江伺之上於檢之間拙者謁目錄之俣御同人江以

同人差出候

宝曆四戌三月十五日

当番 金森兵部少輔

一松平加賀守嫡子鍵次郎初而御目見右近將監殿江伺之上少將之

格二相濟着座有之候

宝曆十一年二月朔日

当番 酒井飛驒守

一婚姻之御礼松平加賀守縹紗廿卷披露相濟進物引之再罷出夫江

と上意御敷居之内江入着座御取合上意亦御取合有之

但着座之義右近將監殿江以春阿弥相伺候処着座有之旨被仰

聞其通相濟申候

宝曆十一年十一月朔日

当番 土井大炊頭

一松平加賀守今日參府之御礼申上候二付中将御太刀御敷居之内

下る三疊目之上二置之披露相濟進物引之重而御前江罷出夫江

と上意有之而御敷居之内着座、御取合有之而上意又御取合有

之而退出、尤御黒書院二而御礼申上候

寛延四未年七月廿八日

助番 松平右京亮

御黒書院

煩

参勤 松平加賀守
前田兵部

中川八右衛門

追而

一松平加賀守家来前田兵部中川八右衛門手綱廿筋御太刀馬代銀

子壹枚ツ、当人持参差上之如先格献上物直二御納戸江相納申

候、半切認左衛門尉江明日可差出候

明和五子年四月十五日

当番 大岡兵庫頭

御黒書院

煩

参勤 松平加賀守
二人

大音帶刀

松平大弐

一松平加賀守参勤之御礼就痛所御太刀馬代白銀五十枚縹紗廿卷

以使者差上之於檢之間周防守逢申候

追而

一今日御礼書之内病氣之御書付周防守以三阿弥相渡候右御書付之写左之通御座候

別紙卷上

御奏者番

大目付 江

御目付

四月十五日

御礼書之内

松平加賀守

右痛所有之候付不罷出候

松平加賀守家来

二人

右加賀守不罷出候二付不差出候

一松平加賀守家来大音帶刀松平大弐手綱甘筋御太刀馬代銀子壹

枚ツ、当人持参差上之如先格献上物直二御納戸江相納申候、

半切認之周防守江明日可差出候、右半切左之通

卷上

四月十五日

覚

一御太刀馬代銀子壹枚

纏 二十筋

一御太刀馬代銀子壹枚

纏 二十筋

松平加賀守家来
大音帶刀

同人

松平大弐

同人

右者松平加賀守参勤之御礼痛所有之今日以使者就申上候、右兩人義持参仕差上之

以上

一松平加賀守痛所二付参勤之御礼以使者申上候御礼過周防守於

檢之間逢申候、例之通当番出席当番代越中守年始八朔之通被

致御披露候、其後右目錄三阿弥以周防守江越中殿被差出之然

処右目錄御三家之外太刀目錄御老中江差出候、先格ハ無之旨

土佐殿被申聞年始八朔加賀守太刀目錄茂並之通二而相济別段

二老衆江不差出事、太刀目錄を老衆江御奏者番方差出候旨御

三家にかきり候旨是又土佐殿被申聞候、然処当日越中殿周防

守江太刀目錄被差出之義先格ヲ以之儀無之二付猶又相糺明日

当番
大岡兵庫頭

可申上旨順阿弥迄被申置候、翌十六日土佐殿越中殿順阿弥江先格加賀守太刀目録老衆江差出之儀不相見昨日者心得違二而越中守指出候旨被申上越中守方ハ右二而相濟候、依之順阿弥江内々美濃守昨日加賀守太刀目録之義二付候御納戸之方茂先格相糺候趣二付承合候処、留書ハ無之候得共御奏者番方組頭江目録相渡御同朋頭方御用番江差出候由と覚候もの茂有之由申聞候、右之趣申上候処何レニ茂加賀守目録之儀二付御前江出候方御評儀相極り昨日者加賀守目録御前江出夫より下り申候由申聞候付、右之儀ハ御奏者番方二而ハ不存義二候得共越中殿被差出而方右之通二相成、其上外目録共ハ手廻シ之ため直致裏書御納戸江差出候事二付若間違等も已後有之候而ハ如何之事二付越中殿江茂今日及内談候処、已來加賀守太刀目録御同朋頭江懸合之上致裏書渡候積り致相談候、右為見合記置候

但松平越前守も太刀目録等ハ是亦加賀守同様之事二付、参勤之御礼病氣二而以使者申上候ハ、右目録裏書ハ当番御同朋頭江懸合之上致裏書可然与是又越中殿と今日申談

候

延享元年甲子年八月朔日

当番
松平紀伊守

以別紙得御意候、然者今日松平加賀守殿宰相已後八朔初而出仕二付紀伊殿名代之使者前後之儀二付御礼過中務大輔殿御三家引太刀之者罷出候様以順阿弥被仰聞候得共、何茂退出故松右近殿紀伊守殿拙者罷出候処中務大輔殿被仰聞ハ加賀守宰相二候間紀伊殿名代之使者方先可罷出処如何間違次江罷出候哉、自今加賀守次江紀伊殿使者罷出候様相心得可申被仰聞候付今日相伺不申所不念之儀仕候段申上候へ者向後可入念旨被仰聞候、重而為御心得如是御座候

享保八卯年八月廿日対馬守殿当番松平相模守江被仰聞候者、松平肥前守より長福様小次郎様小五郎様江御道具明日明後日之内差上候、御奏者当番松平之間二而使江逢目録請取御道具ハ奥江廻し可申旨被仰聞候、同廿一日肥前守方長福様江御刀正宗小次郎様江御脇差来国光小五郎様江御脇差当麻右以使者差上之、此間対馬守殿被仰聞候通於松之間謁御道具ハ奥方廻し目録対馬守殿江差出申候

享保十四八月二日

当番
丹波式部少輔

一松平加賀守八朔之御祝儀就産穢延引今日以使者御太刀馬代黃金十兩差上之和泉守殿就御差図於松之間拙者謁一紙目錄認御

同人江差出候

元文二巳年七月十九日

当番
松平備中守

一松平加賀守七夕之御祝義就差合延引黃金壹枚鯖式百刺、松平相模守就同斷黃金一枚何茂以使者差上之伺之上於松之間拙者謁半切認左近將監殿江以春阿弥差出候

延享三寅年九月廿日

当番
朽木土佐守

松平加賀守

右者光現院様二十七回御忌二付伝通院江以御名代御香奠被遣候為御礼登城相模守殿就差図於例席拙者謁御同人江以順阿弥

申達候

宝曆四戌年九月廿三日

当番
本多長門守

大御行器五荷

松平加賀守

右姫宮様御入興二付以使者差上之柳之間相模守殿御逢候

一加賀守使者江御逢之節三季献上之節之通目錄者致置付当番出

席可致披露哉目錄受取可致披露哉、兩様共二目錄者跡二而以

御同朋頭可致進達哉与相模守殿江以春阿弥相伺候処三季献上之通相心得目錄も跡二而進達候様以同人被仰聞候間、松平加賀守御入興二付御道具差上之旨披露いたし目錄者同人江跡二而相渡候為御心得申進候

一右御道具上箱取飾有之相濟申候処向後者上箱之俣差置候様相成候段為心得稻生下野被申聞候

一献上之品書付河野豊州江相渡

一日記方江之書付稻生下野江相渡

一献上物御細工方押合相濟申候

宝曆四戌年四月廿七日

当番
森川兵部少輔

松平加賀守

右紀伊宰相殿御息女縁組被仰付之旨於御白書院御縁頼御老中列座隱岐守殿被仰渡之

一參勤之御礼御滞府二而上使無之節之例

宝曆十一巳年十一月朔日

当番
土井大炊頭

御黒書院

縹紗廿卷

双方長襦

参勤

土佐

銀五十枚

松平加賀守

右中将御太刀御敷居之内下方三疊目之上二置之披露相濟進物

引之、重而御前江罷出夫江与上意有之而御敷居之内着座御取

合有之、上意又御取合有之而退去

明和七寅年四月十五日

当番

松平伊豆守

御黒書院

双方長襦

縹紗二十卷

松平加賀守

伊豆

銀五十枚

右披露相濟退去進物引之重而御前江罷出夫江与上意御敷居之

内着座御取合有之、上意又御取合有之而退去

但中将御太刀御敷居之内三疊目之上二置之

当番

松平右近将監

上使永井伊賀守

松平佐渡守

明和八卯年正月五日

右同断二付為御祝儀被下之

一種

一種一荷

大納言様方

右就同断被下之

一種

右瘡瘡酒湯為祝儀被下之

一種一荷

縮緬五卷

同十六日

本紀伊守殿詰合被申候二付及相談居殘謁可申哉与左近将

監殿江相伺候処居殘二者不及旨被仰聞候

当番

牧野越中守

上使松平紀伊守

松平佐渡守

同 同人

松平加賀守

同 同人

松平佐渡守

同 同人

松平加賀守

当番

牧野豊前守

上使内藤大和守

松平加賀守

右瘡瘡相煩候付為御尋被遣之從大納言様茂右之趣被仰遣之

追而

一松平佐渡守上使為御礼着、名代罷出候義茂可有之哉与幸

右瘡瘡相煩候付為御尋被遣之從大納言様茂右之趣被仰遣之

追而

一松平加賀守上使為御礼名代罷出候者居殘謁不申哉与先格

茂有之候付右近將監殿江相候処名代之義故罷出間敷旨
被仰聞候付居残不申候

但大和殿忌服之義此節熨斗目着用二付先格不相知候故

同之上綾紗小袖麻上下着用被相務候

同十三日

当番

戸田長門守

縮緬五卷

上使牧野遠江守

松平加賀守

一種一荷

右庖瘡酒湯為祝義被下之

追而

一松平加賀守江從大納言様之上使於御本丸遠江守江被仰渡

同人兼相務申候

一同人江上使被仰付之候御請之儀御居残之方江可申達哉与

右近將監殿江遠江守候処先格之通可相心得旨被仰聞候

由御座候、此段為御心得申進候

一同人江上使被遣候得共名代之由二付居残御番之者謁之儀

相伺不申候

同日

居残御番

戸田田因幡守

一松平加賀守江遠江殿上使相濟被罷出於新番所前溜周防守

殿江被申達候、此段為御心得申進候

当番

享保八卯年六月廿八日

土岐丹後守

御黒書院

御太刀一腰

家督之御礼

白銀百枚

松平加賀守

縮緬二十卷

綿 五十把

御馬二疋

栗毛 鴨毛

御刀一腰

青江直次 代金二十枚

右少將御敷居之内下方式疊目之下二御太刀を置松平加賀守御

馬二疋与内藤丹波殿披露進物を引重而罷出御太刀差上候段御

取合有之御敷居之内江入上意有之御手自御熨斗匏被下之

御太刀一腰

隠居之御礼

紗綾五卷

松平肥前守

白銀三十枚

名代 前田伊豆守

右宰相御太刀を御敷居之内下方四疊之下二置松平肥前守与丹

波殿披露御敷居之外二而御礼

松平加賀守家来

紗綾五卷

本多安房守

御太刀銀馬代

候、已上

右之通廻状別紙二申来

延享二丑年八月十一日

当番

松平紀伊守

右松平加賀守家来本多安房守与太田備中殿披露

同

紗綾五卷

横山監物

御太刀銀馬代

御太刀

家督之御礼

双方長袴

右加賀守家来横山監物与土岐丹後殿披露

同断

同

奥村内記

綿五十把

御刀長袴

紗綾三卷

同

今枝民部

御太刀銀馬代

同

津田玄蕃

御刀

青江直次
代金廿枚

同断

同

成瀬内蔵助

右四人披露同断

右松平加賀守御馬二疋与披露進物引之又御前江罷出御敷居之内着座、年寄衆御取合有之上意御手自御熨斗被下之御刀持出御太刀之疊目二置之老中之方へ退罷在

一松平加賀守御礼披露相濟退去進物引之重而献上之御刀同役持

出御太刀目錄披露之席二差置年寄衆着座之方江退夕、加賀守

出座年寄衆御取合加賀守御敷居之内江入候時同役加賀守後を

通御刀溜り之間之方江引之、右和泉守殿御差図二而此通相濟

但少将二付下方二疊目之下御太刀目錄差置進物銀台綿台

紗綾五卷

松平加賀守家来
横山大和

銀馬代

同断

前田對馬

縹紗廿卷

松平加賀守

同断

奧村助右衛門

綿五十把

御刀

紗綾三卷

本多頼母

御馬二疋

河原毛
星栗毛

銀馬代

御刀

青江
代金廿枚

同断

横山藏人

右進物出御太刀目録持出御敷居之内下方二疊目之下二置之加賀守罷出松平加賀守御馬二疋与披露、進物引之重而加賀守罷

同断

玉井市正

出着座有之、上意有之御刀持出御太刀目録之疊目二置之老衆

同断

西尾隼人

右松平加賀守家来横山大和前田對馬奧村助右衛門本多頼母横

山藏人玉井市正西尾隼人与本紀伊守殿披露

廻状追而

紗綾五卷

横山大和守

一松平加賀守着座之儀相同候処先格之通着座有之、且又御熨

斗蛇被下候旨雅楽殿被申聞候御刀持出候義茂先例之通心得

候様被申聞候

同断

前田對馬守

延享四卯年二月十二日

当番 秋元撰津守

紗綾三卷

横山藏人

肝煎 松平備前守

銀馬代

加賀守家来
奥村助右衛門

御黒書院

同断

加賀守家来
前田修理

銀百枚

家督之御礼 双方長袴

同断

加賀守家来
前田中務

同断

加賀守家来

玉井市正

廻状追而

一加賀守着座之儀相伺候処先格之通着座有之由伯耆守殿被仰

聞候

宝曆三酉年六月五日

助番

永井伊賀守

肝煎

松平紀伊守

御黒書院

御太刀一腰

家督之御礼

双方長袴

銀 百枚

松平加賀守

縹紗二十卷

御刀

綿 五十把

御馬 栗毛 鴨毛

御刀一腰

備前景光
代金二十枚

右献上物出御太刀目錄御奏者番持出加賀守出座御奏者番披露

松平加賀守御馬二疋と披露、加賀守退去進物引之重而献上之

御刀御奏者番持出御太刀之畳目二差置老衆之方江退御敷居之

外一畳目加賀守出座御刀差上候旨老衆言上之、加賀守御敷居

之内江入候時御奏者番加賀守後を通り御刀溜り之間江引之、

御床之上二置加賀守着座家督御礼申上候段老衆言上上意有之

而加賀守立溜り江退去、此時御勝手之方番頭半袴二而御熨

斗持出御手自御熨斗匏被下之復座、老衆御取合申上退去

但伯耆守殿江伺之上少将之格二相濟申候、御太刀目錄御敷

居之内二畳目之下二置之銀台御敷居之内卷物台外一畳目綿

台外二畳目二置之

御熨斗ハ番頭御熨斗被下候節加賀守御熨斗出候を見懸御

次江立肝煎之脇二而小サ刀取罷出御上段江上り御熨斗頂

戴

紗綾五卷

松平加賀守家来

本多安房守

銀馬代

伯耆守殿御差図二付本多安房守其身帶劍長袴二而罷

出候先格之通披露、進物番共半袴二而相濟申候

右御太刀目錄畳日常陪臣之通差置松平加賀守家来本多安房守

与披露、御太刀納候所溜り御障子際二差置

同人家来

前田大炊

無刀

右御太刀目錄常陪臣之通差置加賀守家来前田大炊与披露、御

太刀納所右同断

同断

同人家来

横山求馬

無刀

宝曆四戌年三月十五日

但安房守初家来七人何茂御取合無之

当番

阿部飛驒守

肝煎

朽木土佐守

紗綾三卷

同人家来

青山将監

無刀

御黒書院

御太刀一腰

家督之御礼

双方長袴

銀馬代

右次第同断加賀守家来青山将監与披露

同断

同人家来

横山蔵人

無刀

銀百枚

松平健次郎

御刀長袴

縹紗二十卷

綿五十把

右次第同断加賀守家来横山蔵人与披露

同断

同人家来

玉井市正

無刀

御刀一腰

備後国兼從
代金二十枚

右次第同断加賀守家来玉井市正与披露

同断

同人家来

中川八郎右衛門

無刀

右次第同断加賀守家来中川八郎右衛門与披露

右前田大炊以下六人其身長袴無刀二而罷出尤披露進物番

半袴

右進物出御太刀目錄御奏者番御敷居内下方二疊目之下二置之
健次郎罷出松平健次郎御馬二疋与披露相濟而退去、御奏者番

御太刀目錄引之進物引之重而御刀御奏者番持出御太刀目錄披
露之疊目二差置溜御敷居外江退久、健次郎出座御刀差上旨右

近將監言上夫江と上意、健次郎御敷居内江入候時御奏者番健

次郎後を通り御刀引溜之間御床江上置健次郎着座之節家督御

礼申上候段右近將監言上之上意有之、此時番頭森川下総守半

袴御熨斗匏三方御前江持出候時御熨斗匏被下旨上意有之健次

郎御次之間江退、肝煎脇二小サ刀を置而罷出不及中座直二御

下段江入御上段際を膝二而進ミ上り御熨斗匏御手自被下御下

段江すさり下り戴之御下段着座之席江健次郎復座、此時老衆

御取合申上退去御熨斗匏三方番頭引之

但銀台御敷居之内一疊目二置巻物台外一疊目綿台外二疊目

二置之

縮緬五卷

松平健次郎家来 半袴

本多安房守

銀馬代

帶劍

右松平健次郎家来本多安房守与披露相济御取合無之

但右近將監殿江伺之上本多安房守先格之通帶劍長袴二而罷

出披露、進物番共半袴二而相济申候

但御太刀疊目陪臣之通

紗綾五卷

村井主膳同

銀馬代

無刀

右健次郎家来村井主膳与披露相济御取合無之

同断

長九郎左衛門

右健次郎家来長九郎左衛門与披露相济御取合無之

同断

奥村主水

右健次郎家来奥村主水与披露相济御取合無之

紗綾三卷

銀馬代

横山藏人

右健次郎家来横山藏人与披露相济御取合無之

同断

前田兵部

右健次郎家来前田兵部与披露相济御取合無之

同断

中川式部

右健次郎家来中川式部与披露相济御取合無之

明和八年五月二日

当番 牧野豊前守

廻状追而

一松平時次郎家督以後端午之御祝儀初而就差上候官位未被仰付

候間如何相心得可申哉と何レ茂申談昨日佐渡守殿江以順阿弥

相伺候処、加賀守通二相心得御同人以同人被仰聞其通相濟申

明和八卯年四月廿三日

当番
太田備後守

候

御座之間

同十五日

当番
牧野豊前守

松平加賀守

一御即位相濟候為御祝儀松平時次郎二種一荷以使者差上之於松

名代
松平播磨守

之間拙者謁申候

松平時次郎

追而

一紀伊殿水戸殿使者江八御用番御逢、松平時次郎使者江八当番

御懇之上意有之由

謁之儀昨日右近將監殿江以三阿弥相伺候処先格之通可致旨御

松平時次郎

同人以同人被仰聞候付本文之通相濟申候、且時次郎献上物追

右於御白書院西御縁類御老中御逢候

而帳面二書載出候付目錄差出不申候

同年五月十五日

当番
牧野豊前守

明和八卯年三月廿五日

当番
戸田因幡守

御黒書院

者謁申候

縹紗五卷

初而 御目見 双方長袴

御黒書院

金馬代

松平時次郎 伊勢 △

御太刀一腰

右披露相濟夫江与上意少罷出御取合有之而退去

白銀百枚

相統之御礼 双方長袴
松平時次郎 伊賀 △

△ 周防守江伺之上先格之通

縹紗二十卷

御刀 美濃

諸大夫之通相濟申候

綿 五十把

御馬 二疋 栗毛 鴨毛

△

右近將監殿江伺之上先格

白銀三十枚

名代 前田伊豆守

御刀 備前國長次 代金二十枚

之通少將之格二相濟申候

右松平肥前守与披露御取合無之

右進物出御太刀目錄御奏者番持出時次郎出座松平時次郎御馬

但中將御太刀御敷居之内下方三疊目之上二置之

二疋与披露相濟退去、御奏者番御太刀目錄引之進物引之重而

御白書院

献上之御刀御奏者番持出御太刀目錄披露之疊目二差置溜御敷

松平時次郎家来 七人

横山河内守

居之際江退キ、時次郎出座御刀差上候旨右近將監言上之夫江

紗綾五卷

△ 兵庫

与上意、時次郎御敷居之内江入候時御奏者番時次郎後を通り

銀馬代

無刀

御刀引時次郎着座之節相続之御礼申上候段右近將監言上之上

右松平時次郎家来横山河内守与披露

意有之、時次郎御次之間江退キ番頭半襠御熨斗匏三方御前江

同断

村井又兵衛 備後

持出候時時次郎肝煎脇二小サ刀を置罷出不及中座直二御下段

右時次郎家来村井又兵衛与披露

江入御上段江上り御熨斗匏御手自被下御下段江すさり下り戴

紗綾三卷

前田修理 豊前

之御下段着座之席江時次郎復座、此時右近將監御取合申上上

銀馬代

同

意又御取合有之候而退去御熨斗匏三方番頭引之

右時次郎家来前田修理与披露

但伺之上少將之格御太刀目錄御敷居之内二疊之下二置之銀

同断

前田市正 松能登

台御敷居之内一疊目綿台外一疊目卷物台外二疊目二置之

右時次郎家来前田市正与披露

御太刀一腰

隱居之御礼 同断

同断

伴八矢 因幡

紗綾五卷

伊賀 松平肥前守

右時次郎家来伴八矢与披露

同

同断

大音帶刀 伊勢

卯年之趣茂有之候間於御白書院御縁頼謁申候此段為御心得

右時次郎家来大音帶刀与披露

同

申進候

同断

西尾隼人 兵庫

安永二巳年正月廿一日

助番
戸田長門守

右時次郎家来西尾隼人与披露

同

上使松平与次右衛門
松平肥前守

下札

延享二丑年横山大和与披露、同四卯年横山大

右御鷹之鶴被下之

和守与下司有無之披露、兩例有之二付河内守

追而

披露之義如何可仕哉与右近將監殿江以順阿弥

一松平肥前守以上使御鷹之鶴被下候御礼名代登城可仕候、名

相同候処下司を付ケ致披露候様与被仰聞、且

代江者只今迄居残不申候得共若加賀守為名代罷出候ハ、居残

河内守無刀二而罷出披露進物番共半袴之心得

謁可申哉与右京大夫殿江以三阿弥相同之処可致其通旨被仰聞

罷在候段御同人江以同人申達其通相济申候

候、加賀守為名代罷出候由二付居残候処七打候迄不被出候付

明和九辰年七月廿九日

当番
土岐美濃守

罷出候、已上

雲雀三十

上使牛込忠左衛門
松平肥前守

同 五十

名代
松平加賀守
同 同人
松平加賀守

右御鷹之雲雀被下之

追而

一松平加賀守儀松平肥前守名代兼御礼罷出候付謁之儀享保八

喜連川

一年頭御礼大広間二ノ間二而当番御太刀請取御中段一疊目二御下段より置之、松之御襖之方江附御中段右三疊目程御下段よりハ少シ上江寄喜連川左兵衛督与致披露、御年頭与ハ不申候

一御白書院二而ハ御敷居より三疊目置之其身一疊目二而御礼申上

當時正月二日年頭御礼当番披露二相極御太刀御中段壹疊目之下差置披露相濟事

但披露致様ハ先格之通故爰二略

天和二戌年七月廿八日

当番
松平因幡守

一辰后刻御白書院出御

初而御目見

銀馬代

左兵衛督惣領
喜連川戌王丸

右御太刀御敷居之内三疊目其身一疊目二而御礼御取合有之

貞享二丑年正月二日

当番
朽木伊予守

一喜連川右兵衛披露之儀御老中依御差函喜連川右兵衛与計松平

因幡守披露

正徳四午年正月廿七日

当番
松平備前守

一河内守殿御渡候書付式通

御奏者番江

喜連川右兵衛督

右先規之通向後下司披露可有之候

別紙

喜連川右兵衛督

御太刀置所

御白書院御下段御敷居之内下方三疊目

其身御礼

同所一疊目

正徳四午年正月廿八日

当番
三浦壹岐守

繼目之御礼

蠟燭二箱

右京
喜連川右兵衛督

金二枚

右披露之儀河内守殿江備前守壹岐守相伺兵衛督卜披露相濟候

享保二酉年正月十五日

当番
土井伊予守

御白書院

銀馬代

右兵衛督嫡子 双方長袴
初而 主水

喜連川梅千代

右御太刀御敷居之内三疊目其身ハ御敷居之内一疊目二而御礼申上候先格二付山城守殿江相伺候処先格之通いたし候様被仰聞其通相濟申候

御太刀御敷居之内三疊目之中二置御縁頬下ハ二疊目ひらき

其身御敷居之内一疊目二而御礼之時致披露御取合有之退去

享保六丑年閏七月廿八日

当番 内藤丹波守

御白書院

御太刀馬代

双方長袴 主水

金三枚

喜連川左兵衛督

蠟燭二箱

一喜連川御礼席御太刀置所先規通相心得候之様和泉守殿被仰聞候、進物置所之儀先格難相智二付御同人江相伺候得者御太刀置所中将之通候間進物茂夫二准馬代者御敷居之内二疊目二置蠟燭箱者御敷居之外一疊目二差置候様被仰聞候

御太刀御敷居之内三疊目之上二置喜連川左兵衛督与披露い

たし候、其身御敷居之内二而御礼上意有之

寛保元酉年九月朔日

当番 松平備中守

一御転任并御兼任御元服御祝儀織田兵部大輔黒田大和守牧野内膳正従在所以使者御太刀馬代銀子壹枚ツ、差上之於桧之間拙者謁一紙目錄認之、喜連川左兵衛督同断二付従在所以使者御太刀馬代銀子壹枚ツ、差上之、右於同席拙者謁一紙目錄末二認之左近将監殿江以順阿弥差出候

宝曆五亥年十一月朔日

当番 井上河内守

御白書院

銀馬代

初而御目見 双方長袴
左兵衛督嫡子 周防

喜連川戌王丸

右御太刀御敷居之内三疊目之中二置之其身壹疊目二而御礼披露相濟御取合有之而退去
一喜連川戌王丸御礼席御太刀置目之儀享保二酉年正月十五日梅千代初而御目見之節当番土井伊勢守戸田山城守殿江伺候処、先格之通いたし候様御差図二付御太刀御敷居之内三疊目之中

名代 宮原市正

二置其身御敷居之内一疊目二而御礼相济候、高木主水正披露被致候、享保六丑年閏七月廿八日左兵衛督家督御礼之節進物置所之儀先格難相知当番内藤丹波守水野和泉守殿江伺候処中将之通差置候様御差図二付太刀茂御敷居之内三疊目之上二置

右中将之格御敷居之内三疊目之上二御太刀を置於御縁頼御礼喜連川左兵衛督与披露相济退去

之高木主水正被致披露候、右之通御太刀置所両度両様二有之

名代故御礼席之儀御縁頼二而可有之旨同役中申談之上隠岐守殿江以春阿弥相伺其通相济上意御取合無之

候間何レ二可差置哉之旨伯耆守殿江以春阿弥当番被相伺候候梅千代初而御目見之節之通二可致旨御差図有之其通二相济候

一宝曆八寅正月二日喜連川左兵衛督年頭之御祝義就病氣以使者献上物出ル、大広間名代使者之末江罷出候

宝曆七丑年十二月廿八日

当番 金森兵部少輔

宝曆十二年三月朔日

当番 大岡兵庫頭

御白書院

御白書院

蠟燭二箱

家督御礼 双方長袴 土佐

家督之御礼 双方長袴 土佐

金馬代

喜連川右兵衛督

蠟燭二箱

喜連川廉之助

右中将之格御敷居之内三疊目之上二御太刀を置喜連川右兵衛督与披露相济御取合有之而退去

金馬代

名代 松平大膳亮

其身御敷居之内一疊目二而御礼上意無之先格之通金馬代

右御太刀御敷居之内三疊目之中二置名代故御縁頼二而御礼喜連川廉之助与披露、名代故御取合無之候

御敷居之内式疊目蠟燭箱御敷居之外上方壹疊目二置之

一喜連川廉之助御名代御礼申上候付宝曆七丑年十二月廿八日左兵衛督隠居之御礼名代罷出候節之通相心得御太刀御敷居之内

隠居之御礼 同断 壹岐

銀馬代

喜連川左兵衛督

三疊目之中二置御縁頼御障子際尔て御礼申上候様可仕哉、諸

事先格之通可仕段河内守江以春阿弥相伺候処其通可致旨申聞

候

明和三戌年四月廿七日

当番

西尾主水正

右披露相済直御取合有之候而退去

但御礼之儀享保二年正月十五日梅千代初而御目見之節之

通相心得可申哉与伯耆守殿江当番河内守春阿弥を以相伺

一大納言様御元服御祝儀織田美濃守就在邑御太刀馬代銀子壹枚、

喜連川金王丸同断御祝儀從在所御馬代(太刀丸)馬代銀子壹枚、喜連川

禿翁同断御祝儀從喜連川御太刀馬代銀子一枚、右何茂以使者

差上之於医師之間拙者謁一紙目錄兩通認之

追而

一織田美濃守喜連川金王丸喜連川禿翁使者檢之間相済候付於

医師之間謁申候

明和五子年十一月九日朽木土佐守より被差越候例書左之通

宝曆五乙亥年

当番

井上河内守

肝煎

鳥居伊賀守

一辰后刻御白書院出御

七月廿八日

当番

松平因幡守

一月次之御礼相済

御白書院

右御太刀御敷居之内三疊目其身一疊目二而御礼御取合有之

銀馬代

喜連川戌王丸

初而御目見
左兵衛督養子

銀馬代

双方長襦
周防

喜連川戌王丸

享保二酉年

正月十五日

当番

土井伊予守

御白書院

御奏者番江

喜連川右兵衛督

銀馬代

右兵衛督嫡子 双方長襦
初而 喜連川梅千代 主水

右先規之通向後下司披露有之候

右御太刀御敷居之内三疊目其身八御敷居之内一疊目二而御礼

別紙

申上候先格付山城守殿江相伺候処先格之通致候様被仰聞其通

喜連川右兵衛督

相濟申候

御太刀置所

御太刀御敷居之内三疊目之中置御縁頬下方二疊目江披キ其

御白書院御下段御敷居之内下方三疊目其身御礼

身御敷居之内一疊目二而御礼之時致披露御取合有之退去

同所一疊目

同

正徳四年年

喜連川繼目御礼之例書

正月廿八日

当番 三浦老岐守

貞享二丑年

御白書院

正月二日

当番 朽木伊予守

蠟燭二箱

繼目之御礼

一喜連川右兵衛披露之儀御老中依御差函喜連川右兵衛与計松

金 三枚

喜連川右兵衛督 右京

平因幡守披露仕候

正徳四年年

候

正月廿七日

当番 松平備前守

享保六丑年

一河内守殿御渡候書付二通

閏七月廿八日

当番 内藤丹波守

御白書院

御太刀馬代

繼目之御礼

双方長袴
主水

金 三枚

喜連川左兵衛督

蠟燭二箱

一喜連川御礼席御太刀置所先規之通相心得候之様和泉守殿江

被仰聞候、進物置所之儀先格難相知付御同人江相伺候得ハ

御太刀置所中將之通候之間進物も夫ニ准シ、馬代者御敷居

之内二疊目ニ置蠟燭箱ハ御敷居之外壹疊目ニ差置候様被仰

聞候

御太刀御敷居之内三疊目之上置喜連川右兵衛督与披露い

たし候、其身御敷居之内二而御礼上意有之候

宝曆十二壬午年

三月朔日

当番
大岡兵庫頭

肝煎
毛利讚岐守

一月次之御礼相濟

御白書院

家督之御礼

蠟燭二箱

金馬代

喜連川廉之助

双方長袴
土佐

右御太刀御敷居之内三疊目之中二置名代故御縁類二而御礼喜

連川廉之助与披露名代故御取合無之候

一喜連川廉之助名代を以御礼申上候付宝曆七丑年十二月廿八

日左兵衛督隠居之御礼名代罷出候節之通相心得、御太刀御

敷居之内三疊目之中二置御縁類御障子際二而御礼申上候様

可仕哉、諸事先格之通可仕之段河内守江以春阿弥相伺候処

可致其通旨申聞候

明和三年正月二日

当番
大岡兵庫頭

一老衆揃後喜連川金王丸并喜連川禿翁名代之使者万石已上之末

江兩人別段差出候段右京大夫殿江御同朋頭を以兵庫殿被申上

候

明和五子年十二月朔日

当番
本多豊後守

御白書院

初而 御目見

双方長袴
大炊

喜連川金王丸

右御太刀御敷居之内三疊目之中二置之其身一疊目二而御礼披露相济御取合有之而退去

但上意無之其身し、ら熨斗目長袴披露之者ハ御太刀を置御

縁類下方二疊目江披披露相勤候

廻状追而

一喜連川金王丸初而御目見席之儀前格之通相心得可申哉之旨

周防守殿江順阿弥を以相同候処其通可致旨被仰聞候、御太

刀御闕之内三疊目之中其身与御闕之内一疊目二而御礼相济

申候

一今日喜連川金王丸初而御目見二付左之例書当番豊後殿無急度

順阿弥迄差出被申候

卷上

例書

喜連川

宝曆五乙亥年十一月朔日

当番
井上河内守
肝煎
鳥居伊賀守

一月次之御礼相济

御白書院

初而御目見
左兵衛督嫡子
銀馬代

双方長袴
周防
喜連川戌王丸

右披露相济直御取合有之候而退去

但御礼之儀享保二年正月十五日梅千代初而御目見之節之通

相心得可申哉与伯耆守殿江当番河内守春阿弥を以相同候処、

先格之通致候様被仰聞候付御太刀御敷居之内三疊目之中二

置之御縁類下方二疊目江披其身御敷居之内一疊目二而御礼

申上之

正徳四年正月廿七日

当番
松平備前守

一河内守殿御渡候書付二通

御奏者番江

喜連川右兵衛督

右先格之通向後下司披露可有之候

別紙

喜連川右兵衛督

御太刀置所

御白書院御下段御敷居之内下方三疊目其身同所忝疊目

正徳四年正月廿八日

当番
三浦耆岐守

御白書院

蠟燭二箱

繼目之御礼

諸事先格之通可仕之段河内守江春阿弥を以相伺候処可致其通旨被申聞候

金 二枚

喜連川右兵衛督

明和六丑年正月二日

当番
土屋能登守

右披露之儀河内守殿江備前守壹岐守相伺兵衛督与披露相济申候

一喜連川左兵衛今日日出礼披露等前々之通相心得可申哉と右近將監殿江以順阿弥当番被相伺候処可致其通旨被仰聞候

宝曆十二壬午年三月朔日

当番
大岡兵庫頭

一喜連川披露当番土能登殿頼二付美濃守相勤

一月次之御礼相济

肝煎
毛利讚岐守

一四品之衆出礼初り候と喜連川左兵衛督御太刀美濃守御敷居方

御白書院

家督之御礼

双方長袴
土佐

三疊目辺二而受取之、四品以上御盃時服頂戴相济候与月番老中之際江進御土器台等御給仕引候頃老衆会积有之、太刀目録持出中央方上り御中段黒縁江五分程折紙掛り候程二太刀目録

蠟燭二箱

喜連川廉之助

置之、右江廻り御襖建合を後二手を突罷在左兵衛督中央方罷

金馬代

名代
松平大膳亮

出其身三疊目四疊目江手をかけ御礼喜連川左兵衛督与披露

右御太刀御敷居之内三疊目之中二置之名代故御縁頼二而御礼
喜連川廉之助与披露名代故御取合無之

但御立座披露程二高ク致披露候、左兵衛立候与美濃守も立

一喜連川廉之助名代を以御礼申上候付宝曆七丑年十二月廿八日

太刀折紙持直二中央方元のことく下り掛板二御同朋罷在

左兵衛督隠居之御礼名代罷出候節之通相心得御太刀御敷居之

一老衆二之間御襖際二列座西御縁頼方時服台中奥持出老衆前二

内三疊目之中二置御縁頼御障子際二而御礼申上候様可仕哉、

差置左兵衛督罷出頂戴北之御襖方退去

但時服頂戴之節当番構無之

松前之部

寛保三亥年八月十六日

当番
松平伊賀守

松前若狭守

被為召亡父志摩守遺領無相違被下置志摩守時之通領分仕置入
念可申付旨於波之間御老中列座伊豆守殿被仰渡候事

同年九月朔日

当番
松平伊賀守

家督之御礼
松前若狭守

右披露相濟御取合有之而退去

同年十月朔日

当番
松平備中守

御暇
松前若狭守

右於御次御暇拜領物被仰渡披露相濟直御取合有之而退去

一松前若狭守拜領物於御白書院御縁頼御老中列座之事

寛保四子年正月廿一日 二月廿六日 延享下改元
当番
松平備中守

松前若狭守

家督初而被下御暇在所江参着二付為御礼熊皮御障泥三間以使
者差上之於廊下拙者謁一紙目錄認丹後守殿江良阿弥を以差出

候事

延享四卯年正月十五日

当番 松平豊後守

初而 御目見
若狹守弟

松前為次郎

延享四卯年正月廿八日

当番 青山周防守
御暇 松前若狹守

右於御次御暇拝領物老衆列座隱岐守被申渡過而御前江罷出披
露上意有之退去

右同人

右国政之御朱印被下之候旨於御白書院御縁頼隱岐守列座相模
守殿被仰渡頂戴之大橋藤九郎誦聞之

宝曆六子年十一月朔日

当番 松平紀伊守
参府 松前若狹守

右披露相濟御取合有之而退去

宝曆七丑年正月廿八日

当番 青山因幡守
御暇 松前若狹守

右於御次御暇拝領物被仰渡御前江罷出披露相濟御取合上意又
御取合有之而退去

宝曆七丑年五月廿五日

当番 水野肥前守

一松前若狹守被下御暇就在着熊皮御障泥三掛為御礼以使者差上
之於廊下拙者謁一紙目錄認

明和二酉年十月十一日

当番 戸田長門守
松前外記

右被為召亡父若狹守遺領無相違被下置若狹守時之通領分仕置
入念可申付旨於波之間御老中列座右近將監殿被仰渡之

当番 永井伊賀守

寛保元年酉十一月十三日

一御転任并御兼任御元服之御祝儀松平志摩守従在所以使者御太
刀馬代銀子壹枚ツ、右同断為御祝儀松前若狹守従松前以使

者御太刀馬代銀子壹枚ツ、差上之、右何茂於檢之間拙者謁一

紙目錄認之左近將監殿江順阿弥を以差出候

明和三戌年五月三日

当番 土井大炊頭

一松前志摩守初而被下御暇就在着熊皮御障泥三懸為御礼以使者
差上之於廊下拙者謁一紙目錄認之右京殿江以常阿弥差出候
同年七月十一日

当番 牧野遠江守

追而

一大納言様御元服御祝儀松前志摩守從在所御太刀馬代銀子一枚
以使者差上之於檢之間拙者謁一紙目錄認之

一御台様江同断御祝儀右同人干鯛一箱以使者差上之於中之口家
来為受取半切認之、尤献上物ハ伊丹兵庫江申達御広敷添番江
相渡候、右一紙目錄并半切御懸右近將監殿江可差出之処不快
二付周防守殿江以休阿弥相同御同人江以同人指出候

吉川左京

一松平大膳大夫家来防州岩国罷在宝永三年迄之御礼書主人之名
有之

元禄九子年十二月廿二日

当番
土井周防守

一松平大膳大夫家来吉川勝之助繼目之御礼幼少二付以使者差上
之、ケ様之例無之二付同役致相談周防守御月番山城守殿江相
伺候処拙者逢候様二と被仰聞於檢之間逢申候

宝永三戌年七月十一日

当番
松平宮内少輔

一吉川勝之助初而御暇在着二付為御礼以使者箱着一种差上之、
使者相尋候処先代初而被下御暇在着使者差上候節者奏者番逢
候由申候、依之先例相尋申候処久敷事故不相知候二付御月番
河内守殿へ伺候処逢候様二と御指図二付於廊下謁一紙目錄認
之

宝永六丑年七月十三日

当番
鳥居播磨守

一御台様御叙位之御祝儀吉川勝之助以使者献上物家来為受取半
切認

正徳三巳年二月十二日

当番
石川近江守

一御袴着之為御祝義吉川勝之助干鯛御樽代差上之如例家来為請
取半切認

享保元申年八月廿八日

当番
土井伊予守

一吉川勝之助子吉川左京將軍宣下為御礼以使者御太刀馬代差上
之同役中相談之上於廊下拙者謁一紙目錄末二認河内守殿江差
出候

享保八卯年八月廿五日

当番
高木主水正

一吉川左京御暇於躑躅之間對馬守殿被仰渡縮緬五卷拜領之先格
之通広蓋口頂戴いたし候

元文四未年十一月九日

当番
牧野越中守

一吉川左京御暇於躑躅之間左近將監殿被仰渡縮緬五卷拜領之先
格之通広蓋口頂戴いたし候

宝曆十一巳年十一月十六日

当番
酒井飛驒守

一吉川左京御暇於躑躅之間河内守殿被仰渡縮緬五卷拜領之先格
之通広蓋口頂戴いたし候

元文四未年九月廿五日

当番
松平紀伊守

一松平大膳大夫重陽御祝儀差合二付延引御小袖二今日以使者差

上之、吉川左京同断御祝義大膳大夫差合二付延引今日御小袖
二是又以使者差上之於中之口家来二為受取候

一松平大膳大夫利根姫君様御安産御七日夜御祝儀右同断二付延
引今日一種五百疋以使者差上之、吉川左京右同様二付干鯛一
箱是又以使者差上之於同席家来為受取候、右半切両通認左近
將監殿江以順阿弥差出吉川左京半切之末二認之

宝曆十一巳年四月十五日

当番
久世出雲守

一御台様御着帶御祝義松平大膳大夫昆布一箱鯛一箱御樽代五百
疋差合二付延引今日以使者差上之、吉川左京右同断御祝義干
鯛一箱御樽代三百疋大膳大夫差合二付延引是又以使者差上之、

右何茂於蘇鉄之間家来為受取半切両通認之右近將監殿江以春
阿弥差出候

阿弥差出候

一御台様江同断御祝儀同人方右同断ツ、何茂同断二付延引今日
以使者差上之於中之口家来為受取半切両通認之同人江以同人
差出候、献上物ハ水谷総州江申達御広敷添番江相渡申候

寛保元酉年九月廿五日

当番
松平備中守

一御転任御兼任御祝儀松平安芸守国許方以使者御太刀馬代黄金

十両ツ、吉川左京右同断御祝義從防州岩国以使者御太刀馬
代銀子壹枚ツ、差上之於檢之間拙者謁一紙目錄認伊豆守殿江
三阿弥を以差出候

一吉川左京一紙目錄之末少間明候而相認差出候

宝曆十辰年三月廿五日

当番 朽木土佐守

一吉川左京御転任御祝儀從防州岩国以使者御太刀馬代銀子一枚
差上之於檢之間拙者謁一紙目錄之末桁明置認之相模守殿江以
三阿弥指出候

元文五申年正月十三日

当番 戸田右近將監

一吉川左京被下御暇在着二付為御礼干鯛一箱以使者差上之先例
之通於廊下拙者謁一紙目錄認伊豆守殿江以順阿弥差出候

宝曆十二年正月十六日

当番 酒井飛驒守

一吉川左京被下御暇岩国江参着仕候二付為御礼干鯛一箱以使者
差上之先格之通於廊下拙者謁一紙目錄認之右京大夫殿江三阿
弥を以差出候

一参上之御礼之節御家人之通主人之名不申其身之苗字名計申候

例

宝永七寅年五月十五日吉川勝之助参上之節右之ことく、
尤双方長袴之

近例

宝曆十一巳年十月朔日

当番 太田摂津守

一吉川左京参上之御礼之節先格之通吉川左京と披露、進物番
并二長袴致着用候旨但馬守殿江春阿弥申達候、且御太刀ハ
御同朋頭江相渡可申哉先格不分明二付御同人江以同人無急
度相伺候処溜江引可申達旨以同人被仰聞其通り相濟申候

一御手伝相勤候節ハ拜領物広蓋口頂戴之古格之由家来江も被下
もの有之候事

例

寛保三亥年四月十五日

当番 朽木土佐守

時服六

内二

御紋付

吉川左京

名代 笹本鞠負佐

右川之御普請所御手伝相務候付被下之旨於躑躅之間左近
殿被申渡拜領物頂戴之

但古格之通広蓋口頂戴、吉川左京家来兩人同断御用相

勤候付銀被下、尤於桧之間左近殿被申渡

明和二酉年二月十五日

当番
牧野遠江守

一吉川吉五郎繼目之御礼從岩国以使者御太刀馬代黄金十兩綿廿把差上之、正徳五末年九月廿二日之例を以右近將監殿江以順

阿弥相伺候処可致其通旨被仰聞候二付於桧之間拙者謁一紙目

録認之御同人江以同人差出候

同三戌年二月十五日

当番
西尾主水正

双方長袴
其身帶劍
吉川吉五郎

一参上

右披露相濟直二御取合有之而退去

但御太刀目錄陪臣之通下二差置帝鑑之間之方江上ヶ置其身

陪臣之席二而御礼御太刀目錄ハ溜り江引申候、尤御太刀目

録吉五郎方直二請取申候

一右近將監殿江以常阿弥申達先格之通披露相濟申候、尤披露

進物番共長袴致着用候旨廻状附札申来

享保八卯年十一月九日

当番
丹波式部少輔

一久留島信濃守被下御暇在着二付為御礼以使者煎海鼠一箱吉川

左京初而被下御暇在着二付為御礼以使者干鯛一箱差上之、右

何茂如例於廊下拙者謁一紙目錄兩通二認對馬守殿江差出候

寛保三亥年十月朔日

当番
松平備中守

吉川左京

一参上

右披露相濟直二参上之御礼申上候段御取合

右先格之通披露進物番共長袴致着候

同年十一月六日

助番
松平紀伊守

吉川左京

右被下御暇拜領物被仰付旨於躑躅之間左近將監殿被仰渡之

追而

一吉川左京拜領物先格之通広蓋口二而相濟申候、為御心得申

進候

同年十二月廿五日

当番
松平右近將監

一渡辺越中守被下御暇就在着為御礼干鯛一箱以使者差上之於廊

下拙者謁一紙目錄認之

一吉川左京右同断為御礼干鯛一箱以使者被差上之先格之通於廊

下謁一紙目錄認之、右両通伊豆守殿江以良阿弥指出候

明和三戌年二月七日

当番
久世出雲守

松平大膳大夫

酒井修理大夫

名代
酒井大和守

右濃州勢州川之御普請御手伝被仰付之旨於波之間御老中列座

右近将監申渡、大膳大夫江者吉川吉五郎儀茂右御用可相勤段

可申渡旨申渡之

明和三戌年三月十六日

当番
板倉美濃守

一吉川吉五郎監物与名改候由稲垣羽州被申聞候

同年三月廿三日

当番
増山对馬守

紗綾五卷

御暇
吉川監物

右於躑躅之間周防守殿被仰渡拝領物頂戴之

追而

一吉川監物拝領物先格之通広蓋口二而相濟申候為御心得申進

候

一右御暇被仰渡有之節当番出席拝領物頂戴之直当番之方を向御

礼申上候付当番取合いたし候、尤広蓋引

同日

一土佐殿被申候ハ先達而御坊主前之吉川監物太刀ハ肝煎持参候

先格之由申候得共先年伺之上陪臣之通溜り江引候由、依之披

露陪臣之通請取候、太刀畳目者御三家方城代格之通之由被申

聞候

同年五月十六日

当番
土屋能登守

一大納言様元服御祝儀松平阿波守從国元御太刀馬代黄金十両、

同断御祝儀九鬼長門守間部主膳正、永井飛驒守、牧野豊前守、

仙石越前守從在所御太刀馬代銀子壹枚ツ、同断御祝儀吉川

監物從旅中御太刀馬代銀子壹枚、同断御祝儀松平奎頭阿州徳

島方御太刀馬代黄金十両、分部若狭守從江州大溝、南部左衛門

尉從奥州八戸御太刀馬代銀子壹枚ツ、右何茂以使者差上之

於松之間拙者謁一紙目錄四通認之

一御台様江同断御祝儀松平阿波守白銀五枚干鯛一箱、九鬼長門

守白銀二枚干鯛一箱、永井飛驒守、牧野豊前守白銀二枚干鯛一

箱ツ、仙石越前守白銀三枚干鯛一箱、吉川監物白銀二枚干鯛

明和三戌年七月朔日

当番

久世出雲守

一箱、松平李頭白銀二枚干鯛一箱、右何茂以使者差上之於中之

時服六

吉川監物

口家來為請取半切三通認之、尤献上物ハ伊丹兵庫江申達御広

内御紋付二

名代
笹本鞞負佐

敷添番江相渡候、右一紙目錄并半切右近將監殿江以常阿弥差

右濃州勢州川之御普請御手伝相勤候付被下之旨於躑躅之間右

出候

近將監申渡拜領物頂戴之

一吉川監物先格之通一紙目錄半切共末江桁置二認差出候

吉川監物家來

同年五月廿三日

当番
増山対馬守

銀二十枚

總奉行
吉川内記

一藤堂佐渡守被下御暇就在着二種一荷、吉川監物同断岩国江参

銀十枚

副奉行
山田三郎右衛門

着仕候付干鯛一箱、右何茂為御礼以使者差上之於廊下拙者謁

右同断御用相勤候付為御褒美被下之旨於桧之間同人申渡拜領

一紙目錄認之右京大夫殿江以三阿弥差出候

物者拙者出席頂戴為致候様二と指図二付其通相濟申候、右頂

一吉川監物使者先格之通於廊下謁一紙目錄是又先格之通兩通認

戴相濟候段同人江以順阿弥申達候

差出候

追而

但右一紙目錄去十六日御元服御祝儀吉川監物献上之節之通

一吉川監物拜領物被仰渡其後罷出頂戴之拜領物進物番引之畢而

桁明二被相調候処、依西丸当番越中殿一紙目錄兩通二認來

御礼二罷出其節先格之通拙者致取合候、尤古格之通広蓋口頂

候付先格被糺候処享保八年十一月十九日寛保三年十月朔日

戴之

吉川左京在着使者罷出候節外在着使者も有之、一紙目錄兩

但右近將監殿順阿弥を以当番江吉川監物家來拜領物被仰渡

通二相成候付認直右之通相濟申候

候、御同人可被仰渡候如先格当番拜領物為致頂戴候様被仰

聞於躑躅之間拜領物被仰渡、尤三度出広蓋引御礼節当番致
取合時服六ツ之内二ツ葵御紋四ツハタ、紋也、監物家来拜
領物ハ於桧之間右近将監殿被仰渡相濟御引候と当番屏風仕
切例席ニ出席、銀台進物番持出御敷居之内ニ置之老入ツ、
罷出頂戴之、尤銀計也、兩人相濟一同御礼ニ罷出候、御目付
出席相濟右近将監殿江御同朋を以監物家来拜領物相濟申候
段被申上候

山村甚兵衛千村平右衛門之部

当番

宝永元申年五月廿五日

松平彈正忠

一此節御暇時服三不残御紋附也、於桧之間相模守殿被仰渡広蓋
口頂戴置候而立候事

木曾関所之事ニ立合候由

山村甚兵衛

同所御代官

千村平右衛門

山村甚兵衛千村平右衛門此節とハ

今程格式違ひ可申候

右兩人共二尾張殿扶持人公儀之御代官所も相勤候旨前々参
上御暇之節同服広蓋口拜領之所、戸田能登守当番節加賀殿
達而取候而相渡候得と御指図ニ付取候而渡候由、申三月十
四日能登守申聞候事

一繼目御礼初而御目見罷出候節御白書院表方御礼罷出名披露之
事

一御暇躑躅之間ニ而御用番被仰渡広蓋口頂戴之事

一前々參上御暇之節時服広蓋口拜領候由之事

御目見

甚兵衛悴

山村外記

一戸田能登守当番之刻大久保加賀守殿達而取候而相渡候へ者御

指図二付取候而渡候由、元禄五申年三月十四日能登守被申聞

候由故松平備前守留書に有之候事

右ハ享保二年二月十五日之例を以献上之毛氈今日も御前江不差出候段当番中務大輔殿江以順阿弥申上候処先格之通仕候様

宝永二酉年十月廿九日

当番

鳥居播磨守

被仰聞候由、然処尾張殿御城附当番江申候ハ先年毛氈御前江

一山村甚兵衛同悴外記參上御暇之節土屋相模守殿被仰聞時服広蓋口頂戴之事

出候様覺へ被有之旨進物方ニても右之通之由申候旨、尾張殿ニも格式不下様被成度被思召候由被仰聞候段是又申候間如何

此後毎度罷出候節いつれニも広蓋口頂戴候由之事

可被致与相談ニ付、何茂申談又中務大輔殿江相伺候処左様ニ

正徳二辰年十二月廿八日

当番

松平兵庫頭

候ハ、毛氈御前江出候様ニとの事ニ而今日ハ毛氈御前江出申

一山村甚兵衛千村平右衛門より御代替之為御祝儀干鯛一箱御樽

候事、前々之格とハ違毛氈出太刀披露、双方長袴候事

代三百疋ツ、以使者差上之、竹腰山城守中山内記与里御官位

一悴外記初而御目見是ハ銀馬代計ニ而双方長袴相濟

御名之字為御祝儀塩鯛一箱充以使者差上之、右何茂家来ニ為

左之例書

請取半切両通ニ認加賀守殿江順阿弥を以指出候事

享保二酉年二月十五日

当番

高木主水正

寛保二戌年十月十五日

当番

高木主水正

毛氈五枚

参上

山村甚兵衛

毛氈五枚

参上之御礼

同断

同 千村平右衛門

銀馬代

山村甚兵衛

右名披露双方長袴

双方長袴名披露先格之通太刀計御前江出し申候

一御礼前尾張殿御城附主水正江申聞候ハ右兩人帶劍ニ而罷出御

暇之節も拜領物広蓋口頂戴仕候由申聞候間、右之通覺へ候段
及挨拶其通相濟候由御座候

宝曆十一巳年三月十五日

銀馬代

毛氈五枚

御目見
甚兵衛悴

山村三郎九郎

右披露御太刀諸大夫方少下ケ候心持二置之御取合無之御太刀

屏風之内江引申候

宝曆十一巳四月十九日

当番
毛利讚岐守

一山村甚兵衛同伴三郎九郎御暇於躑躅之間河内殿被仰渡拜領物

頂戴之広蓋口相濟候事

明和元年七月朔日

毛氈五枚

銀馬代

当番
久世出雲守
繼目
千村平右衛門
双方長袴

右御太刀諸大夫之畳目方少シ下ケ置之披露御取合無之

但御三家御附家老ハ太刀畳目同断、御礼席も敷居方外、尤先

例之通帯劍引太刀御同朋頭江渡ス

明和元年七月廿六日

当番
酒井飛驒守

一千村平右衛門御暇拜領物被仰付之旨於躑躅之間被仰渡之拜領

もの先格之通広蓋口相濟

米良主膳

一 肥後国権葉山罷在公儀方知行者不被下候由、四五年目ニ参上

御次一同御礼申上

一 御暇於檢之間御用番被仰渡被下物広蓋口頂戴

宝永元申年五月十五日

当番 本多弾正少弼

一 御次一同参上之御礼

同年同月廿五日

当番 松平弾正忠

一 御暇時服三被下不残御紋附也、於檢之間相模守殿被仰渡広蓋

口頂戴置二而立候事

宝曆五亥年四月廿八日

当番 森川兵部少輔

一 御次一同参上之御礼

同年五月廿三日

当番 内藤大和守

一 御暇於檢之間右近将監殿被仰渡拜領物頂戴之先格之通広蓋口

二而頂戴相濟申候

宝曆九卯年四月廿八日

当番 松平周防守

一 御次一同参上之御礼

同年五月十六日

当番 酒井飛驒守

一 御暇於檢之間右近将監殿被仰渡拜領物頂戴之先格之通広蓋口

二而相濟申候

宝曆三未年四月廿八日

当番 松平和泉守

一 御次一同参上之御礼

同年五月六日

当番 戸田采女正

一 御暇於檢之間但馬守殿被仰付渡拜領物頂戴之先格之通広蓋口

二而相濟申候

明和七寅年四月廿八

助番 小出伊勢守

御次一同

泥障二掛

参上 米良主膳

銀馬代

「 ㊦ ㊷ 」

明和七寅年五月九日

助番 西尾主水正

縮緬 二卷

右御暇於檢之間右京大夫申渡拜領物頂戴之

米良主膳

追而

一米良主膳拜領物先格之通広蓋口二而頂戴三度罷出相濟申候

但御暇被仰渡御礼者御敷居之内江罷出広蓋御敷居内二置
其身ハ御敷居外二而頂戴之

安永三年四月廿八日

御次一同

障泥 二懸

銀馬代

扇子一箱

鳥子紙

扇子一箱

同年五月九日

紗綾式卷

右御暇於檢之間主殿殿被申渡拝領物頂戴之

追而

一米良主膳拝領物先格之通広蓋口二而頂戴三度罷出相济候

但米良主膳御暇拝領物被仰渡之節当番最初躑躅之間通り

当番
小出伊勢守

参上
米良主膳

初而 御目見
周碩養子
井上周達

参上
舞々
幸若弥次郎

同
同織之助

助番
牧野遠江守
米良主膳

主殿頭殿より先江相越御縁頬御障子を後二罷在主殿頭殿
着座、米良主膳御闕之内江罷出御暇拝領物被仰渡引、当番
凶之所江出席拝領物持出当番前二置、主膳御闕之外江罷
出頂戴之、但広蓋口引広蓋引主膳御闕之外二而罷出御闕
江手を懸御礼当番致取合候、主膳引当番茂元席江引候

「 凶 ④ 」

加藤図書助

一尾州二罷在参上之節御次一同御礼御暇於松之間当番申渡拜領物取渡申候

享保二酉年二月廿八日

当番 石川近江守

一御代替之御礼参上加藤図書助御次一同二而御礼申上之

同年三月廿日 当番 松平对馬守

松之間

御暇

尾州居在候 加藤図書助

右御暇拜領物拙者申渡候様河内守殿被仰聞候付之渡候

延享三寅年四月朔日

当番 本多紀伊守

一御代替之御礼参上加藤図書助御次一同二而御礼申上之

同年四月十一日

当番 松平紀伊守

一加藤図書助御暇於松之間拙者申渡其段雅楽頭殿江以良阿弥申

達候

追而

一加藤図書助拜領物渡候儀先例不相知候二付西丸当番備中殿申

談取候而相渡申候

但前日左之通御書付出候事

卷物二

尾州罷在候 加藤図書助

右明日於松之間如先格御暇可被申渡候、於西丸茂大御所様大納言様方卷物二ツ、被下旨西丸江御暇之御礼罷出候

節留置被下物之儀申渡候様明日西丸当番之同役江可被達

候、尤大納言様方被下物之義ハ隠岐守方可相達候、御納戸

頭江可被談候

四月十日

宝曆十一巳年正月廿八日

当番 毛利讚岐守

一御代替御礼参上加藤図書助御次一同二而御礼申上之

同年二月廿三日

当番 黒田大和守

一加藤図書助御暇於松之間拙者申渡其段左衛門尉殿江以良阿弥

御届申達候、尤先格之通拜領物取候而相渡申候

但前日左之通御書付出候事

尾州罷在候 加藤図書助

卷上二

右明日於松之間如先格御暇可被申渡候、於西丸茂從大御所様

卷物二被下候間西丸江御暇之御礼二罷出候節留置被下物之儀
申渡候様明日西丸当番之同役江可被通候、尤從大御所様被下
物之義ハ右京大夫方可相達候御納戸頭可被談候

長岡帶刀部

享保六丑年三月廿八日

当番
松平能登守

跡目之御礼
細川越中守家来

長岡帶刀 △

附札

△ 長岡帶刀披露半袴御前江帶劍二而罷出
候、山城守殿江伺之上右之通相濟申候

一元禄六未三月廿八日帶刀親繼目之御礼申上候節帶劍二而御
前江罷出候由帶刀申候、前々方如此之由御座候、且又披露之
者進物番衣服不相知候付山城守殿江能登守相伺候者前々之
通帶劍二而可差出候、披露并進物番陪臣之通可為半袴、右被
仰聞其通相認申候

享保六丑年四月二日

当番
松平能登守

御暇
細川越中守家来

長岡帶刀

右於松之間河内守殿被仰渡之拝領物頂戴之

一細川越中守家来長岡帶刀就御暇被下物時服取候而渡候哉之儀

為承合候処、先格とくと覺不申由二付土井伊予殿内藤丹波殿

被居合候故承合候得共帶刀先格ハ稔与不相知候、本多孫太郎

御暇之節ハ時服取候而渡候由覺書ニ有之候間、帶刀茂帶刀茂

取候而渡候而可遣之と被申候之条とかく伺可然と申談候処、

牧野因幡殿松平対馬殿被出候間承合候処孫太郎例茂有之二付

而伺ニ不及取候而相渡可然候、若御尋茂候ハ、帶刀御暇例ハ

不相知候得共本多孫太郎御暇之節取候而渡候例有之候間取候

而渡候段申上可然と被申候、依之伺不申候積申談候事

一於檢之間帶刀御暇ニ付下之障子明夕大目付之上ニ罷在帶刀江

御暇拝領物被仰渡退候と柱之所江出候、此時時服出候取候而

渡之頂戴、退又出候節拝領物御札申述之

但寛延二巳年四月廿八日長岡帶刀御代替ニ付御札申上候、

御代替御札罷出候時者先例御暇ハ無之候付自分繼目御札ニ

罷出候時者御暇有之候事

宝曆九卯年十月十五日

当番 牧野越中守

一細川越中守家来松井式部初而御目見

附札 長岡帶刀帶劍ニ而罷出候得共悴御目見之近

例無之二付帶刀同様に帶劍ニ而可差出哉と

春阿弥を以左衛門尉殿江相候処、帶劍ニ

而差出候様同人を以被仰聞其通相濟申候、

披露半袴ニ而相濟申候

宝曆十三未年十二月十五日

当番 加納遠江守

御白書院

御代替ニ付参上
細川越中守家来

長岡帶刀△

右細川越中守家来長岡帶刀与披露御取合無之

附札 先格之通御前江帶劍ニ而罷出候旨右近將監

△ 殿江申達披露半袴ニ而相濟申候

寛延二巳年四月廿八日

当番 松平紀伊守

御白書院

御代替ニ付参上

細川越中守家来

右細川越中守家来長岡帶刀与披露

右先格ニ付帶劍ニ而罷出其身長袴披露、進物番共ニ半袴

銀馬代

長岡帶刀

但先例之通帶劍二而罷出候段右近將監殿江申達其通相

濟

明和四亥年十二月十五日

当番

土岐美濃守

御白書院

縮緬五卷

繼目之御礼 其身長袴
細川越中守家来 美濃

銀馬代

長岡主水△

右細川越中守家来長岡主水与披露御取合無之

附札△ 先格之通御前江帶劍二而罷出候旨周防

守江申達披露半袴二而相濟申候

明和五子年二月六日

当番

土屋能登守

御暇

縮緬五卷

細川越中守家来

長岡主水

右於檢之間伊予守殿被仰渡拜領物頂戴之

追而

一長岡主水御暇拜領物之例享保六丑年四月二日之格を以今日被

出候、同役衆申談拜領物取渡候心得二罷在候段無急度伊予守

殿江以順阿弥申達候、尤三度罷出相濟申候、此段為御心得申進

候

例

享保六丑年四月二日

当番

松平能登守

一細川越中守家来長岡帶刀就御暇被下物時服用取候而渡候哉之儀

承合候処、先格趣と覺不申由二付土井伊予殿内藤丹波殿被詰

合候処承候得共帶刀先格ハ駈与不相知候、本多孫太郎御暇之

節ハ時服用取候而渡候由之覺書二有之候間帶刀も取候而渡候二

而可有之与被申候条、兎角伺可然与申談候処牧野因幡殿松平

対馬殿被出候間承合候処孫太郎例茂有之二付而伺不及取候而

相渡可然候、若御尋候ハ、帶刀御暇之例ハ不相知候得共本多

孫太郎御暇之節取候而渡候例有之候間取候而渡候段申上可然

与被申候、依之伺不申積り二申談候

一於檢之間帶刀御暇二付下之障子明ケ大目付之上二罷在、帶刀

江御暇拜領物被仰渡退候て柱之所江出此時時服出ル、取候而

渡之頂戴退キ又出候節拜領物御礼申述之

但寛延二巳年四月廿八日長岡帶刀御代替二付御礼申上候、

御代替御礼罷出候時ハ先例御暇ハ無之候、自分繼目御礼罷

出候時者御暇有之候事

本多内蔵助之部

宝永六丑年五月廿六日

当番 安藤長門守

一本多孫太郎方將軍宣下為御祝儀以使者箱着差上之家番於廊下

謁申候由之事

宝永六丑年七月十三日

当番 安藤長門守

一御台様御叙位之御祝儀本多孫太郎方以使者差上之家來為請取

半切相認差出申候由

正徳三巳年正月十六日

当番 本多彈正少弼

一御代替之為御祝儀本多孫太郎從在所以使者鯛一箱差上之於廊

下当番逢書付河内守殿江差出候由廻狀申來候事

正徳三巳年四月廿五日

当番 安藤右京亮

一御元服為御祝儀本多孫太郎以使者二種御樽代差上之家來為請

取書付河内殿江差出候旨廻狀追而二申來候事

正徳三巳年四月廿九日

当番 三浦壹岐守

一將軍宣下為御祝儀干鯛一箱本多孫太郎方、一位様御位階為御

祝儀干鯛一箱御樽代三百疋以使者差上之家來為受取半切認河

内守殿江差出候旨廻狀追而二申來候事

正徳六申年七月廿二日

当番 井上遠江守

一本多孫太郎御代替御祝儀在所より以使者鯛一箱献上、前廉仲

ケ間衆被謁候得共將軍宣下御祝儀之節家來受取候二付豊後守

殿江同候之処其通二致候様二と被仰聞於廊下家來為受取半切

御同人江差出候

享保元申年七月廿二日

当番 井上遠江守

一本多孫太郎御代替之御祝儀在所方以使者鯛一箱差上之、前廉

仲間衆被謁候得共將軍宣下御元服御祝儀差上候節家來請取候

二付豊後殿江同候処其通致候様二被仰聞候間於廊下家來為

受取

享保二酉年六月朔日

当番 松平備中守

一本多大藏次目之御礼幼少二付以使者申上戸田山城守殿江相同

当番謁候

享保十三申年十二月十五日

当番 土岐丹後守

一本多内蔵助家督御礼幼少二付以使者御太刀馬代銀子壹枚大奉

書紙三箱差上之任先例於松之間拙者謁一紙目錄認讚岐守殿へ

差出候

元文三年九月五日

当番
土井甲斐守

一本多内蔵助重陽之御祝儀差合二付延引、今日使者を以判大奉

壹枚差上之於檢之間拙者謁一紙目錄右京大夫殿江良阿弥を以
差出候

書紙二箱差上之於中之口家来為受取半切認伊豆守殿江玄阿弥
を以差出候

一右同人御兼任之御祝儀同断以使者差上之於蘇鉄之間家来為受
取半切認之同人江以同人指出候

寛保元酉年九月十九日

当番
永井伊賀守

明和三戌五月十八日

当番
大岡兵庫頭

一御転任并御兼任御元服為御祝儀本多内蔵助越前府中_方使者を
以御太刀馬代銀子壹枚ツ、差上之於檢之間拙者謁一紙目錄相
認伊豆守殿江三阿弥を以差出候

一大納言様御元服御祝儀松平下総守從在所御太刀馬代黄金十兩、
同断御祝儀本多内蔵助從越前府中御太刀馬代銀子一枚右何茂
以使者差上之於檢之間拙者謁一紙目錄兩通認之

本多内蔵助使者之儀此間戸右近殿卜申談候通拙者謁一紙目錄
之末名少間明候而相認差出候

一御台様江同断御祝儀松平下総守白銀五枚干鯛一箱本多内蔵助
干鯛一箱右何茂以使者差上之於中之口家来為受取半切兩通認
之、尤献上物ハ伊丹兵庫江申達御広敷添番江相渡候、右一紙目

延享三寅四月十八日

当番
秋元撰津守

録并半切右近將監殿江以順阿弥差出候

一松平兵部大輔家来本多内蔵助無刀二而罷出披露半袴御太刀目
録置所陪臣並之通置之其身長袴進物ハ御前江不出

明和五辰年五月五日

当番
小出伊勢守

同日

追而

一御暇於檢之間雅樂頭殿被仰渡拝領物頂戴之

一本多内蔵助端午之御祝儀就差合延引、今日以使者小紋烏子紙

宝曆十辰年四月朔日
当番
黒田大和守

一箱差上之於中之口家来為請取半切認之主殿頭江以三阿弥差

一御転任之御祝儀本多内蔵助從越前府中以使者御太刀馬代銀子

出候

御門跡方之部

日光御門跡御登山御歸寺共二御名代有之

候得ハ奥向御請として左も無之節ハ御請

として二ハ無之候

一 従日光山御歸寺可有之候与上使高家衆被遣御對顔之儀被仰遣

御登城之前日御用番御退出之節明日御門主御登城之由被仰聞

候得者御用番御出刻限伺其段廻状ニ申遣ス

一 御對顔之日当番勤方無之平服ニ而罷出寺社奉行衆ハ麻上下着

用 但近格者寺社
奉行平服

一 御上京之前又ハ其外ニも御饗応御能有之、御登城殿上之間江

御通御老中御出被掛御目候節当番御跡ニ付罷越板縁ニ扣罷在、

御能濟殿上之間江出候而御老中御出被掛御目候時茂同断

一 年頭御病氣等ニ而御登城無之以使僧御太刀二束巻被指上候

節於柳之間御用番御逢御太刀ハ置太刀ニ仕御進物同断、右正

徳五年三月廿三日日光新宮御病後ニ付年頭御祝儀御登城無之

使僧出候節阿部豊後守殿江石川近江守高木主水正伺被申候而

相濟

一 御門跡方便者御老中於柳之間御逢御障入有之、当番謁候様ニ

御指図候得者柳之間御床之方上左三疊目横二疊目ニ而謁申候

一日光御門跡例月之使僧ニ焼火之間ニ而御逢候節当番立会申候

旧格と有之候得共近例構不申候

但障入ニ而当番逢候様ニと御指図候得ハ躑躅之間ニ而謁候

先格

一日光御門跡より御礼事ニ而御使僧出申候節御用番御退出ニ而

も無構致退出候、御老中御退出已前ニ而も御断ニ而致退出候

節御門跡之使者出候節承ニ而も無構致退出候先格之事

元禄三午年二月朔日

御札

日光御門跡御代僧

当番 永井伊賀守

御鏡

戒善院

御上段二疊目

御太刀目錄高家衆披露之

巻數 中奥衆持之

御上段上方一疊目

三束一卷同断

日光御門跡方被上候巻數御對顔之時ハ御前江出候、庚午二月

朔日御門主御願二付御代僧戒善院相勤候、此時豊牧御前江出不申候、戒善院御目見所例式院家之席御敷居之外南之御障子際二而御礼申上

一束一本

戒善院

御敷居外二疊目

御門主御名代相務候故自分御礼ハ不申上候

宝永三戌年九月廿三日

当番 堀 左京亮

一大乗院様御門跡方寺務職御礼以使者御太刀目録被差上之月番寺社奉行本多彈正少弼於松之間逢被申候由、押合等ハ当番家来仕候事

宝永六己丑年八月十五日

当番 鳥居播磨守

一知恩院御門跡方御台様御叙位之御祝儀以小山図書杉原三束縹珍二卷差上之佐渡守殿御指図二付柳之間下之間二において拙者逢目録受取差出申候

正徳五未三月廿三日

当番 高木主水正

一日光新宮御病後故御対顔無之付為年頭御祝儀御太刀馬代二束一卷以使僧真覺院差上之於柳之間豊後守殿御達候、御好二付

一紙目録認右御同人江差出候、進物出二不及御太刀目録計可出之旨豊後守殿御差図也

但御太刀目録二豊後守殿御出已前方柳之間御逢之席江差置

御逢之節使僧石川近江守召連御出高木主水正披露

享保四亥年二月朔日

当番 土井伊予守

一梶井御門跡方年頭之為御祝儀以使者長福様江御太刀馬代小次郎様江昆布一箱被差上候付家来二為請取半切二認大和殿江差出候

元文二巳年二月廿七日

当番 朽木土佐守

一上野執当願王院罷出山吹之間江寄有之候四半時過御座敷廻り有之、老衆御出かけ二羽目之間二而願王院罷出老衆列座日光新宮江御方領三百俵被進候由左近殿被申渡候事

一日光准后二月朔日御登城御礼過大廊下於御部屋年寄衆御逢候節并御退去之刻御部屋外迄年寄衆御送り被申候節共二始終圖之通当番出席非番ハ柳之間小溜二罷在

但右ハ寛延三年年二月朔日土佐殿当番之例也

「 図 ⑤ 」

宝曆六子年四月九日

当番
金森兵部少輔

銀子一枚

昆布 一箱

右若君様御髮置之為御祝儀以使者被差上之於柳之間右京大夫

紗綾 五卷

日光御門跡

殿御逢候

御札

日光御門主御登山前御対顔相延候例

昆布 一箱

随意院宮

一享保八卯年十二月廿一日

綿 十把

御対顔相延

右者今度仁王門御再建御法養就相濟候為御礼凌雲院を以被差

一元文三戌年四月五日御風氣二而

上之於燒火之間隱岐殿逢被申候

御対顔御能相延

宝曆七丑年九月四日

当番
酒井下野守

一寛延三年十二月廿三日

昆布 一箱

日光御門跡使者

御対顔御延引

明王院

一同廿六日

随意院宮使僧

御対顔有之

同断

同人

一宝曆四戌年四月九日御痛所有之

右者紅葉山御林之内靈芝生シ候ニ付為御祝儀被差上之於燒火

御対顔相延

之間相模守殿御逢候

一宝曆六子年十二月廿二日御不快付

明和元年十一月十九日

当番
加納遠江守

御対顔相延

御太刀馬代

知恩院御門跡

一明和二酉年十二月廿日御病氣付

御対顔相延

一明和四亥年十二月廿日御痛所二付

御対顔相延

一明和三戌年九月三日御不快二付

御対顔相延

享保十八丑年九月廿六日

当番
稲葉佐渡守

一日光准后此間御所勞二付執当党王院江様子御尋之趣左近將監

殿被仰渡之

同年十月二日

助番
秋元但馬守

一日光准后御所勞為御尋以上使御檢重被遣之

同年十一月六日

助番
丹羽式部少輔

一日光准后明後八日可被遊御対顔以上使被遣之

同年十一月八日

当番
高木主水正

一日光准后御登城御対顔

元文三年三月五日

当番
増山河内守

一日光准后御病氣為御尋以上使御檢重被遣之

同年三月九日

当番
本多紀伊守

一日光准后御病氣二付人參二十兩被進之旨覺王院江左近將監殿

被仰渡之

同年三月十日

当番
松平備中守

一日光准后御頼之通御隱居新宮江御相統之儀昨日被仰出候付為

御礼新宮御登城於御座之間御対顔

追而

一日光准后御事崇保院新宮御事日光御門跡之御改候由御座候

明和四丁亥六月廿一日

一御法事相濟候付御門主方以御明静院花一ツ御菓子一箱被差上

之中之間奥入口ニおゐて御側衆被謁候、随意院宮方御菓子

一箱同断二付以同人被差上於同所御側衆被謁候得共廻状江者

先格二付差出不申候

寛保四子年正月廿八日

当番
松平備中守

上使由良播磨守
日光御門跡

右者就御帰寺被遣之来月朔日可被遊御対顔候旨被仰遣之

銀百枚

同長沢右殿守
御同所

時服五

右者当月為御祈禱料被遣之

宝曆四戌年正月廿九日

当番
青山因幡守
日光御門跡

右就御歸寺被遣之明晦日可被遊御對顏候旨四時御登城候
樣被仰遣之

同今川丹後守
御同所

右者就御歸寺被遣之來月朔日可被遊御對顏之旨被仰遣之

宝曆十辰年九月廿八日

当番
内藤大和守
日光御門跡

右当月為御祈禱料被遣之

明和五子年三月三日

当番
大岡兵庫頭
覺王院

二種一荷

綿二百把

同同人
随意院宮

右於羽目之間右京大夫殿御書付被渡候当番大目付共二出席無
之

一種四荷

右將軍宣下相濟候為御祝儀被遣之

同長沢壱岐守
日光御門跡

明和六丑年三月朔日

当番
土屋能登守

右同斷為御祝儀明廿九日御能被仰付候間御登城可被成候而被

仰遣之

右三宝院殿之披露御取合有之

銀百枚

同六角伊予守
御同所

右当月為御祈禱料被遣之

明和四亥年九月廿九日

当番
戸田長門守
日光御門跡

一宮門跡二得度以前何君与申候節者縱妙法院何君与申候者妙法
院宮与申候、得度相濟候与御門跡与申候、宮門跡者宮与茂何の
方へ申候得共得度有之候而者御門跡与申候方宜候

一宮門跡御無住二候内者やはり妙法院御門跡与唱申候事

紗綾五卷

銀馬代

相統之御礼 披露
三宝院教君使者 高家
飯田法印

一外御門跡も向方方ハ御門主与申候而も日光御門主之外ハ御門

主与唱不申候、尤日光御門主も御門跡与申候而宜候

一御披露二も得度相济候得者御門跡与披露いたし得度前ハ何之

宮与披露いたし候事

一尼宮者宮与申御門跡与ハ不申候事

一撰家門跡者得度後者御門跡与申候得共御礼書等二茂門跡与出

候間謁書其外二も門跡与認宜候、御披露も前方ハ撰家門跡者

門跡与披露有之候処近頃者撰家門跡も御門跡与致披露候由右

之通二相成候、訳者不相知候、得度已前者何君与申候得者何殿

与申候而宜候、此度三宝院披露三宝院殿与先格二而相济候

明和六丑年四月十七日

当番
太田備後守
上使松平右近将監

日光御門跡

去年

御内意被仰出候日光山御社参之儀来辰年四月御社参可被遊旨

被仰出之

上野執当
円覚院

右同断随自意院宮江可申上旨於羽目之間右近将監申渡之

明和六丑年四月廿二日

助番
遠藤備前守

一来ル辰年日光山御社参之儀去ル十七日以上使被仰遣候為御請

從日光御門跡凌雲院前大僧正被差上之於燒火之間周防守殿御

逢候

但右以上使被仰遣候為御請凌雲院被差上候儀惣而ケ様之義

者是之迄御側衆謁被申候而廻状二者出不申候処、今日者御

用番御逢候事故何レ二も廻状二差出不申候而ハ如何二付例

者無之候得共左之通出申候

翌廿三日

当番
松平能登守

一日光山御社参被仰出候為御祝儀從日光御門跡凌雲院前大僧正

被差上之於新番所前金田近江守逢被申候由

同日

西丸助番
仙石越前守

一来ル辰年四月日光山御社参被仰出候為御祝儀從日光御門跡凌

雲院前大僧正被差上之於燒火之間拙者謁申候

但御本丸二而ハ御側衆謁被申候義故廻状二出申間敷候処、

於西丸右之通当番謁二相成謁書御本丸当番江被差越佐渡守

殿江差出候義御本丸廻状二出不申候而者如何二付右之通出

申候事

一享保之度者御社參被仰出候節日光御門跡御在山中二而八無之、依之以上使被仰遣候儀も無之為御祝儀凌雲院被差上之候節者

左近將監殿御逢候事

明和六丑年三月朔日

当番

土屋能登守

相統之御礼 披露

三寶院教君使者 高家衆

紗綾五卷

飯田法印

銀馬代

右三寶院殿者披露御取合有之

但得度已前二而撰家門跡之事故殿者披露高家中奥長襠御太

刀御上段下方一疊目卷物御下段上方二疊目中奥衆持之

当番

内藤大和守

御暇

三寶院教君使者

銀十枚

飯田法印

時服二

右於柳之間伊予守殿被仰渡拝領物頂戴之

但得度已前二付奉上無之

明和六丑年七月廿八日

当番

土井大炊頭

御白書院

相統之御礼

妙法院宮使者

長袴

披露 高家衆

御太刀馬代

菅谷民部卿

御薰物一箱

御上段一疊目御太刀目錄

御下段上方二疊目御薰物中奥衆持之長袴

右妙法院宮者長沢壺岐守披露御取合有之而去

一大納言様江被差上物八御本丸御納戸江相納西丸御納戸江右目

録相廻り西丸当番添書認書付認之候事

一妙法院宮座主二候得者使者西丸江御礼二罷出候、座主以前者

西丸江御礼二不罷出候、依之今日茂西丸江者使者不罷出候

一妙法院御門跡天台座主之時御本丸江罷出候使者西丸江罷出候

節於大広間松之根を後二当番着座謁之謁書認差出候事

明和六丑年八月五日

当番

土屋能登守

御暇

妙法院宮使者

時服二

菅谷民部卿

右於柳之間周防守申渡拜領物頂戴之

但妙法院宮未御得度前二付黒書院家常住金剛院方御老中方

江來妙法院宮御相統之御礼使者先例享保四年四月朔日使者

御暇御老中方奉書御渡無之候、依之今日ハ御老中方連名之

奉書も御暇後御右筆方大炊頭請取同人使者江於柳之間被相

渡候

明和六丑年四月廿三日

当番
松平能登守

一日光山御社參被仰出候為御祝儀日光御門跡方凌雲院前大僧正

被差上之於新番所前溜金田近江守逢被申候由

明和六丑年五月六日

助番
遠藤備前守

一來辰年日光山御社參之儀去月十七日被仰遣候付随意院宮よ

り円覚院被差上之於焼火之間右近將監殿御逢候

享保十二未年四月九日

当番
小出伊勢守

一明十日日光御門跡御登城於御白書院御對顔二而御座候例格ハ

御座之間二而御對顔二付寺社奉行平服二而罷出候、明日之義

先例不相知候二付左近將監殿江伺候処以前格平服二而可然由

被仰聞候、左近將監殿五半時過可有被出由二候

右之通二候得者御当番計二而同役中被出候二不及候筈二豊

前殿申談候、為心得申進候

同 十日

当番
高木主水正

日光御門跡

右近日御登山二付御登城竹之間二而御饗応其已後於御黒書院

御對顔

日光廿日

御名代
松平采女正

右於御黒書院御暇被仰出之

明和七寅年五月廿九日

当番
遠藤備前守

日光御門跡

右就御歸寺御登城於御黒書院御對顔

追而

一御座之間修復中二付日光御門跡御對顔御黒書院二而相濟申候、

尤奥御拵二付拙者儀芙蓉之間例席二罷在候

兩本願寺

使者 樫井將監

一 正月六日年始之御太刀目録献上輪番之僧持參家来共請取半切

二 認差出候使僧ハ独礼之席ニ而但大広間
独礼座一同御目見いたし御太

刀目録御前江ハ不出事

一 兩本願寺方八朔之御祝儀使僧出松之間謁申候

一同所方寒暑伺御機嫌且又參向之節土産物献上使僧於松之間謁

申候

元禄四未年六月廿三日

当番 永井伊賀守

一本願寺方土用為伺御機嫌以使僧扇子差上之御月番江不及伺伊

賀守松之間ニ而使僧江逢候而帰シ被申候由、右本願寺使僧之

事一紙目録ニ不及候由之事

元禄十丑年六月十四日

当番 久世出雲守

築地本願寺

使者 真崎大膳

浅草本願寺

使者 浅井元右衛門

築地新門

右者八重姫君様御結納之為御祝儀進上之於柳之間豊後守殿御
逢寺社奉行ハ立会故不致登城御奏者番久世出雲守立合

元禄十一寅年七月十二日

当番 松平美濃守

一 八重姫様御入興之御祝儀兩本願寺并築地新門方使者を以献上

之節於柳之間土屋相模守殿御逢候

元禄十二卯年三月十四日

当番 松平弾正忠

一 西本願寺同新門下向十二日御対顔同十四日新門方為御土産

品々以使僧被差上之使僧ニハ江戸輪番僧罷出候、彼僧申候者

八前以前申年西本願寺御父子御下向之時御土産被献候、於松

之間牧野因幡守殿御逢候由申候、此方ニ而も前日相知申候付

遂(議)僉儀候処申ノ三月十一日因幡守当番与有之候得共使僧江

逢候与申事ハ相見不申候、今日出仕之同役衆江弾正相談申候

而先年因幡守使僧江逢申候例を御用番相模守殿申達候処今日

茂当番逢可申候而被仰候付於松之間弾正逢目録請取帰シ申候、

使僧持参目録之俣ニ而相模守殿江差出候而相濟申候

右之御土産物奥江直ニ通候哉と御納戸江押合可致事ニ候哉と

聞合候処御納戸衆江相尋追而押合可申候由元方方申越候得共
其已後沙汰無之候、品々御進物帳二書調使僧持参之目錄二者
本願寺新門跡と有之二付御進物帳二者御字除可申哉と御右筆
衆江承合候処御字除認可申旨二付本願寺新門跡与認候

宝永元申年十二月廿七日

当番 田村右京大夫

一築地本願寺同新門淺草本願寺知恩院方丈御養君様被仰出候為

御祝儀以使者進上之於柳之間丹後守殿御逢候

宝永四亥年八月三日

当番 池田丹波守

一御誕生之為御祝儀從兩本願寺一種一荷ツ、同新門方一種以使

者差上於柳之間但馬守殿御逢候

宝永五子年二月十日

当番 池田丹波守

一八重姫君様御安産為御祝儀兩本願寺方以使僧一種ツ、差上之

河内守殿御差函二付使僧江丹波守謁被申候由

同年十二月十日

当番 松平兵庫頭

一松姫君様御入輿為御祝儀兩本願寺方二種一荷充築地新門方二

種御樽代千疋以使者差上之於柳之間相模守殿御逢候事

宝永六丑年三月十八日

当番 松平備前守

一今朝築地本願寺同新門方源光院様御中陰為伺御機嫌以使僧一
種差上候、使僧例相尋候処桂昌院様御中陰之節者朝献上之通
坊主衆組頭取持目錄御側衆江差遣候由使僧申候旨組頭小坂長
春申聞候付今日茂前例之通朝献上之格二御側二而相濟申候御
心得二申進候、御老中江茂先例之通致候様二と使僧江被仰渡
候旨是又長春申聞候

正徳二辰年十一月十九日

助番 松平宮内少輔

一兩本願寺御代替之為御祝儀以使者御太刀目錄御樽肴差上之新
門跡方二種一荷差上之於柳之間加賀守殿御逢候旨廻狀申来候

事

正徳三巳年正月九日

当番 安藤右京亮

一兩本願寺より御官位御名之字為御祝儀以使僧二種一荷充新門

方も二種千疋差上之柳之間御用二付於躑躅之間河内守殿御逢

候、对州詰合添二被出候旨

同年五月六日

当番 池田丹波守

一淺草本願寺方一位様御位階之為御祝儀二種御樽代差上之家来
為受取半切書付相模守殿江差出申候、右使僧今日罷出候間端

午重陽御祝儀上り候節之通為受取可申由、尤伺相濟候而出羽殿方昨晚申來候旨回狀追而申來事

正徳六申年閏二月廿七日

助番
安藤右京亮

一此度之為御祝儀從兩本願寺二種千疋ツ、并築地新門方二種千疋以使者差上之於蘇鉄之間家來為受取半切覺書山城守殿江差出候

但右御祝儀ハ御台様御入輿之義京都江被仰含法皇之姫宮御

輿御契約被遊候御使相濟候付

享保八丑年正月六日

当番
高木主水正

一兩本願寺方年頭之為御祝儀以使僧御太刀馬代差上之如例家來

二為請取半切認山城守殿江差出候

元文二巳年六月十五日

当番
松平紀伊守
築地

御太刀馬代黃金十兩

昆布 一箱
干鯛 一箱
御樽 一荷

昆布 一箱
鯛 一箱
御樽代 千疋

同

新門跡

御太刀馬代黃金十兩

淺草

本願寺

昆布 一箱
干鯛 一箱
御樽 一荷

昆布 一箱
干鯛 一箱
御樽代 千疋

同

新門跡

右竹千代様御七夜之為御祝儀以使者差上之中務大輔殿御用有之候二付謁候様被仰聞於柳之間拙者謁目錄之俣順阿弥を以御同人江差出候、御太刀目錄者半切認是又同人を以差出候重而之例二ハ罷成間敷候、使者江茂申聞候様二与御同人被仰聞候、為御心得申進候

元文四未年五月朔日

当番
戸田越前守

金馬代

大僧正之御礼
西本願寺新門使者

上田主殿

一從西本願寺新門大僧正被仰付候為御礼以使者二種千疋差上之中務大輔殿御差図二付於柳之間拙者謁目錄之俣御同人江玄阿弥を以差出候

一大納言様江西本願寺方之献上物西丸当番越中殿家來差出於蘇

鉄之間為受取申候

一 西本願寺方之進物新門方之使者兼相勤候依之謁候例無之二付伊豆守殿江以越前殿拙者伺候処右二准候儀書付出可申旨被仰聞付、去年竹千代様御七夜御祝儀兩本願寺并新門使者罷出候節中務大輔殿江松紀伊守殿伺之上被謁候儀委細書付順阿弥を以差出候処是ハ此度之例二ハ不相成候由書付御戻被成候、其已後中務大輔殿方御礼日故御取込二付当番謁候様同人を以被仰聞拙者謁申候、為御心得申進候

但西本願寺新門献上之馬代進物番持之御下段上より三疊目

二置之

西丸当番

右同日

一 西本願寺新門大僧正被仰付為御礼御太刀馬代黄金十兩以使者差上之西本願寺方も同断二付二種御樽代千疋被差上之、右使者西丸江不罷出由御本丸当番越前殿方被申越候付御本丸江家来差出為受取半切認謁候書付共以泉阿弥能登守江差出候

宝曆十三年正月廿七日

助番

大岡兵庫頭

築地

本願寺

御太刀馬代黄金十兩

昆布 一箱

干鯛 一箱
御樽 一荷

浅草

本願寺

同断

昆布 一箱

錫 一箱
御樽 一荷

築地本願寺

新門

右若君様御誕生之為御祝儀以使者差上之於柳之間但馬守殿御逢候

追而

一 兩本願寺并西本願寺新門使者罷出候節若君様御誕生之御祝儀差上候段拙者致披露候、右使者讚岐殿召連被出候、尤御太刀馬代金ハ先格之通御床江致置付御樽肴ハ御床之前二並置候、西本願寺同新門方者別二豎目錄式通有之候付箱肴之上二載置御逢已後右折紙豎目錄共二但馬守殿江無急度以春阿弥差出候、此段為御心得申進候

明和元年十一月十八日

当番

仙石越前守

一 若君様御髮置御祝儀以使僧築地本願寺方二種一荷浅草本願寺

方茂同断築地本願寺新門方一種一荷差上之右京大夫殿以常阿

弥御差図二付於柳之間拙者謁目錄之俣御同人江以同人差出候

明和二酉年六月五日

当番
土岐美濃守

差出候

右同日

西丸当番
松平伊賀守

一於日光山御法会相济候為御祝儀以使僧築地本願寺方二種一荷

浅草本願寺方同断築地本願寺新門方一種一荷差上之右近將監

殿以常阿弥御差図二付於柳之間拙者謁目錄之俣御同人江以同

人差出候

延享二丑年六月十日

当番
秋元摂津守

追而

兩本願寺并新門使僧謁之義正徳五未年之例を以家来為受取

候段無急度右近將監殿江以常阿弥申達候処近格謁之例有之

候間拙者謁候様御同人御差図二付本文之通相济申候、献上

物ハ柳之間江差出不申候、為御心得申進候

明和二酉年十一月十五日

当番
板倉美濃守

鶴画

二幅

右遺物以使者差上之先格茂有之候二付逢可申段中務大輔殿江

順阿弥を以申達於檢之間拙者謁目錄之俣御同人江同人を以差

出候

元文二巳年十月朔日

当番
増山河内守

金馬代

西本願寺新門使者
富嶋頼母

一西本願寺方新門大僧正転任之為御礼以使者二種千疋差上之周

防守殿御差図二付於柳之間拙者謁目錄之俣御同人江以三阿弥

一種一荷充

同兩新門

右者竹千代様御色直之為御祝儀以使僧差上之中務殿江大岡越

前殿被相同候処御用有之候間此方当番二而謁可申旨被申候由

一種一荷

築地本願寺
新門

越前殿被申聞二付於柳之間拙者謁中務殿江就退出明日目錄之
俣可差出候

右者若君様御色直御祝儀以使僧差上之右京大夫殿御用有之候
間謁可申旨以春阿弥就御差函於柳之間拙者謁目錄之俣御同人

元文四未之年十一月十二日

当番
増山河内守

江以同人差出候

二種一荷充

浅草
両本願寺

寛保元酉年九月七日

当番
本多紀伊守

一種一荷

浅草
新門

御太刀馬代

浅草
本願寺

右竹千代様御髮置相济候為御祝儀以使僧差上之中務殿就差函

黄金壹枚ツ、

於柳之間謁目錄之俣甚阿弥を以同人江差出候

同断

同
新門

元文六年二月二日

当番
松平備中守

右御転任并御兼任御元服御祝儀以使者差上之於柳之間伊豆守

二種一荷

築地
本願寺

逢申候

一種一荷

浅草
本願寺

追而

一種一荷

同
新門

一浅草本願寺同新門方之使者江伊豆守逢申候節先達而撰家衆

右者竹千代様御袴着之為御祝儀以使僧差上之左近将監殿就御

之使者高家衆取合被致候通可致伊豆守以順阿弥申聞候付其

差函於柳之間拙者謁目錄之俣御同人江以順阿弥差出候

通致取合御太刀目錄者其俣御床二差置申候、為御心得申進

宝曆十三年三月二日

当番
戸田采女正

候

二種一荷

築地
本願寺

寛保元酉年九月廿四日

当番
松平備中守

同断

浅草
本願寺

御太刀馬代

築地
本願寺

黄金十両ツ、

右御転任并御兼任御元服之為御祝儀以使者差上之於柳之間伊豆守逢申候

追而

一本願寺使者江伊豆守逢候節去七日浅草本願寺使者江逢候節之通相濟申候、為御心得申進候

宝曆十辰年二月廿九日

御太刀馬代

黄金十両ツ、

右同断

右同断

右同断

当番

牧野越中守

築地本願寺

浅草

本願寺

築地本願寺

新門

浅草本願寺

新門

右御転任御兼任御祝儀以使者差上之於柳之間左衛門尉殿御逢

候

追而

一兩本願寺并新門使者罷出候節ハ此度之御祝儀差上候段拙者致披露右使者周防殿召連被出候、尤御太刀ハ先格之通不殘

御床江致置附相濟申候、此段為御心得申進候

一兩本願寺使者新門使者兼壹人二而相勤候付壹度差出可申哉之旨左衛門尉殿江以春阿弥相同候処其通可致旨被仰聞候二付壹度差出相濟申候

但御太刀何茂柳之間御床二置附二致し候

右之使者松平周防殿被召連使者柳之間下与二疊目二罷出候、周防殿ハ少下り被居候

兩本願寺新門此度之御祝儀与越中殿被致披露候

宝曆十三年二月三日

大岡兵庫頭

御暇

築地本願寺使者

下橋主馬

同

浅草本願寺使者
山本孫四郎

右於柳之間御同人奉書御渡拜領物頂戴之

追而

一兩本願寺使者拜領物之節添御番二而者無之候得共遠江守詰合候二付致出席候

明和元年申十一月十八日

当番 仙石越前守

二種一荷

築地 本願寺

同断

淺草 本願寺

一種一荷

築地本願寺 新門

右者若君様御髮置之御祝儀以使僧差上之右京大夫殿以常阿弥

御差凶二付於柳之間拙者謁目錄之俣御同人江以同人差出候

明和三戌年五月廿九日

当番 土岐美濃守

御太刀馬代

築地 本願寺

黄金十兩

同断

淺草 本願寺

同断

築地本願寺 新門

右大納言様御元服御祝儀以使者差上之於柳之間右京大夫殿御

逢候

追而

一兩本願寺并西本願寺新門使者罷出候節者大納言様御元服

御祝儀差上候段拙者致披露候、右使者大炊殿召連被出候、

尤御太刀目錄者先格之通不殘御床江致置附相濟申候、此段

為御心得申進候

一西本願寺同新門使者兼壹人二而相勤候二付一度差出可申

哉之旨右京大夫殿江以常阿弥相伺候処可致其通旨被仰聞

候付一度差出相濟申候

一右本願寺使者之義大炊殿申參相濟御用番右京大夫殿御謁之旨

承候上美濃守御同人江御同朋頭を以兩本願寺使者并西本願寺

新門使者兼壹人二而相勤候付一度二可差出旨先格之通御届申

達、且披露も是又先格之通大納言様御元服御祝儀差上候旨致

披露候段右京大夫殿江常阿弥を以無急度申上候

一右京大夫殿廻り相濟柳之間江御出二付紅葉之間廊下二而先江

欠抜凶之所江着座、使者兩人一同二大炊殿被召連凶之所江被

出候付大納言様御元服御祝儀差上候段致披露候、右京大夫殿

御入二付跡二付罷越候

一宝曆十辰年二月廿九日御転任御兼任之節当番牧野越中殿披露

ハ兩本願寺新門此度之御祝儀与披露有之候所其節者兩本願寺

共二新門有之候、此度ハ西本願寺計新門有之候二付先格相糺

候処宝曆十三未年正月廿七日当番大岡兵庫頭若君様御誕生之

御祝義之節兩本願寺并西本願寺新門方以使者御太刀馬代差上候節若君様御誕生御祝義差上候段披露有之候、依之美濃守土佐殿江も掛合候処大納言様御元服御祝儀差上候与披露いたし可然旨被申越候付其通相濟候

但右絵図者別本二有之候付略之

一右使者西丸二而謁候儀寺社奉行方但馬守殿江被伺候処御見廻り無之候間奏者番謁可申旨被仰聞候段休阿弥申聞候、此間土佐殿江及対談但馬守殿見廻り無之節者御老中謁之分九打候得共当番謁二極り候事二付寺社奉行江西丸当番謁之儀休阿弥申聞候得共、美濃守義八西丸謁之儀伺不申尤西丸当番江此方右之段不申遣候、昨日土佐殿江申談置候二付別段二此謁之義伺申間敷旨休阿弥江咄置候

明和三戌年六月六日

追而

一明日兩本願寺使者御暇拝領物有之候段大炊殿被申聞候付添御番順二而土佐守罷出候様申遣候

同年同月七日

助番

久世出雲守

時服二

御暇

西本願寺使者

嶋田帶刀

同

東本願寺使者

飼田大膳

右於柳之間右近將監奉書相渡拝領物頂戴之

追而

一今日濟昨日越中守廻状之通御番順二而土佐守可罷出処頼二付対馬守被出候

明和四亥年七月廿八日

当番

牧野越中守

一築地本願寺より為八朔御祝義御帷子単物二以使僧差上之於檢之間拙者謁目錄之俣周防守殿江以休阿弥差出候
但先格二付不及伺謁目錄之俣以御同朋差出候

明和六丑年二月廿五日

当番

牧野遠江守

大僧正御礼

右出座於御上段御対顔御太刀目錄高家披露御右之方着座老中御取合申上退去之節御下段迄御送御太刀目錄高家引之

西本願寺新門跡

但本願寺新門跡与披露相濟

一御向之明障子高家開之

地下 披露

撰家方 大和

昭高院御門跡

使者

知恩院御門跡

使者

門滿院門跡

使者

西本願寺新門跡

家來

大炊御門大納言

家來

西伝 奏

家老

樂人惣代

御冠師

御烏帽子師

御末広師

右撰家衆御門跡方使者本願寺新門大炊御門大納言家來伝奏家

老樂人惣代御冠師御烏帽子師御末広師与披露

但伺之上右之通相濟

明和六丑年五月朔日

御白書院

当番

土井大炊頭

帰京之御礼

西本願寺新門使者

披露長袴

高家衆

下間大進

御太刀金馬代

但御太刀御上段壺暈目馬代上方三暈目進物番長袴持之

右本願寺新門跡者長沢壺岐守披露御取合有之

一西本願寺方新門帰京之為御礼以使者二種御樽代千疋差上之同

人以順阿弥就指図於柳之間拙者謁目錄之俣同人江以同人差出

候

西丸

当番

仙石越前守

一西本願寺新門帰京之為御礼御太刀馬代黄金十兩贈西本願寺右

二付為御礼干鯛一箱御樽代千疋以使者差上之、右使者西丸江

不罷出候由御本丸当番大炊頭方申越候付御本丸江家來差出為

受取半切認之

明和五子年六月朔日

当番

松平丹波守

一 浅草本願寺端午之御祝儀差合二付延引今日以使僧御帷子单物

二 差上之於蘇鉄之間家来為受取半切認之右近將監江以順阿弥

差出候

明和五子年九月朔日

当番

仙石越前守

浅草

本願寺

二種一荷

右者万寿姫君様御結納御祝儀以使僧差上之右近將監殿以順阿

弥就御差図於柳之間拙者謁目錄之俣御同人江以休阿弥差出候

宝曆三酉年七月廿八日

当番

井上河内守

一 築地本願寺方八朔之御祝儀以使僧差上之於松之間謁目錄之俣

差出候 来月御用番江指出候様被仰聞指図相济候、来年茂先

当月之御用番へ差出可然旨順阿弥申候由此已後共右之通心得

可申哉与順阿弥申談候 処いつれにも当月之御用番江指遣可然

旨同人申聞候事

明和七寅年五月朔日

当番

牧野越中守

御白書院

婚姻之御礼

二種一荷

西本願寺新門使者

下間宰相

一 西本願寺方新門婚姻之為御礼以使者二種御樽代千疋差上之右

京大夫殿就御指図於柳之間拙者謁目錄之俣御同人江以三阿弥

差出候

追而

一大納言様江西本願寺并新門方献上物西丸当番兵庫頭家来差

出於蘇鉄之間為請取候

同月

西丸当番

大岡兵庫頭

一 西本願寺新門為婚姻之御礼二種一荷西本願寺方も就同断二種

御樽代千疋以使者差上之、右使者西丸江不罷出候由御本丸当

番越中守方申越候付先例之通御本丸江家来差出為受取半切認

之

増上寺之部

一 御礼之節披露進物番共二長袴致着候

一 自分御礼事二八披露進物番共二半袴

一 登城候得者御白書院御縁類二而御用番御逢当番溜二罷在候当

番謁候様二御差図有之候得者御下段際御敷居内迄送り申候

一 登城可有之処病氣等二而代僧罷出候得者御老中御逢候

宝永六丑年五月廿七日

当番
安藤長門守

一 増上寺より將軍宣下之御祝義御能有之候付御干菓子一箱差上

之候得共朝献上之格二而使僧二当番謁不申候

同 年十一月四日

当番
安藤長門守

一 御移徙二付増上寺方二種一荷以使僧御祝義差上之

右両様但馬守殿御差図二付於檢之間当番逢申候由

正徳二辰年十二月七日

当番
石川近江守

一 増上寺方丈方以使僧御中陰明二付兩種差上之加賀守殿御差図

二付於檢之間拙者謁右之目錄則加賀守殿江差出之候

同 三巳年三月廿七日

当番
朽木民部少輔

一 御元服為御祝儀増上寺方丈方以使僧昆布一箱差上之於檢之間

拙者謁目錄之俣差出候

同 三巳年十一月廿一日

当番
高木主水正

一 月光院様御叙位之為御祝儀増上寺方丈方二種五百疋以使僧差

上之、大和守殿就御差図当番主水正於檢之間請取申候、但横目

録二而御樽代被差上候間有合被申候、同役衆江主水正被手合

候処横目録二而差上候儀覺不申候由被申候間大和守殿江以伝

阿弥目録之俣近辺一紙認差出候様二と思召候ハ、認二而可差

出由申達候処、其已後右目錄大和守殿奥坊主を以御納戸江遣

候様二と被仰聞候間御納戸江遣候之由廻状二申来候事

正徳三巳年十二月二日

当番
松平宮内少輔

一 増上寺方丈寒氣為御尋御檢重被遣候為御礼病氣二付使僧差上

之、大和守殿御差図二付於例席拙者謁申候

同年十二月廿四日

当番
安藤右京亮

一 増上寺大僧正行歩不自由二付以使僧為歳暮之御祝義御茶一袋

野老一箱差上之於檢之間但馬守殿御逢候、追而書二從増上寺

例年与違以使僧歳暮差上候付出羽殿被相伺候処右之通但馬守

殿御逢候由申来候事

同六年申六月廿一日

当番
松平兵庫頭

候、此節伝通院茂御白書院於御縁類御老中御逢候

一御中陰明二付増上寺方丈方以使僧兩種差上之御差
二付於松之間拙者謁目錄之俣河内守殿江差出候

享保二十卯年正月廿八日

当番
高木主水正

同年六月廿一日

当番
安藤右京亮

一御移徙之為御祝儀増上寺大僧正方一種一荷以使僧差上之御差

三東二卷

増上寺大僧正

二付於松之間拙者謁目錄之俣河内守殿江差出候

右増上寺大僧正と披露着座大僧正被退進物を引申候

享保九辰年十二月十日

当番
土屋但馬守

増上寺名之下二左之通廻状二致附紙申遣候

一増上寺方丈江靈仙院様二十七回御忌二付今朝以御名代御香奠

先例之通御前江一度出相濟候進物二通り有之候へ共一通

被遣候為御礼登城於御白書院御縁類左近殿御逢候

り御前江出候

享保十己年五月二日

当番
本多豊後守

元文四未年九月十四日

当番
松平紀伊守

一大納言様御元服御官位為御祝儀増上寺方丈方以使僧昆布一箱

一増上寺大僧正御修復御礼之節披露并進物ともに半袴着用御礼

差上之於松之間拙者謁目錄之俣左近將監殿江差出候

畢而着座有之

享保十九寅年十二月廿四日

当番
朽木土佐守

同六酉年正月廿三日

当番
土井甲斐守

一歳暮之為御祝儀増上寺方丈病氣二付以代僧御茶一箱野老一折

一増上寺大僧正竹千代様御袴着為御祝義昆布一箱御樽一荷以使

差上之、同断二付伝通院登城蜜柑一箱差上候、然処増上寺方丈

僧差上之中務大輔殿江相同於松之間拙者謁目錄之俣御同人江

病氣二付代僧差出候、先格御用番伊豆守殿方御尋二付ケ様之

以順阿弥差出候

節者代僧江御老中御逢候先格申達候付於松之間伊豆守殿御逢

寛延二己年七月十五日

当番
稲葉丹後守

一 盆料被遣候為御礼増上寺方丈病氣以代僧申上之右近將監殿江

以順阿弥伺之上於檢之間拙者謁同人を以申達候

一 増上寺方丈江從西丸以上使被下物有之節都而御本丸江者御礼

登城無之候、此儀寛延二巳年十二月廿一日土佐殿承合相濟候

一 増上寺方丈謁古格ハ桜之間中程迄送り候、当時ハ御白書院御

縁頼御敷居内迄二相成候、古格者加賀守を茂送り候由土佐殿

相伝有之候

右寛延四未年五月十九日土佐殿申談

当番

太田備後守

宝曆六年九月十五日

御白書院

三東二卷

住職大僧正之御礼

増上寺大僧正

右進物一通り御前江出披露相濟着座進物引候而御取合有之而

退去

一 増上寺大僧正先格之通御礼相濟着座候ハ、直二進物引可申旨

左衛門尉殿江以春阿弥申達其通相濟申候、尤進物二通り有之

候得共如先格一通り御前江差出披露進物番共二長袴二而相濟

申候、此段為御心得申進候

宝曆十一巳年四月廿八日

当番

松平和泉守

一 増上寺大僧正黒本尊堂御修復之御礼之節伺之上如先格着座有

之披露進物番共二半袴

宝曆十四申六月九日

当番

土井大炊頭

一 増上寺方丈江瑞春院様二十七回御忌二付今朝以御名代御香奠

被遣候二付登城於御白書院御縁頼右京大夫殿御逢候

同年九月廿日

当番

加納遠江守

一 増上寺方丈月光院様御法事相濟候二付登城昨日以上使御布施

物被遣候為御礼罷出右京大夫殿御差函二付於御白書院御縁頼

拙者謁御同人江以常阿弥申達候

当番

朽木土佐守

明和二酉年十一月十一日

増上寺方丈万寿姫君様為御深曾義御祝儀以使僧昆布一箱差上

之周防守殿江相同於檢之間拙者謁目錄之俣御同人江以三阿弥

差出候

当番

松平備中守

寛保元酉年九月朔日

追而

一御転任并御兼任御元服御祝儀増上寺方丈以使僧昆布一箱ツ、

差上之於桧之間拙者謁目録之俣御同人江以同人差出候

同年同月五日

当番
松平伊賀守

一今五半時過右大將様從西桔橋被為入御白書院右大將様出御日

光御門跡御対顔相濟大広間江出御増上寺方丈其外出家中并見

物之面々一同御目見九半時過被遊還御候

一此度之為御祝儀御能有之、日光御門跡御白書院御上段御饗応

増上寺方丈竹之間其外出家中并見物之面々於席々御料理被下

之

一御能二付從増上寺方丈以使僧御干菓子一箱差上之伊豆守殿江

伺之上桧之間今日御勝手相成候故於医師之間拙者謁目録之俣

御同人江以順阿弥差出候

同年同月六日

当番
松平紀伊守

増上寺方丈

右昨日之為御礼登城於御白書院御縁類伊豆殿逢被申候

宝曆十辰年二月廿一日

当番
黒田大和守

一四時前公方様右大將様御白書院出御日光御門跡御対顔相濟大

広間江渡御増上寺方丈其外出家中并見物之面々一同御目見

一此度之為御祝儀御能有之日光御門跡御白書院御上段御饗応増

上寺方丈竹之間其外出家中并見物之面々於席々御料理被下之

一御能二付増上寺方丈方以使僧御干菓子一箱差上之左衛門尉殿

江伺之上於医師之間拙者謁目録之俣御同人江以春阿弥差出候

追而

一増上寺使僧阿部伊勢守使者御能二付桧之間御勝手相成候故於

医師之間謁申候

同年三月五日

当番
松平和泉守

増上寺方丈

右去月廿一日御能見物之為御礼登城於御白書院御縁類相模守

殿御逢候

同年九月廿九日

当番
内藤大和守

一今五半時前御白書院出御日光御門跡御対顔相濟大広間江渡御

増上寺方丈其外出家中并見物之面々一同御目見

一將軍宣下之為御祝儀御能有之、日光御門跡於御白書院御上段

御饗応増上寺方丈竹之間其外出家中并見物之面々於席々御料

理被下之

一御能二付増上寺方丈を以て使僧御干菓子一箱差上之右近將監殿へ伺之上於医師之間拙者謁目録之俣御同人江以三阿弥差出候

追而

一増上寺方丈使僧御能二付檢之間御勝手二相成候故於医師之間

謁申候

宝曆十辰年九月晦日

当番
酒井飛驒守
増上寺方丈

右昨日御能見物之為御礼登城於御白書院御縁頼右近將監殿御

逢候

同年二月廿九日

当番
牧野越中守

追而

一御転任御兼任之御祝儀増上寺方丈を以て使僧昆布一箱充差上之

於檢之間拙者謁目録之俣御同人江以同人差出候

但右者先日四品以上右御祝義之使者二付今不及伺謁候様御指図相濟候事故不伺申謁申候、乍去無急度右之いりわり春阿弥迄咄置申候

り春阿弥迄咄置申候

一常八四品以上在着等之使者出候而も御目付衆を申上当番より

ハ申上候儀二ハ無之候、増上寺使僧二限り当番を御逢候哉之儀伺申候、今日ハ右之趣与ハ違前条之通相濟申候

宝曆十三年十一月朔日

当番
土井大炊頭

御修復之御礼

三束二卷

増上寺大僧正

右御鋪居之内二疊目二而御礼披露相濟如例着座進物引て過而御取合上意又御取合有之

附札

右近將監殿江申達先格之通御礼畢而着座直二進物引之御取合有之披露進物番共二半袴二而相濟申候

明和三年五月廿七日

当番
土屋能登守

一今四時前御白書院出御日光御門跡御対顔相濟大広間江渡御増上寺方丈其外出家中一同御目見

一大納言様御元服御官位為御祝儀御能有之、日光御門跡於御白書院御上段御饗応増上寺方丈竹之間其外出家中於席々御料理

被下之

同年同月廿八日

当番
土井大炊頭

増上寺方丈

右昨日御能見物之為御礼登城於御白書院御縁頼右京殿逢被申

右昨日台徳院様御靈屋正遷座相濟候付以上使御施物被遣且衆
僧江も被下物有之候為御礼登城於御白書院御縁頼右近將監殿
御逢候

候

明和三戌年十月十九日

当番
久世出雲守

同年同月廿九日

当番
土岐美濃守

追而

一増上寺方丈台徳院様御靈屋御供番相濟候付罷出於御白書院御
縁頼右近將監逢申候

一大納言様御元服御祝義知恩院方丈方二十帖一卷増上寺方丈方

明和三戌年十二月朔日

当番
戸田采女正

昆布一箱御樽一荷以使僧差上之於松之間拙者謁目錄之俣右近

一今日於御黒書院伝通院増上寺江住職被仰付当番御三家御案内

將監殿江以常阿弥差出候

申溜り二罷在夫方惣披露之席江罷出住職之方江ハ当番無構

一知恩院増上寺使僧謁之義先格宝曆十辰年御転任御兼任之御

明和三戌年十二月廿四日

当番
戸田采女正

祝義物差上候節当番牧野越中守先達而右御祝義之使者四品

一伝通院歳暮之御祝儀未住職之御礼不申上候付今日献上物無之

已上然二自今不及伺謁候様御指図相濟候故右使僧茂伺不申

由

被謁候、然所近頃御祝義物差上候使僧何茂伺之上謁二相成

明和三戌年十二月十五日

当番
戸田長門守

候、土佐殿二も伺無之謁候方可然旨被申候付常阿弥江先格

住職大僧正之御礼

之儀申達於松之間御目付衆出席謁申候

住職大僧正之御礼

牧遠江
長袴
増上寺大僧正

明和三戌年六月六日

当番
牧野越中守

右進物一通御前江出披露相濟着座進物引之候而御取合有之上

増上寺方丈

意又御取合有之而退去

但被扇子持出候事如先格進物番共長袴進物御敷居之内三疊

目大僧正之御礼之進物ハ御前江不出

一増上寺進物之儀住職之御礼献上物計如先格御前江差出候段当

番方伊予守殿江以御同朋頭申達候

一増上寺住職之御礼之節前方之留二ハ上意之儀無之候処認落与

相見候、今日上意有之候付認置候事

享保十九寅年十二月廿四日

当番
朽木土佐守

△一増上寺方丈就持病氣以使僧歳暮之御祝儀申上献上物有之旨右

之例無之、正徳三巳年祐天住職之節就病氣歳暮之御祝儀献上

物仕於檢之間御用番御逢候旨増上寺方留書二有之旨寺社奉行

衆伊豆守殿江被申上候、且伝通院計罷出候節御用番御逢候哉

是者難相知候旨、増上寺使僧并伝通院共二御用番可被成御逢

哉是又不相知候旨、右二付先格御吟味有之候由余程間有之、伊

豆守殿御白書院御縁頬鯉之御杉戸前二着座、伝通院罷出歳暮

之御祝儀申上退キ伊豆守殿檢之間江御越候、信濃殿遠江殿先

江被参候、当番茂紅葉之間方先江欠拔檢之間縁頬二而見合伊

豆守殿御着座候而柱之所罷出候増上寺使僧信濃殿召連罷出、

当番目錄受取伊豆守殿前江持参増上寺方丈与申指出直二元之

所二罷在信濃殿歳暮之御祝儀差上候段被申伊豆守殿御挨拶有

之候、檢之間絵図左之通

「 図 ⑥ 」

明和四亥正月廿四日

当番
内藤大和守

一今日増上寺住職後初而御参詣二付拝領物有之御礼登城之段当

番内藤大和守江美濃守申達候、仍之右京大夫殿退出之節方丈

御礼登城候ハ、居残謁之義相伺候処先格之通可致旨被仰聞居

残之謁候、退出後当番裏附被着替候、尤例者不相知候得共月次

居残之節之例を以今日平服二着替候旨被申聞候事

宝曆十三癸未年六月廿三日

前々者増上寺明日之為御礼登城有之二付当番居残之義相伺候

処、今日者加役衆被申談全体上使二而被仰遣候儀二候得者表

向一同二承知之事候、今日者奉書二而被仰遣候儀表向江者相

知不申事二候処居残候茂却而如何と評義有之、右近殿江内々

被伺候処成程尤二被存候由、只今迄居残伺候儀却而如何と向

方二而も御評義有之由被仰聞候由二而今日其通り相濟、此已

後右之節伺不申候事二相成候事

明和四丁亥年六月廿五日

当番
土屋能登守

一 惇信院様七回御忌御法事相濟候二付明廿六日増上寺方丈御料

理被下候間今日為御礼登城有之、前之御奏者番居殘謁可申旨

伺有之候処宝曆十三未年和泉守演説も有之二付酉年有章院様

御法事之節も居殘伺無之、依之当番順阿弥被懸合今日も居殘

伺無之相濟申候、和泉守殿演説左之通

増上寺方丈御料理被下候前日為御礼罷出候付居殘候義近

格伺候得共、奉書を以被仰出候儀表江不相知候事故居殘

伺不申候段右近將監殿以春阿弥当番和泉殿被申達其通相

濟申候、已後右体之節者伺二不及候、為心得和泉殿方部屋

二而追々被申達候

明和四丁亥年十一月廿七日

当番
遠藤備前守
上使安部助九郎
増上寺方丈

右八代蜜柑被遣之

一 右為御礼増上寺方丈登城候ハ、居殘御番之者謁可申哉与右京

大夫殿江相伺候処其通可致旨被仰聞候付丹波殿江申達置候

但今日遠御成二付丹波殿居殘為御番被罷出候処御殘御老中

周防殿増上寺登城之節於御白書院御縁頼御逢候

元文二巳年七月十八日

卷物五

一種

右者竹千代様御誕生之為御祝儀被遣之右為御礼増上寺方丈登

城候ハ、謁候様中務大輔殿御差図二付居殘七打候迄見合候得

共登城無之付罷出候

宝曆十二年十二月廿四日

縮緬五卷

一種

右若君様御誕生之為御祝儀被遣之

追而

一 増上寺方丈拝領物之為御礼登城候ハ、拙者謁可申哉与御同

人江以同人相伺候処可致其通旨被仰聞居殘候処七打候迄登

城無之付罷出候、以上

明和五子年九月廿日

当番
土岐美濃守

増上寺方丈

右月光院様御法事相濟候二付登城且昨日以上使御布施物被遣候為御礼罷出右近將監殿就御差図於御白書院御縁類拙者謁御

同人江以同人申達候

明和六丑年四月十三日

昆布一箱

当番 大岡兵庫頭
増上寺方丈

右万寿姫君様御紐解為御祝儀以使僧差上之周防守江相同於松

之間拙者謁目錄之俣同人江以三阿弥差出候

明和四亥年三月十三日

当番 戸田采女正
増上寺方丈

右昨日御台様被遊御参詣候付拝領物仕候為御礼登城於御白書

院御縁類周防守殿御逢候

明和四亥年十一月廿五日

御檢重一組

助番 松平丹波守
上使 増上寺方丈

右寒氣為御尋被遣之

一右為御礼増上寺方丈登城候ハ、拙者謁可申哉与右京大夫殿江

以順阿弥相伺候処可致其通旨被仰聞候付居殘申候

追而

一八打右京大夫殿以順阿弥御断二而御座候、七打候迄増上寺方丈登城無之付罷出候、已上

明和五子年十二月十九日

助番 土屋能登守
上使仙石治兵衛 増上寺方丈

右八代蜜柑被遣之

追而

一増上寺方丈八代蜜柑被下候為御礼登城候ハ、拙者謁可申哉与

周防守江以三阿弥相伺候処可致其通旨申聞候得共七打候迄登

城無之候、尾張殿水戸殿江懸御目七時過罷出候、已上

宝曆三酉年八月廿三日

深川 霊岸寺江

当番 鳥居伊賀守
増上寺伴頭 湖天

右住職被仰付之旨於御白書院御縁類御老中列座隱岐守殿被仰

渡之

追而

一増上寺方丈不快二付住職被仰渡之節出席無之候

寺社之部

一 知恩院方丈御礼之節披露進物番共長袴

一 東海寺護持院被為御腰掛翌日為御礼罷出候得者御用番江伺之上於柳之間謁可致言上旨申聞御同朋頭御用番江申上候

一 上於柳之間謁可致言上旨申聞御同朋頭御用番江申上候

一 伝通院歳暮之御祝儀登城候得者御用番御白書院御縁頼二而御

逢候、当番溜二罷在候当番謁候様御差込候得者御下段隅之柱

之所二而謁送り不申候

一 伝通院歳暮之御祝儀病氣二付以使僧申上候節八家来二為請取

候

一 寺院江御暇拝領物有之節何人二而も一度二寺社奉行召連罷出

老中被仰渡候、已後拝領物頂戴之場所二着座広蓋口式ハ取候

而渡之不残相济候、以後退座為御礼罷出候節之寺社奉行召連

罷出候事

宝永二酉年正月廿九日

当番 三宅備前守

一金地院より御養君様被仰付候御祝儀両上様江以代僧日光西堂

差上之於柳之間佐渡守殿御逢候

同年四月二日

当番 松平弾正忠

一金地院より公方様大納言様江御昇進の為御祝儀以使僧昆布一

箱ツ、差上、本多弾正殿備前殿被申候ハ前遍方ハ使僧輕候之

間私逢候二も及申間敷由二付家来二為受取半切認以順阿弥丹

後守殿被差出申候

宝永四亥年九月十五日

当番 本多弾正少弼

一家千代様御誕生之御祝儀公方様大納言様家千代様江知恩院方

丈与里使僧差上之於柳之間相模守殿佐渡守殿御逢候

正徳六申年六月廿五日

当番 松平対馬守

昆布一箱

山王别当 護持院大僧正

昆布一箱

觀理院権僧正

御樽一荷

右者御移徙之為御祝儀差上之右何茂家来二為受取半切認河内

守殿江指出申候

享保元申年九月九日

当番 松平兵庫頭

一 護国寺大護院昌泉院伊吹左京向後五節旬月次之御礼不及罷出

旨寺社奉行衆江山城守殿被仰渡之由及承候、為御心得申進候

同九辰年七月廿三日

当番 黒田豊前守

一 護持院昨日被為掛御腰候為御礼罷出候処拜領物被仰付之旨於

享保十巳年五月三日

当番
土岐丹後守

柳之間對馬守殿被仰渡頂戴之

一大納言様御元服御官位之為御祝儀護持院護国寺与里二束二卷

同十巳年五月二日

当番
本多豊前守

一大納言様御元服御官位為御祝儀知恩院方丈從京都以使僧二束

ツ、大護院方昆布一箱根生院与り一束一本樹下民部芝崎宮内

一卷差上之檢之間拙者謁一紙目錄認左近將監殿江差出候

より千鯛一箱ツ、差上之於廊下家来二為受取半切認之左近將

一就同断從増上寺方丈以使僧昆布一箱差上之於檢之間拙者謁目

同十六亥年十二月十一日

当番
高木主水正

録之俣右御同人江差出候

一 左近將監殿被成御渡候由上田能州被相渡候御書付

一同断二付伝通院金地院觀理院伝法院方以使僧昆布一箱ツ、差

御奏者番衆

上之家来為受取半切認右御同人江差出候

寺社奉行衆

一就右同断大納言様江知恩院増上寺方以使僧右同様二差上之於

諸国寺社山伏来子ノ年方御年礼二罷出候

檢之間拙者謁知恩院ハ半切認、増上寺ハ目錄之俣并伝通院金

定

地院觀理院伝法院方以使僧右同品差上之家来二為受取是又半

一 当亥春迄毎年罷出候分向後三年目可罷出候

切別紙二認、右増上寺之目錄并半切両通共二左近將監殿江差

一 隔年に罷出候分向後四年目

出候処對馬守殿追付可有被出候之間對馬守殿江差出候様ニと

一 三年目尔罷出候分向後五年目

被仰聞候付對馬守殿江差出候処、大納言様江指上候分ハ二丸

一 四年五年六年目尔罷出候分向後七年目

当番方差出可申儀之旨被仰候付丹後殿江右之趣申達之、右増

一 七年目方相延候分者当春迄之通

上寺方之目錄并半切両通共二被差出候

但 当春迄年々罷出候年よりの積を以向後御定之通可罷出候

一江戸与里式拾里四方只今迄之通可罷出候、且亦寺院惣代并代

同年二月十二日

当番 本多紀伊守

僧神主社家等名代を以御礼等差上来候分ハ只今迄之通可相心得候、右之通御料者御代官私領ハ領主并地頭方可被申付候、承

一知恩院方丈竹千代様御袴着之為御祝儀二束一卷以使僧差上之左近将監殿御差図二付於桧之間拙者謁目録之俣御同人江以順

合候儀有之候ハ、寺社奉行江可被談候、已上

阿弥指出候

亥十一月

延享三寅年四月十五日

当番 増山弾正少弼

右之通可被相触候

一品川東海寺昨日被為掛御腰御目見被仰付蒙上意拜領物仕候為御礼罷出雅樂頭殿以良阿弥就御差図於柳之間拙者謁申候

享保廿一辰年正月十三日

当番 松平備中守

一品川東海寺昨日御成之節被為掛御腰其上拜領物仕候為御礼罷

宝曆十二年正月六日

当番 戸田采女正

出左近将監殿就御差図於柳之間拙者謁申候

一伝通院年頭之御祝儀就病氣以使僧一束一卷差上之於蘇鉄之間

同年五月四日

助番 丹羽式部少輔

家来為受取半切認之右京大夫殿江以良阿弥差出候

一護持院昨日御成之節被為掛御腰其上拜領物仕候為御礼罷出伊

同年十月廿三日

当番 内藤大和守

豆守就御差図於柳之間拙者謁申候

一護持院昨日御成之節被為掛御腰御目見被仰付蒙上意拜領物仕候為御礼罷出河内守殿就御差図於柳之間拙者謁右近将監殿江

元文六酉年正月廿三日

当番 土井甲斐守

一竹千代様御袴着為御祝儀從伝通院凌雲院僧正護持院權僧正觀

三阿弥以申達候

同年十一月廿七日

当番 戸田采女正

理院權僧正昆布一箱ツ、使僧を以差上之、樹下民部以使者干

一金地院凌雲院前大僧正静慮院僧正伝通院覺樹王院靈雲院より

認之

若君様御誕生御祝儀昆布一箱ツ、以使僧指上之右何茂於蘇鉄

之間家来二為受取半切認之但馬守殿江以春阿弥差出候

一増上寺方丈若君様御誕生御祝義以使僧昆布一箱差上之於檢之

間拙者謁御同人江以同人差出候

一知恩院方丈若君様御誕生御祝義使僧を以二束一卷指上之御同

人江相伺於檢之間拙者謁目錄之俣御同人江以同人差出候

宝曆十二年十二月廿四日

当番 大岡兵庫頭

一伝通院歳暮之御祝儀就病氣以使僧蜜柑一箱差上之於蘇鉄之間

家来為受取半切認之右京大夫殿江良阿弥ヲ以差出候

明和二酉年十一月五日

助番 板倉美濃守

一万寿姫君様御深曾幾為御祝儀金地院觀理院權僧正護持院隱居

方以使僧昆布一箱ツ、樹下采女方以使者干鯛一箱差上之、右

何茂於蘇鉄之間家来為受取半切認之周防守殿江以常阿弥差出

候

明和三年正月廿九日

当番 加納遠江守

一若君様御襤着御祝儀二付増上寺方丈以使僧昆布一箱御樽一荷

并觀理院權僧正樹下采女同断御祝儀罷出就御差函以目付立合

被謁候、但觀理院樹下采女先格伺無之謁候旨土佐守方遠江殿

江申来候得共去酉年御名被進候節当番板倉美濃殿伺之上謁二

付今日も右之通相濟申候

明和三戌年二月十八日

当番 牧野越中守

一知恩院方丈若君様御袴着為御祝儀杉原二十帖金入一卷以使僧

差上之左近將監殿江相伺於檢之間拙者謁目錄之俣御同人江以

三阿弥差出候

寛保元酉年九月朔日

当番 松平備中守

一御転任并御兼任御元服之御祝儀専修寺方以使者御太刀馬代銀

子五枚ツ、差上之

一御転任之御祝儀金地院方昆布一箱護持院權僧正護国寺与里二

十帖一卷ツ、大護院方昆布一箱根生院与里十帖壹本觀理院權

僧正方昆布一箱大乘院方干鯛一箱以使僧差上之、樹下民部芝

崎宮内方干鯛一箱充以使者差上之

一御兼任御元服御祝儀金地院方昆布護持院權僧正与里二十帖一

卷以使僧差上之右何茂於蘇鉄之間家来為受取半切認左近將監

殿江可差出候所最早退出二付無其義候、明日可差出候

寛保元酉年九月四日

当番 松平右近將監

一御転任御祝儀從池上本門寺以使僧昆布一箱差上之於蘇鉄之間

家來為請取半切認伊豆守殿江以順阿弥差出候

宝曆十辰年二月廿九日

当番
牧野越中守

一御転任之御祝儀金地院凌雲院前大僧正觀理院僧正静慮院僧正

方昆布一箱充護持院權僧正方二十帖一卷伝通院本門寺覺樹王

院昌泉院与里昆布一箱充根生院方十帖一本靈雲院方昆布一箱

大乘院方干鯛一箱以使僧差上之、樹下民部伊吹左門芝崎豊後

方干鯛一箱ツ、以使者差上之

一御兼任御祝儀金地院方昆布一箱護持院權僧正より二十帖一卷

以使僧差上之右何茂於蘇鉄之間家來為受取半切認之左衛門尉

殿江以春阿弥指出候

同年三月十五日

当番
毛利讚岐守

一御転任御兼任御祝儀從專修寺以使者御太刀馬代銀子五枚充差

上之於蘇鉄之間家來為請取半切認之

一御転任之御祝儀大護院方以使僧昆布一箱差上之於同席家來為

請取半切認之右何茂相模守殿江以三阿弥指出候

同年三月廿一日

当番
黒田大和守

一御転任御兼任之御祝儀從知恩院前大僧正二十帖一卷ツ、以使

僧差上之於桧之間拙者謁目錄之俣御同人江御同人を以差出候

宝曆十三未年三月二日

当番
戸田采女正

二束一卷

知恩院方丈

一種一荷

増上寺方丈

右者若君様御色直為御祝儀以使僧差上之御同人江御伺於桧

之間拙者謁目錄之俣右京大夫殿江以春阿弥差出候

觀理院權僧正

樹下采女

右同断為御祝儀罷出御同人御指図二付於柳之間拙者謁御同人

江以同人申達候

追而

一若君様御誕生為御祝儀專修寺方御太刀馬代黄金十両二種一荷

以使者差上之如先格蘇鉄之間ニおゐて家來為受取半切認之

一若君様御色直之為御祝儀從金地院凌雲院前大僧正觀理院權僧

正護持院權僧正伝通院靈運院昆布一箱充以使僧差上之、樹下

采女より干鯛一箱以使者差上之右何茂於同所家來為受取半切

兩通認之右京大夫殿江以春阿弥差出候

宝曆十三年九月十一日

当番 牧野越中守

一若君様御宮參御祝儀從金地院凌雲院前大僧正伝通院昆布一箱

充以使僧差上之蘇鉄之間おゐて家来為請取半切認之但馬守殿

江以良阿弥差出候

明和元年申年十一月五日

当番 松平能登守

杉原二十帖

金入一卷

知恩院方丈

昆布一箱

御樽一荷

増上寺方丈

右若君様御髮置之為御祝儀以使僧差上之右京大夫殿江相同於

檢之間拙者謁目錄之俣御同人江以常阿弥差出候

觀理院權僧正

樹下采女

右同断為御祝儀罷出御同人就御差図於柳之間拙者謁御同人江

以同人申達候

同年十一月廿七日

当番 仙石越前守

一若君様御髮置之御祝儀從専修寺二種一荷以使僧差上之如先格

於蘇鉄之間家来為請取半切認之周防守殿江以常阿弥差出候

明和三戌年四月十六日

当番 西尾主水正

一大納言様御袴着御祝儀從専修寺二種一荷以使僧差上之如先格

於蘇鉄之間家来為受取半切認之右近殿江以常阿弥差出候

同 五月廿九日

当番 土岐美濃守

一大納言様御元服御祝儀知恩院方丈方二十帖一卷増上寺方丈方

昆布一箱御樽一荷以使僧指上之於檢之間拙者謁目錄之俣右近

將監殿江以同人指出候

一右同断御祝儀金地院凌雲院前大僧正方昆布一箱ツ、護持院權

僧正より二十帖一卷觀理院權僧正伝通院本門寺方昆布一箱充

以使僧差上之、樹下采女芝崎豊後方干鯛一箱ツ、以使者指上

之大乗院方同断一箱以使僧指上之、右何茂於蘇鉄之間家来為

受取半切認之御同人江以同人指出候

同年六月六日

当番 牧野越中守

伝通院

右昨日台徳院様御靈屋正遷座相濟候付御施物被下置候為御礼

罷出御同人就御指図於御白書院御縁類拙者謁右近將監殿江以

常阿弥申達候

一御台様江寺社方献上物ハ惣而当番取扱無之直に御留守居請取

候由

明和三戌年六月廿八日

当番
松平能登守

一大納言様御元服御祝儀専修寺方御太刀馬代銀子五枚以使者差

上之如先格於蘇鉄之間家来為受取半切認之右近將監殿江以三

阿弥差出候

明和三戌年十二月廿四日

当番
戸田采女正

一伝通院歳暮之御祝儀未住職之御礼不申上候付今日献上物無之

由

享保十九寅年十二月廿四日

当番
朽木土佐守

蜜柑一箱

伝通院

右為歳暮之御祝儀登城於御白書院御縁類伊豆守殿御逢候

宝曆三酉年十二月廿九日

当番
金森兵部少輔

蜜柑一箱

伝通院

右為歳暮之御祝儀登城於御白書院御縁類隱岐殿御逢被申候

但廿八日住職之御礼

宝曆十三未年十二月廿九日

当番
土井大炊頭

蜜柑一箱

伝通院

右為歳暮之御祝儀登城於御白書院御縁類御老中御逢候

但廿八日住職之御礼

明和三戌年十二月廿九日

当番
久世出雲守

蜜柑一箱

伝通院

右為歳暮之御祝儀登城於御白書院御縁類御老中御逢候

但廿八日住職之御礼

明和四亥二月三日

当番
松平伊賀守

御代替之御礼申上候付

三井寺惣代

時服二

称讚院

年始之御礼申上候付

同断

右於柳之間右京大夫殿被申渡拜領物頂戴之

追而

一三井寺惣代拜領物兩度罷出頂戴之相濟申候

明和五子年三月十七日

当番

朽木土佐守

品川

東海寺

候、着服ハ常服ニ而謁申候

右昨日御成之節被為掛御腰御目見被仰付蒙上意拝領物仕候為御礼罷出右京大夫殿以三阿弥御指図ニ付於柳之間謁御同人江以同人申達候

但使者先格ニ而御敷居之外迄罷出候、東海寺使者御目見之御礼も申上候得共謁捨ニ而其段者御届無之廻状ニも出シ不申候事

明和四亥年十二月廿四日

当番

朽木土佐守

追而

一伝通院障之義有之今日登城無之献上物も無之由

西丸当番

松平豊後守

延享二丑年二月廿六日

図之通着座謁申候、尤送りハ不致候、

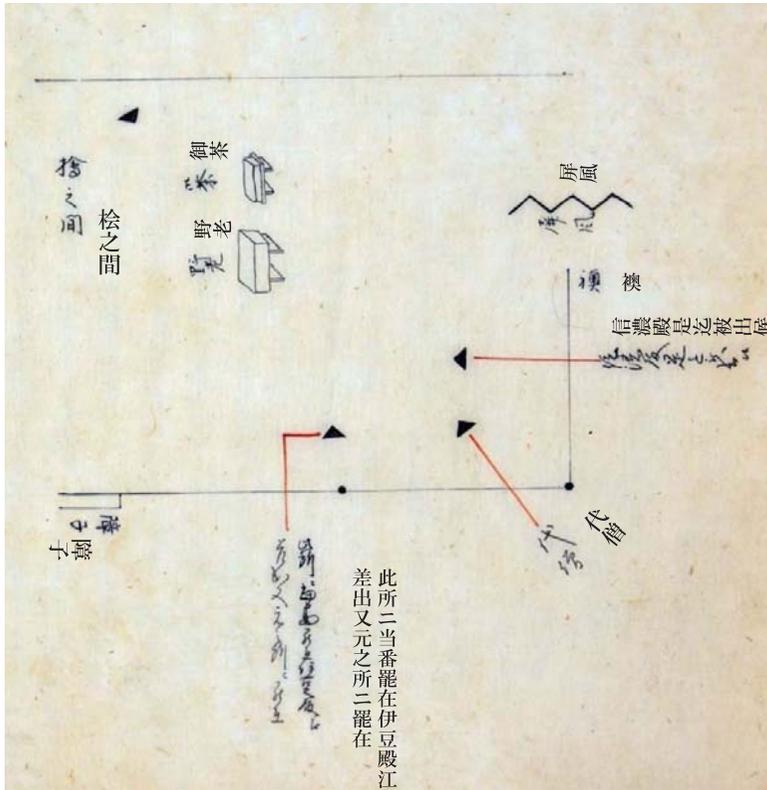
能登守殿直ニ御本丸江登城ニ付助番

「 図 ⑦ 」

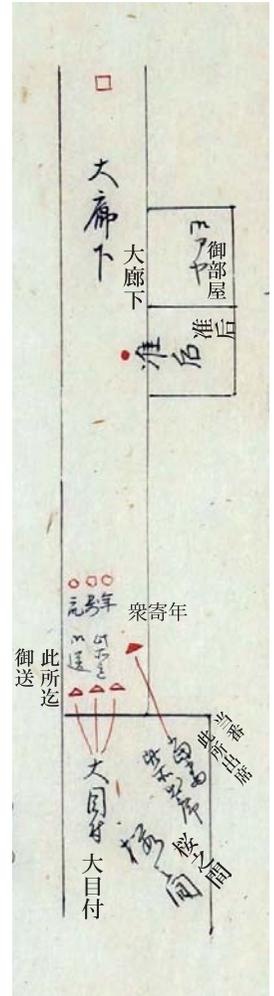
松紀伊守殿江謁伺之義申遣候処則能

登守殿江相伺候得者於殿上之間謁候

様被仰聞候旨被申越候付右之通謁申



[図 ⑥]



[図 ⑤]



[図 ⑦]

東京阿部家資料 文書編(13)

発行日 二〇二三年(令和五年)三月三十日

編集 福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課

歴史資料室

福山市霞町一丁目一〇番一号

〒七二〇・〇八一二

☎〇八四・九三二・七二六四

発行 福山市教育委員会

印刷・製本 株式会社 かもめいと